

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにしているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の 探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の 探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像 に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の 探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」 レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の 探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた 教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の 役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の 役割・職務 (チーム学校運営への対応を 含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する 配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることとなります。教養もともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の 7号館3階 朝日研究室

研究室等	
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにしているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」 レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務 (チーム学校運営への対応を含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることとなります。教養もともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の 7号館3階 朝日研究室

研究室等	
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と1	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第0章1, 配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と2	発達の要因, 主な発達理論の概観	テキスト第8章1, 配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第9章, 配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章, 配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達3	青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章・第12章, 配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能1	思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達	テキスト第7章1, 配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能2	言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達	テキスト第11章, 配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第4章・第5章, 配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び1	さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ	テキスト第1章, 配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び2	さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習	テキスト第1章・第6章, 配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級	テキスト第0章2・第10章, 配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....ATI, 学習方略	テキスト第0章3・第6章・第7章2, 配付資料による本時の予習と復習

関連科目 教職課程におけるすべての科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 小テスト 30%, 期末試験 70%

学生へのメッセージ これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。

担当者の研究室等 7号館3階 (吉田研究室)

備考	Teams コードと科目名 火曜5限: e9cb86b 21前-教職-010-教育心理学 (火5) -吉田 佐治子 木曜1限: ghkw1pp 21前-教職-018-教育心理学 (木1) -吉田 佐治子 木曜5限: h135mtc 21前-教職-023-教育心理学 (木5) -吉田 佐治子 金曜5限: lgnr3zw 21前-00-034-教育心理学 (金5) -吉田 佐治子 Moodle コース名と登録キー 火曜5限: 2021教育心理学 (火5) あるいは 21教心 (火5) 2021EPTUE5 木曜1限: 2021教育心理学 (木1) あるいは 21教心 (木1) 2021EPTU1
----	--

木曜5限：2021 教育心理学（木5）あるいは 21 教心（木5） 2021EPTHU5

金曜5限：2021 教育心理学（金5）あるいは 21 教心（金5） 2021EPPRI5

・ Teams と Moodle を併用します。授業は Teams で、資料配付や授業内試験等は Moodle で行います。なお、授業は録画します（1週間で削除します）。

・ Teams や Moodle の「お知らせ」をよく確認するようにしてください。

・ 期末試験は希望者に返却します。

・ 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。</p>
---------	--

到達目標	<p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>【スケジュール】 授業のスケジュールはおおよそ下記の通りです。</p> <p>【連絡方法】 授業についての連絡やOPPシートの提出は、Teamsを使います。 ※シラバス下部にある Teams コードを使って登録しておいてください。</p> <p>【授業方法】 Moodle を使ったリアルタイム授業を行います。 ※シラバス下部にある自己登録キーを使って登録しておいてください。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の学修内容を確認する 2. 前回の感想・疑問等を交流する 3. 本時の学修内容について自学する 4. 本時の学修内容について意見交流する 5. 本時の学習をまとめる <p>といった流れとなります。</p> <p>※以上は授業中に取り組む内容です。 これ以外に、事前学習と事後学習にも取り組みます。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	<p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p>
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキスト P.3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう？」という問いについて自分の考えをまとめておく。
	2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキスト P.59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
	3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキスト P.59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
	4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキスト P.76～85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
	5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキスト P.69～73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
	6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキスト P.93～97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
	7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキスト P.86～90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
	8	近代の教育思想①： コメニウスの教育思想	コメニウスの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.20～22 及び P.94～95 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	9	近代の教育思想②： ルソー、ペスタロッチの教育思想	ルソー、ペスタロッチらの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.23～25 及び P.77 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	10	近代の教育思想③： ヘルバルト、フレーベルの教育思想	ヘルバルト、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.26～27 及び 81～82 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
11	現代の教育理論①： デューイの教育思想	デューイの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.28～29 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。	

	12	現代の教育理論②： 20世紀の教育理論	20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP. 29～32を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。																
	13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP. 50～54を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。																
	14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP. 147～151を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。																
	15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキストP. 169～178を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>哲学する教育原理</td> <td>伊藤潔志 編著</td> <td>教育情報出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>高等学校学習指導要領</td> <td>文部科学省</td> <td>東洋館出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>哲学する学校経営</td> <td>伊藤潔志 編著</td> <td>教育情報出版</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房	2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房																	
2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版																	
3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版																	
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパー (OPPシート) の内容 (30%) や学期末試験の結果 (70%) 等をもとに総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。																			
学生への メッセージ	授業の中でチャットを使用した対話を多く予定しています。受講者の皆さんの積極的な発言を期待しています。																			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7号館4階 (谷口研究室)																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。																			

科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。
授業方法と留意点	本授業は、授業全体を通して、みなさん一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を熟読し、さらに、それぞれが取得する免許教科の学習指導要領を入手し、熟読しておいてください。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か/オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げている教科書を購入し、授業テーマに該当する分を読み、まとめる。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
5	教育評価 その1	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
6	教育評価 その2	教育課程評価について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
9	新しい教育課程 その2	「アクティブラーニング」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
10	新しい教育課程 その3	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中高編。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
12	教育課程と教育改革 その2	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読み、最終レポートを作成する。

関連科目	教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程(第4版)	田中耕治他	有斐閣アルマ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新教育課程ライブラリ(Vol.1～Vol.12)	(株)ぎょうせい	(株)ぎょうせい
2	ワークで学ぶ教育課程論	尾崎博美他	ナカニシヤ出版	
3				

評価方法(基準)	事前課題・レポートの内容(40%)と最終試験(60%)により総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	指定している「教科書」を活用し、毎時間、事前事後学習をしっかりと行ってください。レポート等の提出物に関しては期日までに提出すること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階(大野順子研究室) 連絡先：j-oono@arc.setsunan.ac.jp
----------	---

備考	2009年度以前入学生は、(高校)教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは授業の進捗状況により少々前後することがあります。 授業で用いる資料等については、適宜印刷し、配布します 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。
----	--

科目名	教育方法論	科目名 (英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、①テキストにもとづいた教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成についての理解、基礎的な授業技術と方略等に関する講義、②授業にあたって留意すべき事項についての授業ミニ講座、③教材の開発及び授業の進め方に関する活動（個人ワーク及びグループディスカッション）で構成する（オンライン授業では、グループでのマイクロ・ティーチングの活動はできないので、3年次以降の授業で取り扱うこととしたい）。</p> <p>授業担当者は、高校現場で34年間にわたり、「授業」を行ってきた経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場ではなく、「作る」立場に転換した能動的な学びを経験することを期待する。</p> <p>より具体的には、つぎのことをめざす。</p> <p>(1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について捉えなおし、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。</p> <p>(2) 「知識や技能を教え込む技術」の習得をめざすのではなく、生徒の生活背景や教室内の人間関係の把握を前提に、教室での突発的な出来事にも柔軟かつ的確に対処し、生徒からのリアクションを教材の文脈にもどしながら、意図的・計画的なカリキュラムを臨機応変に調整することによって、「教室を豊かな学びの場とする授業づくり」を追求する姿勢を身に付ける。</p> <p>(3) 教育実践の質を向上させるためには、上記(2)に関する専門性を個々に向上させるだけでなく、同僚間で相互に学び合う「同僚性」を構築すること、また、教育諸科学の最新の研究から新しい知見を積極的に摂取することの重要性について理解する。</p>
到達目標	<p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。</p>
授業方法と留意点	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第2回から授業方法の変更を行う。原則として時間割通りの曜日・時限で行われる Teams を使用したオンライン授業（リアルタイム方式）を受講すること。</p> <p>第15回の授業の後半で、オンラインを利用したテストを行う。</p> <p>大学のHPやポータル・Teamsでの連絡を見逃すことのないように留意すること。</p> <p>当初予定していたグループでの「マイクロ・ティーチング」の活動（教材作成及び授業実施のグループワーク）はオンラインではできないので、3年次以降の授業で取り扱うこととしたい。</p> <p>授業形態</p> <p>(1) 授業はオンライン（動画配信・リアルタイム方式）で行う。ICTツールは Teams を使用する。状況の変化があれば、対面授業に戻ることもある。</p> <p>(2) 講義資料等は「ファイル」に各授業回別のフォルダーを作り、そこに掲載する。プリントアウトするなり、電子ファイルとして整理するなりして、自分で管理すること。</p> <p>(3) Teams の機能を利用して、授業中に「活動」（ワーク）の時間も設けるので、積極的に参加すること。</p> <p>(4) 毎回、Teams で「課題」の提出を求めるので、遅滞なく提出すること。</p>
科目学習の効果（資格）	教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、教職科目「教育方法論」について	授業のオリエンテーション 講義：今、なぜ教育方法の学なのか・教育方法学の論点と課題 ミニ講座：①授業びらき・授業じまい 課題：印象に残る授業	教科書序章・第3章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
2	学習とは何か（学習論）	講義：学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態 ミニ講座：②褒美と罰 発展：学ぶとはどういうことか 課題：指導方略	教科書第5章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。	
3	子どもたちは何を学ぶのか（教育目標・内容論）	講義：教育目標に関する基本的な考え方、教育目標と内容 ミニ講座：③発問 発展：授業研究 課題：発問と予想される子どもの応答	教科書第4章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。	
4	欧米における授業の歴史（教授論の歴史①）	講義：近代以前の教育、近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開 ミニ講座：④指示・説明・共有 発展：学級の規模と形態 課題：授業形態と学級規模	教科書第1章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。	
5	日本における授業の歴史（教授論の歴史②）	講義：古代から近世の教育、近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、授業改造の試み ミニ講座：⑤発問の工夫と仕方 発展：学級崩壊 課題：学級崩壊の経験	教科書第2章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。	
6	学力をどう高めるか（学力論）	講義：学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める ミニ講座：⑥指名・助言・発言の受け方、教師の話し方 発展：戦後学力論争史 課題：全国学力・学習状況調査	教科書第6章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備を行う（2時間）	
7	授業をどうデザインするか（設計・デザイン論）	講義：授業のデザイン、教科内容と子どもの学び、対話的・協同的な学び合い、	教科書第7章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1	

			学びのための指導・支援 ミニ講座：⑦板書・机間指導・ノート指導 発展：授業の設計とデザインの違い 課題：学びからの逃走	時間。模擬授業の準備を行う（2時間）
8	8 教育の道具・素材・環境 (教材論)		講義：教材づくりの発想、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間 ミニ講座：⑧観察・実験・フィールドワーク 発展：教材研究・教材開発・授業の構想 課題：体験型の授業と座学型の授業	教科書第8章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備を行う(2時間)。
9	何をどう評価するか(評価論)		講義：指導要録における教育評価観の変遷、目標に準拠した評価の意義と展開、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、教育評価論としての「実践記録」 ミニ講座：⑨グループ学習・ペア学習・話し合い 発展：現在の学習評価 課題：内申書とテスト	教科書第9章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う(2時間)
10	誰がカリキュラムを編成するのか(カリキュラム論)		講義：教育課程の編成にあたって、教育課程の構造と類型 ミニ講座：⑩ノート指導、レポート指導、プレゼンテーション指導 発展：総合的な学習の時間の授業づくり 課題：探求学習の指導	講義資料をよく読んでおく(2時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う(2時間)
11	授業・学習へのICTの活用 (教育の情報化論1)		講義：教育の情報化(その1)、教育の情報化の今日的意義、教育情報化の加速、ICTを活用した学びの実践、学校のICT環境整備、学習環境を支えるICT環境 ミニ講座：⑪授業中の私語 発展：コロナと学校の授業 課題：大学のオンライン授業	講義資料をよく読んでおく(2時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う(2時間)
12	情報教育と校務の情報化(教育の情報化論2)		講義：教育の情報化(その2)、情報教育、校務の情報化の推進、教育情報セキュリティの確保、教師に求められるICT活用指導力等の向上 ミニ講座：⑫学びの空間 活動：グループディスカッション① 課題：教師のファシリテーションスキル	講義資料をよく読んでおく(2時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う(2時間)
13	インクルーシブな授業をつくる (インクルーシブ教育論)		講義：インクルーシブ教育とインクルーシブ教育システム、ICIDHからICFへの転換、特別支援教育から特別支援教育への転換、特別支援教育の理念と合理的配慮の考え方、授業における合理的配慮 ミニ講座：⑬ワークショップ型の授業 活動：グループディスカッション② 課題：PBL(問題解決型学習)問題点	講義資料をよく読んでおく(2時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する。模擬授業の振り返りを行う(2時間)。
14	ユニバーサルデザイン化した授業をつくる(ユニバーサルデザイン論)		講義：バリアフリーとユニバーサルデザイン、教育のユニバーサルデザイン化、基礎的環境整備と合理的配慮の関係、教室環境のユニバーサルデザイン、授業のユニバーサルデザイン化と指導の三段構え ミニ講座：⑭授業研究の方向性 発展：新しい学び 課題：学び合いの変化	講義資料をよく読んでおく(2時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の振り返りを行う(2時間)。
15	まとめ〜学び続ける教員像をめぐって/テスト		講義：すぐれた教師になるために、2つの教師モデル、教師としての成長に向けて、結論 ミニ講座：教師をめざすオンラインテスト	教科書第11章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の振り返りを行う(2時間)

関連科目 教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 授業への参加状況【課題等】(40%)、レポート(30%)、テスト(30%)により総合的に評価する。

学生への オンラインでの授業という制約下ではあるが、「授業に参加するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、教育諸課題に敏感に反応し、教

メッセージ	育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。
担当者の 研究室等	11号館11階(林研究室)
備考	授業外総学習時間を60時間とする。

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	池島 徳大
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生徒指導と進路指導の意義と方法について、すべての児童・生徒の健全な発達を促す視点に立つて、子どもの揺れ動く心理に触れながら、具体的な生徒指導、進路指導の実践を織り交ぜ、講義及び演習を行う。
到達目標	本授業の到達目標は、下記の5点である。 1) 生徒指導の意義とその機能について説明できる。 2) 進路指導の意義とその機能について説明できる。 3) 多様な児童・生徒理解の方法について説明できる。 4) いじめ、不登校など今日的な生徒指導上の諸問題の状況と対応の在り方について説明できる。 5) 校内の生徒指導・進路指導体制と関係機関との連携について説明できる。
授業方法と留意点	講義の他、グループ討議、ロールプレイング等の演習を取り入れて行う。 履修および予習・復習についての指示 生徒指導に関する知識の獲得、演習による対応スキルの獲得、共感能力の開発をキーワードに進めます。講義中心からできる限り演習を取り入れた授業を展開します。毎回の講義後、学習内容の振り返りとして2時間程度復習すること。また、授業終了前に次回の予習事項を提示しますので2時間程度事前学習にあてること。講義に関する質問等については、講義終了後に受け付けます。強い課題意識を持つての受講を期待します。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 参考文献 池島徳大「いじめ解決への教育的支援」日本教育新聞社 2013

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション		
	2	生徒指導の基本原則		
	3	児童生徒理解と生徒指導		
	4	新学習指導要領が示す「見方・考え方」の視点と生徒指導		
	5	生徒指導における教育相談の意義と進め方		
	6	いじめ問題に対するいじめなどのいじめなどのもめごと問題への具体的対応とその方法めごと問題への具体		
	7	いじめ問題に対する理解と今日的ないじめ(インターネット含む)問題への対応とその方法		
	8	不登校問題の現状と対応(1)		
	9	別な支援を必要とする児童生徒の理解と対応		
	10	暴力行為の理解と対応		
	11	進路指導の意義と方法具体的な方法とその展開		
	12	アメリカのPBISの取組みから生徒指導の在り方を考える		
	13	進路指導の意義と具体的な方法とその展開		
	14	生徒指導・進路指導体制と関係機関との連携の意義と方法		
	15	まとめ 生徒指導・進路指導の課題と展望		

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ピア・サポートによるトラブル・けんか解決法	池島徳大監修・著	ほんの森出版
	2	「学校カウンセリングの理論と実践」ナカニシヤ出版 2007	佐藤修策総監修・池島徳大他著	ナカニシヤ出版 2007
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	定期試験の成績（到達目標1・2・3・4・5）60% 毎回の「感想ノート」の提出（到達目標1・2・3・4・5）20% レポート等の課題提出（到達目標4）20% 課題のフィードバックについては、課題提出後の授業時に行います。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の 研究室等	
備考	

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」をはじめ履修する学生を対象とする。
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	事前指導 1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
	2	事前指導 2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
	3	事前指導 3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
	5	活動 1～25	受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日報等) の作成
	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	すべての科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 (朝日研究室)、7号館3階 (大野研究室)、7号館4階 (谷口研究室)、7号館3階 (林研究室)、7号館3階 (吉田研究室)
----------	--

備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。
----	--

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を既に履修した学生を対象とする。
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	事前指導1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
	2	事前指導2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
	3	事前指導3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
	5	活動1～25	受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日報等) の作成
	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	すべての科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 (朝日研究室)、7号館3階 (大野研究室)、7号館4階 (谷口研究室)、7号館3階 (林研究室)、7号館3階 (吉田研究室)
----------	--

備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。
----	--

科目名	理科教育法 I	科目名 (英文)	Science Teaching I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	内村 浩
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>=====</p> <p>【重要連絡】(掲載日: 2021年9月8日)</p> <p>=====</p> <p>集中講義を遠隔で実施することになりました。 開講日は予定通り、10月2日(土)、9日(土)、23日(土)、11月6日(土)の4日間です。</p> <p>まずは、受講登録ができていのかどうかを必ず確認してください。(後期の追加履修申請期間は9月15~17日です)</p> <p>事前に受講登録を済ませた人に対して、~@edu.setsunan.ac.jpのアドレス宛に、担当教員から案内メールが届きます。 案内メールの配信は、9月28日(火)を予定しています。もし届かない場合は、担当教員まで連絡してください。内村のメールアドレス: hiro.uchimura@gmail.com</p> <p>Teamsは使いません。代わりに、YouTubeによる動画配信と、大学のWebFolderによるデータ受け渡しを利用します。</p> <p><準備しておくもの> できれば高校理科の教科書。もし手元に残していなければ、友人から借りるとよいでしょう。 (作成する学習指導案に使います)</p> <p>==<この授業について>=====</p> <p>教職を迷っている人も歓迎します。まずはこの授業で、理科教員のイメージをつかんでください。 4日間に分けて集中講義として実施します。 なお、来年度以降に開講する「理科教育法Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ」は、この「理科教育法Ⅰ」を履修済みであることを前提として展開されますので、希望者は必ず受講しておいてください。</p> <p>-----</p> <p>この授業の目的は学校現場で活躍できる理科教員として必要な考え方や、スキルを身につけることである。具体的な内容は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理科教育のねらいと、学校現場を取り巻くさまざまな環境について理解する。 2. 理科の授業をデザインするための基本的なコンセプトを理解する。 3. 理科の授業を行うための実践的な方法と技術を身につける。 			
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指導案を作成できるようになる。 2. 模擬授業を行い、その授業分析ができるようになる。 3. 理科教育の目的と今日的課題について理解し、自分が目指すべき授業像を述べるができるようになる。 		
	授業方法と留意点	<p>【遠隔授業の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開講日に、YouTubeで講義を視聴し、その日のうちに課題レポートを大学のWebFolderに提出します。(動画のリンクと課題は事前にメールで連絡あり) ・課題レポートを〆切までに提出すると、その日の「出席認定書」がもらえます。(ただし、レポートが合格ということではありません) ・すべての開講日の「出席認定書」を獲得した人を対象に、成績を判定します。 <p>なお、下記の授業計画は対面授業を想定して作成したものです。今回の遠隔授業では変更となる予定です。</p>		
	科目学習の効果(資格)	理科教員免許を取得するための、基礎的な知識と技能が身につきます。		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	【注意】遠隔授業になったため、以下の計画は変更予定です。 ----- 講義: モデル授業(1)ー楽しくわかる理科授業とはどのようなものか?	【注意】遠隔授業になったため、以下の計画は変更予定です。 ----- 「楽しくわかる理科授業」を体験し、イメージをつかむ。	【注意】遠隔授業になったため、以下の計画は変更予定です。 ----- 復習: 教科書を熟読し、教える内容について分析する。
	2	講義: モデル授業(2)ー授業づくりのポイント	具体的な事例をとおして、新しい授業を作る意義を学ぶ。	関連した情報を集め、指導計画を作成する。
	3	講義: 理科授業をどのようにデザインするか?	授業づくりの方法とポイントを学ぶ。	関連した情報を集め、指導計画を作成する。
	4	グループワーク: ミニ模擬授業演習(前半)	担当した単元について指導案を作成し発表する。(前半)	ミニ模擬授業の事後レポートを作成する。
	5	グループワーク: ミニ模擬授業演習(後半)	担当した単元について指導案を作成し発表する。(後半)	ミニ模擬授業の事後レポートを作成する。
	6	グループワーク: 模擬授業の準備(1) 学習指導要領の目標と内容をふまえた指導案の作成	グループで話し合いながら、授業を計画する。	授業のアイデアを準備する。
	7	グループワーク: 模擬授業の準備(2) 教材の準備とリハーサル	グループで話し合いながら、授業を話し、準備する。	発表のリハーサルを行う。
	8	演習: 授業発表(1) テーマ「生物と光」	左記の単元について、グループで模擬授業を行う。発表後に全体討論と指導教員によるミニ講義がある。	模擬授業について考察し、事後レポートを作成する。
	9	演習: 授業発表(2) テーマ「微生物とその利用」	左記の単元について、グループで模擬授業を行う。発表後に全体討論と指導教員によるミニ講義がある。	模擬授業について考察し、事後レポートを作成する。
	10	演習: 授業演習(3) テーマ「材料とその再利用」	左記の単元について、グループで模擬授業を行う。発表後に全体討論と指導教員によるミニ講義がある。	模擬授業について考察し、事後レポートを作成する。

	11	演習：授業発表(4) テーマ「衣料と食品」	左記の単元について、グループで模擬授業を行う。発表後に全体討論と指導教員によるミニ講義がある。	模擬授業について考察し、事後レポートを作成する。
	12	演習：授業発表(5) テーマ「熱の性質とその利用」	左記の単元について、グループで模擬授業を行う。発表後に全体討論と指導教員によるミニ講義がある。	模擬授業について考察し、事後レポートを作成する。
	13	演習：授業発表(6) テーマ「身近な天体と太陽系における地球」	左記の単元について、グループで模擬授業を行う。発表後に全体討論と指導教員によるミニ講義がある。	模擬授業について考察し、事後レポートを作成する。
	14	演習：授業発表(7) テーマ「身近な自然景観と自然災害」	左記の単元について、グループで模擬授業を行う。発表後に全体討論と指導教員によるミニ講義がある。	模擬授業について考察し、事後レポートを作成する。
	15	講義：学習の総括	授業全体を振り返り、今後の理科教育の目標について考える。	授業全体の振り返りレポートを作成する。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学と人間生活 (頒布は来年に延期します)	内村浩、他	東京書籍
	2	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説理科編		文部科学省(Web閲覧可)
	3	高等学校学習指導要領解説 理科編、理数編		文部科学省(Web閲覧可)
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業に活かす！理科教育法—中学高校編	左巻健男, 内村浩編著	東京書籍
	2			
	3			
評価方法(基準)	すべての開講日の「出席認定書」を獲得した人を対象に、課題レポートと学習指導案の内容をもとに評価します。ただし、「出席認定書」は単位修得のための必要条件であり、十分条件ではありません。最終的には提出物の内容で決まります。			
学生へのメッセージ	理科教員はとても魅力的な仕事です。体験を通して、授業づくりの楽しさとコツをつかんでください。			
担当者の研究室等	なし			
備考	遠隔授業となったため、上記の教科書は購入しなくてもよいです。来年の「理科教育法Ⅱ」で頒布します。			

科目名	農学概論	科目名 (英文)	Introduction to Agriculture
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久保 康之、石川 幸男、井上 亮、奥本 裕、小野 雅之、小保方 潤一、川崎 通夫、喜多 大三、北川 太一、黒川 通典、田中 樹、寺林 敏、豊原 治彦、吉井 英文、和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OAB1001a0		

授業概要・目的	自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の衣食住を支えてきた「農学」は、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。「農学」には持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、課題を見出し対応するミッションがある。「農学」は生命を支える食料の科学であり、生命科学とも位置付けられる。さらには、「農学」は生産、加工、流通の6次産業に食栄養を加えた24次産業的視点で捉えることができる。農と食をとりまく環境は大きく変化し、「農学」における食栄養科学・健康科学の重要性も認識されている。本講義はこうした問題意識からテーマを設定し、オムニバス形式の講義により、受講者が「農学」とは何かを理解するとともに、「農学」のミッションに対応する「使命感」、「農学」的視点もたらす「俯瞰力」、「実践力」に関心をもち、主体的に課題を意識することができることを目的とする。
到達目標	① 「農学」が関わる領域について、関心をもつことができる。 ② 「農学」が関わる領域の課題を理解し、主体的に捉えることができる。 ③ 「農学」が関わる領域を学び、専門分野で何を学ぶかという動機や問題意識をもつことができる。
授業方法と留意点	授業方法は、オンデマンドの遠隔授業にて行う。
科目学習の効果 (資格)	摂南大学農学部の学びの基本となり、「農学」の全体像を理解するための基礎となる科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	農学を大学で学ぶとは	「農学」は、自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、私たちは何を学び、何をすべきか、「農学」の世界観を俯瞰し、学修する。(担当：久保 康之)	事前：シラバスの理解 事後：レポートの提出
2	農学と社会	「農学」は、安全な食料生産と食料の安定供給、自然環境の保全、食を取り巻く多様化・複雑化する社会への対応、新しい作物生産の場とその生産技術の開発など、社会からの求めに応え、解決する使命を担っている。「農学」が社会とのかかわりの中で、いかなる研究が社会に貢献してきたか、と同時に「農学」の発展と可能性について学修する。(担当：寺林 敏)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
3	農業生産技術の進歩	農業生産技術の進歩は、人口増加、自然環境変動、および、社会変化に伴う農業生産課題を解決していく上で重要な要素である。フィールド栽培、施設園芸、植物工場、および、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)を活用したスマート農業などに関する農業生産技術の進展について学修する。(担当：川崎 通夫)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
4	国際農業と開発援助	世界の農業の多様性を踏まえ、発展途上国における農業開発と、それに対する援助のあり方を学修する。(担当：田中 樹)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
5	農業とケミカルエコロジー	すべての生物は、同種または他種の他個体と相互作用を及ぼしあいながら生きており、この相互作用の仲介役として化学物質が大きな働きをしている。植物-昆虫、昆虫-昆虫間の相互作用における化学物質の働きについて、その害虫管理への応用を含めて概説する。(担当：石川 幸男)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
6	作物改良のための情報科学	現代の農業は近代育種が改良してきた品種を基盤に成立している。近年のゲノム解読技術と画像解析技術の急速な発展は、育種におけるDNA情報解析と高速フェノタイピングの利用を強く後押ししている。育種の現場で利用が進められているゲノム情報と圃場データ処理を利用する情報科学について概説する。(担当：奥本 裕)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
7	ゲノムと農学・生命科学	生物の設計図を読みたい、というのは生物学者の長年の夢だったが、ゲノムの解読技術の飛躍的な発展によって、それは現実のものとなりつつある。ゲノム科学の急速な発展が、農学・生命科学や私たちの生活にどのような影響を与えつつあるのかを概説する。(担当：小保方 潤一)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
8	動物生命科学の新展開	動物を対象とした研究は、農学において	事前：事前学習課題の学習

			は産業動物の生産性向上のため、食品、医療においてはヒトの健康維持・増進、疾病予防・治療のために行われる。これらの動物を対象とした研究には遵守すべきルールや法令が存在する。これら動物を対象とした研究に関する現状を学修する。(担当：井上 亮)	事後：レポートの提出
	9	地球環境と海洋科学	水産業は一次産業の中でも特に天然依存性が高いことから、資源維持のために健全な海洋環境の保全が必須である。最新の増養殖技術の活用も含め、地球環境の保全と海洋科学の進展について学修する。(担当：豊原 治彦)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	10	食品科学と農業	農林漁業者（1次産業）が生産する農水産物の元々持っている価値をさらに高め農林水産業を活性化させるためには、食品加工（2次産業）は必須の技術である。最新の食品加工にかかわる食品科学技術の進展について学修する。(担当：吉井 英文)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	11	食文化と多様性	日本の食文化は大きな変革期にきており、食生活の大部分を外食産業に依存する家庭が急増している。本来、日本の伝統的食文化である「お茶」の歴史、伝統および特質について学修する。(担当：喜多 大三)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	12	微生物と食品	東洋、西洋を問わず、食品製造に微生物を利用することは長く行われてきた。農産物の2次加工としての微生物利用について概説する。(担当：和田 大)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	13	食栄養科学と健康	現代の栄養事情は欠乏と過剰の二極化といわれている。社会の仕組みが複雑になっている今、社会のあらゆる側面を視野に入れながら、人間栄養学の観点から健康問題を考える。(担当：黒川 通典)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	14	食品産業の役割とこれからの方向	消費者への食料供給において重要な役割を担う食品産業、特に食品流通業を取り上げ、その役割とこれからの展開方向を学修する。(担当：小野 雅之)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	15	これからの食と農を考える	今日の食と農の状況を踏まえながら、これからの食（消費者、都市）と農（生産者、農山漁村）をつなぐ共生のあり方とその方向を考える。(担当：北川 太一)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	講義内容に関する資料を配布		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農学が世界を救う！ 食料・生命・環境をめぐる科学の挑戦	生源寺眞一・太田實行・安田弘法 編著	岩波ジュニア新書
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前課題（30%）、授業中の課題（40%）、事後課題（30%）で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	1) オンデマンドのオンライン形式で実施します。 授業は授業予定日に合わせて配信されます。 2) この授業は「Teams」と「Forms」を使用します。 3) 各回の授業で課題を課します。提出期限は次回の授業日までとします。 (例：4月12日（月）の授業は4月19日（月）午前0時まで提出)			
担当者の 研究室等	植物病理学研究室（久保）、応用昆虫学研究室（石川）、動物機能科学研究室（井上）、植物遺伝育種科学研究室（奥本）、食料・農業市場研究室（小野）、ゲノム生物学研究室（小保方）、作物科学研究室（川崎）、栄養薬理学研究室（喜多）、食農共生研究室（北川）、公衆栄養学研究室（黒川）、環境農学研究室（田中）、園芸科学研究室（寺林）、海洋生物学研究室（豊原）、食品加工学研究室（吉井）、応用微生物学研究室（和田）			
備考				

科目名	農学基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar in Agriculture
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	寺林 敏、川崎 通夫、北村 祐人、佐野 修司、高木 大輔、玉置 雅彦、山川 武夫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OAB1002a0		

授業概要・目的	福井県と三重県にある農業体験施設を利用し、2日間で演習を行う。主に、我が国のイネ生産と消費の現状、水田の構造、稲作を成立させる農業技術並びに自然環境要因、水田の多面的価値、稲作文化等について講義する。実習内容として、春期の田植えと秋期の稲刈りを行う。日本の主食であるコメの栽培を学び、イネ栽培を体験することで、水田の構造、日本で水田稲作が成立する要因、稲という植物の生育特性を深く理解し、我が国における今後の稲作の在り方について学ぶことを目的とする。
到達目標	① 日本の地形・気象条件と稲作との関係を説明できる。 ② 稲作における種々作業の必要性、意義、効果を理解し、説明できる。 ③ イネという作物の生理・生態的、形態的特性を説明できる。 ④ 農業生産に及ぼす気象、土壌、病害虫、雑草などの環境要因の影響について知り、説明できる。
授業方法と留意点	演習は春（5月の田植え）と秋9月（イネ刈り）の2回行う。それぞれに、事前の講義、現地での講義、実習内容の説明と農作業、周辺地域の農村景観の観察、そして討論会をおこなう。演習の最終回は、まとめとして、2回の合宿演習での体験と学びをもとに、課題「水田の多面的機能と価値について」と自由課題を与え、レポート提出させる。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>本演習の内容と目的の説明 日本の稲作の歴史、栽培品種、栽培理論、稲作文化等について概説</td> <td>事前：次回実習内容の確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>春合宿</td> <td>講義 (移動中) 日本のコメ生産および消費状況について</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>春合宿</td> <td>講義 訪問施設の農業生産、人材育成等の業務内容</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>春合宿</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>春合宿</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>春合宿</td> <td>討論会 テーマ「コメの消費量を増やすには」 (年ごとに変更)</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>春合宿</td> <td>実習 野菜園の管理</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>春合宿</td> <td>見学・研修 周辺地域の農村景観と農村社会・稲作文化に触れる</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>秋合宿</td> <td>講義 (移動中) コメの稈性と糯性について</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 稲刈り</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 稲刈り はさ架け</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>秋合宿</td> <td>討論会 テーマ「我が家の雑煮とお餅について」 (年ごとに変更)</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 秋野菜の管理</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 果樹園の管理</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>水田の多面的機能と価値について</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	本演習の内容と目的の説明 日本の稲作の歴史、栽培品種、栽培理論、稲作文化等について概説	事前：次回実習内容の確認	2	春合宿	講義 (移動中) 日本のコメ生産および消費状況について	事前：講義及び実習内容の予習	3	春合宿	講義 訪問施設の農業生産、人材育成等の業務内容	事前：講義及び実習内容の予習	4	春合宿	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習	5	春合宿	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習	6	春合宿	討論会 テーマ「コメの消費量を増やすには」 (年ごとに変更)	事後：レポートの提出	7	春合宿	実習 野菜園の管理	事前：講義及び実習内容の予習	8	春合宿	見学・研修 周辺地域の農村景観と農村社会・稲作文化に触れる	事後：レポートの提出	9	秋合宿	講義 (移動中) コメの稈性と糯性について	事前：講義及び実習内容の予習	10	秋合宿	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習	11	秋合宿	実習 稲刈り はさ架け	事前：講義及び実習内容の予習	12	秋合宿	討論会 テーマ「我が家の雑煮とお餅について」 (年ごとに変更)	事後：レポートの提出	13	秋合宿	実習 秋野菜の管理	事前：講義及び実習内容の予習	14	秋合宿	実習 果樹園の管理	事前：講義及び実習内容の予習	15	まとめ	水田の多面的機能と価値について	事後：レポートの提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	本演習の内容と目的の説明 日本の稲作の歴史、栽培品種、栽培理論、稲作文化等について概説	事前：次回実習内容の確認																																																														
2	春合宿	講義 (移動中) 日本のコメ生産および消費状況について	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
3	春合宿	講義 訪問施設の農業生産、人材育成等の業務内容	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
4	春合宿	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
5	春合宿	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
6	春合宿	討論会 テーマ「コメの消費量を増やすには」 (年ごとに変更)	事後：レポートの提出																																																														
7	春合宿	実習 野菜園の管理	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
8	春合宿	見学・研修 周辺地域の農村景観と農村社会・稲作文化に触れる	事後：レポートの提出																																																														
9	秋合宿	講義 (移動中) コメの稈性と糯性について	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
10	秋合宿	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
11	秋合宿	実習 稲刈り はさ架け	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
12	秋合宿	討論会 テーマ「我が家の雑煮とお餅について」 (年ごとに変更)	事後：レポートの提出																																																														
13	秋合宿	実習 秋野菜の管理	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
14	秋合宿	実習 果樹園の管理	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
15	まとめ	水田の多面的機能と価値について	事後：レポートの提出																																																														

関連科目 土壌学や植物栄養学の学習につながる内容を含んでいる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			

評価方法 (基準) 演習参加とレポート (100%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ 実習を通して、作物を栽培するための準備、管理方法、収穫がどのように行われているかを体感してください。また、作物栽培の楽しさと大変さを経験してください。コロナ感染状況によっては、現地での実習 (田植え、稲刈り) ができなく可能性があります。その場合は Teams での課題提供 (課題提出は WebHolder 使用)、本学農場での見学および実習を行う予定です。

担当者の研究室等備考 園芸科学研究室 (寺林、北村)、作物科学研究室 (玉置、川崎)、生産生態基盤学研究室 (山川、佐野)、

科目名	グローバル農業演習	科目名 (英文)	Seminar in Global Agriculture
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	寺林 敏・戴 容秦思
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAB2003a0		

授業概要・目的	私達の食生活は、我が国の食料生産だけでは決して支えられているものではなく、他国における食料生産への依存度は高まる一方である。海外に10日間ほど滞在し、その地域や国の農業についての講義や視察により、茶などの工芸作物を含む様々な農作物、野菜や花などの種々園芸作物が他国で、どのような気象・土壌環境で、どのような栽培技術で生産され消費・利用されているかを、それら地域の歴史的、文化的背景、社会情勢の理解とともに学ぶ。
到達目標	① 世界の農業との比較から日本の農業の特徴を説明できる。 ② 演習に訪れた国・地域の農業成立の歴史的背景、農業技術、現状、課題について説明できる。
授業方法と留意点	当面は、学術交流協定を結んだ中国の雲南農業大学を演習の訪問先とする。訪問時期は夏期休暇期間中で、おおよそ10日間の日程で行う。雲南農業大学は雲南省立の大規模大学で、多方面での農業に関する研究実績があり、日本の大学とは長年の交流実績を有しており、受け入れ態勢が整っている。各講義、視察地での解説は、基本、中国語、英語で行われる。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	演習実施時期、実施国、および演習内容 (雲南農業大学における農学関連講義の受講、現地視察および雲南農業大学生徒との交流) の説明	事前: シラバスの理解 事後: レポートの提出
2	雲南農業大学の紹介	雲南農業大学の建学精神、組織、研究内容の紹介と学内施設見学	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
3	雲南省の概説	雲南省の地形、気象、生物 (動植物) についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
4	雲南省の概説	雲南省の歴史と少数民族についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
5	視察	民俗村施設を訪問し、住居、農耕具、食文化、衣類、宗教等に関する展示物 (一部再現物) を見学し、雲南省の少数民族の文化について学ぶ	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
6	中国の畜産業	豚をはじめとする中国の畜産業の現状と特徴についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
7	中国の稲作	中国全土の稲作の栽培技術、栽培品種、稲作文化についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
8	中国の作物栽培	雲南および中国での主要作物の栽培状況と栽培技術についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
9	中国の作物防除	作物、野菜、果樹等の作物栽培における病虫害被害の実態と防除技術についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
10	中国の野菜栽培	多種多様な野菜の類縁関係、品種特性、栽培技術、利用法および消費動向についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
11	雲南省の野菜	雲南省で栽培・消費されている野菜、ないし周辺の少数民族の野菜文化についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
12	雲南省の花弁	常春といわれる雲南省における、花卉植物の多様性、周年栽培、品質、並びに他地域・国外への供給体制についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
13	雲南省の茶栽培	雲南省の茶栽培、茶生産技術、飲茶文化についての講義と視察 (茶間屋など)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
14	視察	全国から集荷される青果物市場、花卉市場を見学し、流通形態やその規模、取り扱い物の特徴を学ぶ	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
15	総括	演習での学びと体験から、現在の中国の農業実態を理解・整理する。成果報告会を実施する	事後: 全実習のレポート提出

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	講義内容に関するプリントを配布		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

評価方法 (基準)	事前課題レポート内容 (30%)、事後課題レポート (30%)、現地での演習時の取り組み姿勢・成果報告会での発表内容 (40%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	現地での使用言語は、中国語、英語となっていますが、日本語でも会話は成立しますので安心してください。なお、コロナ禍が収束しない場合には、演習が中止になる場合があります。
担当者の	寺林敏 (農業生産学科 園芸科学研究室)、戴 容秦思 (食農ビジネス学科 食品流通研究室)

研究室等	
備考	

科目名	化学	科目名 (英文)	Fundamentals of Chemistry
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	芳本 玲
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAB1008a0		

授業概要・目的	化学的な知識は農学領域における基礎・専門科目を理解する上で欠かせない。本講義では、化学の基礎知識を確実なものとするとともに、大学における専門科目の理解に不可欠な化学の知識を修得することを目的とする。「化学」では、物質の成り立ちから、理論化学、無機化学、有機化学に関する基本事項を修得し、専門課程・卒業論文研究における化学的な課題に対処する能力を身につける。また、同時期開講の「化学演習」において、「化学」にて講義した基本事項について、問題演習を通じて理解する。本講義では基礎的な化学の知識の中でも特に企業の研究開発者として必須とされるものを強調して習得させる。
到達目標	① 教科書に記載された無機化合物の構造式を書くことができる。 ② 元素の電子配置が説明できる。 ③ 化学結合が説明できる。 ④ 水溶液の濃度、pHなどの計算ができる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行い、講義内容により、DVDなどによる画像を取り入れ理解を深める。また、各講義前に、前回講義した内容に関する小テストを実施する。事前学習教材として問題集を使う。
科目学習の効果 (資格)	教免：教科及び教科の指導法に関する科目 (理科・中高)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	原子の構造と性質	原子、同位体、原子量、放射性同位体、水素原子モデル、電子配置、周期表、周期表と元素の性質の周期性	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
2	元素の性質と生命	生体を構成する主要11元素、微量必須元素	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
3	化学結合の種類と無機化合物	イオン結合、共有結合、無機化合物の化学式	事前：事前学習課題の学習
4	無機化合物	典型元素の性質、遷移元素の性質、無機化合物の種類と性質、無機化合物の化学反応	事後：次回小テストのための学習
5	水と水溶液の性質	物質の三態と状態変化、水の性質、水溶液、溶解度、浸透圧、コロイド	事前：事前学習課題の学習
6	水溶液の濃度	モル、モル濃度、規定度、医学で用いられる濃度、パーセント濃度	事後：ミニレポートの提出
7	酸と塩基・酸化と還元	酸と塩基の定義、酸化還元反応	事前：事前学習課題の学習
8	反応速度と化学平衡	反応速度、活性化エネルギー、化学平衡	事後：次回小テストのための学習
9	水溶液の酸性度	水のイオン積、酸塩基の水溶液のpH	事前：事前学習課題の学習
10	緩衝液の性質	緩衝液の性質、pH変化、酸・塩基の解離定数とpHの関係	事後：次回小テストのための学習
11	有機化合物の特徴と性質	有機化合物の性質と特徴、脂肪族炭化水素	事前：事前学習課題の学習
12	脂肪族酸素化合物の性質と特徴	生体内の化学反応に極めて重要な役割を果たす酸素含有脂肪族有機化合物 (アルコール、エーテル、エステル、カルボン酸、アルデヒド、ケトンなど) の性質と関連する化学反応を理解する	事後：ミニレポートの提出
13	芳香族有機化合物と有機化学反応	芳香族有機化合物の性質と特徴。芳香族有機化合物の合成と化学反応、芳香族、脂肪族有機化合物に特徴的な化学反応	事前：小テストのための学習
14	合成高分子	合成高分子の種類と用途。身の回りの合成高分子とその構造、合成法と性質	事後：ミニレポートの提出
15	天然高分子	天然高分子の特徴と性質、その構造。核酸、タンパク質、糖類と生命化学反応	事前：小テストのための学習

関連科目	化学演習
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ブラックマン 基礎化学	小島憲道 監訳	東京化学同人
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	講義内容に関するプリントを配布		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各授業の事前学習課題 (10%)、授業中の前回講義の学習確認小テスト (20%、15回目は講義の最後に実施)、事後課題 (10%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	化学は広範な内容を含みます。この講義では高校化学の復習とともに、専門分野に入る前に学んでおくべき基本的な事柄を整理します。
-----------	---

担当者の研究室等備考	応用生物科学科 動物機能科学研究室
------------	-------------------

科目名	化学演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Chemistry
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	芳本 玲
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAB1009a0		

授業概要・目的	化学的な知識は農学領域における基礎・専門科目を理解する上で欠かせない。本演習では、化学の基礎知識を確実なものとするとともに、大学における専門科目の理解に不可欠な化学の知識を修得することを目的とする。「化学演習」では、同時期開講する「化学」にて講義した基本事項について、問題演習を通じて完全に理解し、専門課程・卒業論文研究における化学的な課題に対処する能力を身につける。本講義では基礎的な化学の知識の中でも特に企業の研究開発者として必須とされるものを強調して習得させる。
到達目標	① 教科書に記載された無機化合物の構造式を書くことができる。 ② 元素の電子配置に関連する問題を解くことができる。 ③ 化学結合の性質について理解し、関連する問題を解くことができる。 ④ 水溶液の濃度、pHなどの計算ができ関連する問題を解くことができる。
授業方法と留意点	最初にパワーポイント、板書を主に講義を行い、主として学生は問題集の演習問題を解答し、その後問題ごとに解説を行う。回ごとの演習内容は、基本的に「化学」で講義する内容に関連するものとする。学生の主体的で深い学びのために、課題解決型学修 (Problem-based learning) を行う。また、各講義前に、前回講義した内容に関する小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	教免：教科及び教科の指導法に関する科目 (理科・中高)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	原子の構造と性質	原子、同位体、原子量、放射性同位体、水素原子モデル、電子配置、周期表、周期表と元素の性質の周期性	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
2	元素の性質と医療	生体を構成する主要11元素、微量必須元素	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
3	化学結合の種類と無機化合物	イオン結合、共有結合、無機化合物の化学式	事前：事前学習課題の学習
4	無機化合物	典型元素の性質、遷移元素の性質、無機化合物の種類と性質、無機化合物の化学反応	事後：次回小テストのための学習
5	水と水溶液の性質	物質の三態と状態変化、水の性質、水溶液、溶解度、浸透圧、コロイド	事前：事前学習課題の学習
6	水溶液の濃度	モル、モル濃度、規定度、医学で用いられる濃度、パーセント濃度	事後：ミニレポートの提出
7	酸と塩基・酸化と還元	酸と塩基の定義、酸化還元反応	事前：事前学習課題の学習
8	反応速度と化学平衡	反応速度、活性化エネルギー、化学平衡	事後：次回小テストのための学習
9	水溶液の酸性度	水のイオン積、酸塩基の水溶液のpH	事前：事前学習課題の学習
10	緩衝液の性質	緩衝液の性質、pH変化、酸・塩基の解離定数とpHの関係	事後：次回小テストのための学習
11	有機化合物の特徴と性質	有機化合物の性質と特徴、脂肪族炭化水素	事前：事前学習課題の学習
12	脂肪族酸素化合物の性質と特徴	生体内の化学反応に極めて重要な役割を果たす酸素含有脂肪族有機化合物 (アルコール、エーテル、エステル、カルボン酸、アルデヒド、ケトンなど) の性質と関連する化学反応を理解する	事後：ミニレポートの提出
13	芳香族有機化合物と有機化学反応	芳香族有機化合物の性質と特徴。芳香族有機化合物の合成と化学反応、芳香族、脂肪族有機化合物に特徴的な化学反応	事前：小テストのための学習
14	合成高分子	合成高分子の種類と用途。身の回りの合成高分子とその構造、合成法と性質	事後：ミニレポートの提出
15	天然高分子	天然高分子の特徴と性質、その構造。核酸、タンパク質、糖類と生命化学反応	事前：小テストのための学習

関連科目	化学
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ブラックマン 基礎化学	小島憲道 監訳	東京化学同人
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	講義内容に関するプリントを配布		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各授業の事前学習課題 (10%)、授業中の前回講義の学習確認小テスト (20%、15回目は講義の最後に実施)、事後課題 (10%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	化学は広範な内容を含みます。そして、化学の知識を定着させるためには、問題演習が不可欠です。この講義では、「化学」において解説した事柄について、関連の問題を解き、解法を説明することにより、各単元の確実な習得を目指します。
-----------	---

担当者の研究室等備考	応用生物科学科 動物機能科学研究室
------------	-------------------

科目名	生物学	科目名 (英文)	Fundamentals of Biology
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾 充啓
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAB1010a0		

授業概要・目的	実験科学である生物学は、多種多様な観察、実験結果によって裏付けられた知識の体系であり、分子といったミクロなレベルから、生態環境といったマクロなレベルまで、生物が関わる極めて幅広い現象を取り扱う。農学はその知識を活用し生命現象を理解した上でヒトに応用する学問であり、学ぶ上で幅の広い生命科学の基礎知識を有することが求められる。本講義ではそれらの基礎について概説し、専門課程で必須となる生物学の土台となる考え方を、受講者が身につけられるようにする。
到達目標	① 生物の構成単位である細胞の組成、構造、機能、分裂について説明ができる。 ② 生命活動である代謝反応、エネルギー合成について基礎的な知識を持ち、それらについて概説できる。 ③ 生命の設計図であるゲノム、遺伝子について説明ができる、遺伝の原理を理解する。 ④ 動物の器官・組織、免疫、発生と植物組織について基礎的な知識を修得する。 ⑤ 進化、生態系の考え方を理解する。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書による講義を行い、必要に応じてDVD等によるビデオ学習を行う。また講義内容に関連する教科書の問題をミニレポート課題とする。同様に次回行う講義内容に関連する問題を事前学習課題とする。各講義前に、前回講義した内容とミニレポートに関する小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	二年度以降、農学部の専門科目の授業を理解する上で必要な生物学の基礎知識・考え方を理解・習得できる。 教免：教科及び教科の指導法に関する科目 (理科・中高)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	生体分子	生物を構成する水、有機分子、高分子の特性	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
	2	細胞	細胞の構造とオルガネラ、原核細胞、真核細胞	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	3	細胞分裂	細胞膜の構造と特性、体細胞分裂	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	4	酵素	酵素と代謝反応	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	5	解糖系・呼吸	解糖系、酸化的リン酸化反応、クレブス回路	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	6	光合成	光合成明反応、カルビンサイクル	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	7	遺伝	メンデル遺伝、遺伝子	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	8	DNA	DNA、半保存的複製	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	9	遺伝子発現	セントラルドグマ、転写、翻訳	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	10	染色体	染色体、有性生殖、減数分裂	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	11	動物	動物の器官・組織 (呼吸、消化、排泄)	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	12	免疫	自然免疫、抗原抗体反応	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	13	発生	配偶子形成、受精、発生	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	14	植物	植物組織の基本構造、蒸散、転流	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	15	生態・進化	生態系・エネルギー循環、適応進化	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出

関連科目	一年次・後期以降の農学部のすべての専門科目
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ワークブックで学ぶ生物学の基礎	Greenwood, Bainbridge, Pryor, Allen (後藤太郎 監訳)	オーム社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	キャンベル生物学 原著 11 版	Urry, Cain, Wasserman, Minorsky, Reece (池内昌彦、伊藤元己、箸本春樹、道上達男 監訳)	丸善株式会社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各授業の事前学習課題 (10%)、授業中の前回講義の学習確認小テスト (15%)、事後課題 (15%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	生物学の基礎について解説します。講義の内容は多岐に渡りますが、各講義のテーマにつき、鍵となる考え方・コンセプトを説明するので、それらを聞き漏らさず、理解するように努めてください。重要なのは、イメージを持って理解することです。わからない場合は、放置せず、担当教員に臆さず質問するようにしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	ゲノム生物学研究室
----------	-----------

備考	小テスト・ミニレポートについては、全体的によく間違いが見られた箇所について、授業中に解説する。
----	---

科目名	生物学演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Biology
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾 充啓
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAB1011a0		

授業概要・目的	「生物学」の講義では、生物学の基礎知識とその根底にある考え方を学ぶが、実学である農学ではそれら基礎知識や考え方を応用する力も重要となる。そこで本演習では、「生物学」の講義で学んだ基礎知識、概念を使い、組み合わせで解く演習問題に取り組み、応用能力、問題解決能力を養う。また同時に生物学の基礎に関する様々な問いかけに触れることで、背景となる周辺知識を学び、生物学の根幹となる考え方がどのように生まれてきたかを、追体験して、理解を深めることを目的とする。
到達目標	① 生物学の基礎知識を組み合わせ、演習で扱う応用問題に解答することができる。 ② 生物学の応用問題を解く上で鍵となった考え方、根拠について説明できる。
授業方法と留意点	演習ではワークブック形式の教科書を用いる。「生物学」の講義と連動して、講義に関連した項目のワークブックの問題を解く。また学生同士でコミュニケーションをとりながら、疑問点の整理や解消を行うグループ学習の形式で演習を進める。授業時間の後半において、質疑応答を行い、不明点を解消する。
科目学習の効果 (資格)	生物学演習の課題に取り組むことで、生物学の講義で学んだ知識を定着させて、生物学の基本的な考え方を身につけることができる。また生物学という学問分野の全体像をおおまかにイメージできるようになる。これらのスキルは高学年次で学ぶ様々な専門科目の知識を統合的に理解する上で必要となる。 教免：教科及び教科の指導法に関する科目 (理科・中高)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	生体分子	生物を構成する有機分子、高分子の特性に関する演習問題を解く。	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
2	細胞	細胞構造 (オルガネラ)、原核、真核細胞に関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
3	細胞分裂	細胞膜の構造・特性、体細胞分裂に関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
4	酵素	酵素と代謝反応に関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
5	解糖系・呼吸	解糖系、呼吸系に関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
6	光合成	光合成に関する演習問題を解く。	事後：ミニレポートの提出
7	遺伝	メンデル遺伝、遺伝子に関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
8	DNA	DNA、半保存的複製に関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
9	遺伝子発現	転写、翻訳、セントラルドグマに関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
10	染色体	染色体、有性生殖、減数分裂に関する演習問題を解く。	事後：ミニレポートの提出
11	動物	動物の器官・組織に関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
12	免疫	動物の免疫に関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
13	発生	配偶子形成、受精、発生に関する演習問題を解く。	事後：ミニレポートの提出
14	植物	植物組織、蒸散、転流に関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
15	生態・進化	生態系・エネルギー循環、適応進化に関する演習問題を解く。	事後：ミニレポートの提出

関連科目 一年次・後期以降の農学部の専門科目すべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ワークブックで学ぶ生物学の基礎	Greenwood, Bainbridge, Pryor, Allen (後藤太郎 監訳)	オーム社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャンベル生物学 原著 11 版	Urry, Cain, Wasserman, Minorsky, Reece (池内昌彦、伊藤元己、箸本春樹、道上達男 監訳)	丸善株式会社
2			
3			

評価方法 (基準)	各演習の事前学習課題 (15%)、事後課題 (15%)、演習 (70%) で評価して、60%以上で合格とする。演習の評価においては、学期末に演習で用いたワークブックを提出、15 回の演習で取り扱った問題の正答率から算出する。
学生へのメッセージ	生物学演習では、課題について調べ、学生同士で話し合い、考えを整理して、解答を「自分の言葉」で記述することをこなしてもらいます。演習を通じて、皆さんの「調べる力」、「説明する力」、「文章を書く力」も伸ばしたいと考えています。
担当者の研究室等	ゲノム生物学研究室
備考	次回の演習テーマについて下調べしておくことを事前学習課題とする。 また事後学習課題のミニレポートについては、授業終了時に課題内容を示し、レポートで頻繁に見られた間違いについては授業中に解説する。

科目名	物理学	科目名 (英文)	Fundamentals of Physics
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長島 健
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAB1012a0		

授業概要・目的	<p><概要> 物理学は自然現象、科学技術の原理を理解する上で、極めて重要な基礎科目であり、現代の科学技術の基礎をなしている。身近な自然現象、科学技術の成り立ちを物理学の観点から理解するために必要な、物理の法則・原理を説明する。</p> <p><目的> 身近な自然現象、科学技術の成り立ちを物理法則をもとに理解する力の習得を目的として、物理の法則・原理について学ぶ。</p>
到達目標	物理の様々な法則を理解し、身近な自然現象や科学技術との関係を知る。身近に体験している現象や科学技術の成り立ちを定量的に取り扱う方法について理解する。
授業方法と留意点	主として配布する資料 (プリント) を用いて授業を進める。毎回小テストを行なうが、小テストは友達と相談したり、教科書を参照してもよいので、最後まであきらめずに考えて解くこと。小テストは採点後返却し、正答率の低かった問題を中心に解説する。
科目学習の効果 (資格)	理科教職免許取得につながる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	物理学とは	物理学の役割を身近な例をあげて説明する。数式化の基礎となる物理量の表し方や単位について学ぶ。	———
2	質点の力学	物理学の基礎となっている質点の運動方程式の復習する。物体に働く様々な力について解説する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
3	剛体の力学	剛体の重心について説明する。剛体の運動に関わる力のモーメント、慣性モーメントといった物理量の意味を解説する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
4	熱エネルギー	熱エネルギーの生成・利用方法を示し、熱エネルギーの特性を説明する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
5	物質内での分子運動	分子運動と物理量 (圧力、温度など) との密接な関係について、簡単な例を挙げて説明する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
6	物質の三態	固体、液体、気体の性質の違いを物理的側面から説明する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
7	光の性質 (波動)	波としての光の性質を利用しているさまざまな機器を例に挙げて、光の波動性を説明する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
8	光の性質 (粒子)	粒子としての光の性質を利用しているさまざまな機器を例に挙げて、光の粒子性を説明する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
9	光のエネルギー	身の周りで体験している自然現象や科学技術を例に挙げて、光のエネルギーの基本的性質について説明する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
10	前半のまとめ	熱と光の分野について、中間確認テストを実施し、その内容について解説する。	確認テストの復習 (1時間以上)
11	電荷と力	電荷が受ける力について講述し、利用されている多くの機器 (分析機器や家電) の基本原理についても説明する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
12	電流と電圧	電流、電圧、抵抗の関係について簡単な回路を用いて説明する。さらに、電力についても講述する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
13	電磁波と電気信号	電磁波の性質について講述し、電磁波を利用しているさまざまな機器 (分析機器や家電) の基本原理についても説明する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
14	原子物理	物質を構成している原子・分子の構造について説明する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
15	全体のまとめ	物理学の農学への応用例を示しながら、これまでに講義で述べた重要事項を復習する。さらに最終確認テストを実施する。	———

関連科目	物理学実験
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮秀樹、上村 洸	森北出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	確認テスト (中間、最終)、小テストにより評価する。総合評価を確認テスト 65%、小テスト 35%の割合で算出する。
学生への	本講義では大学受験の物理ではなく、身近な現象や科学技術から見た物理が中心です。この授業を通して、身のまわりの自然現象の原因や最新科

メッセージ	学技術の原理・仕組みを考える力を身につけてください。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 8号館 2階 長島教授室 ※質問等は、授業後に受け付けます。また学内メールでも受け付けます。
備考	

科目名	生物統計学	科目名 (英文)	Biostatistics
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥本 裕
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAB2013a0		

授業概要・目的	例えば、夏季と冬季の200匹のテントウムシ200匹の体重測定データの数字を眺めていてもデータの特徴や傾向を理解するのは難しい。ちなみに、テントウムシは成虫のまま越冬します。データを適切に整理して、データを読み解くために使うのが統計的手法である。生物統計学では、添加剤の効果や品種の優劣などの判定に必要なデータの適切な集め方を知ること、ならびにデータに基づいて効果や優劣を判断することを目的に、植物や動物から集めたデータの読み解き方を学習する。
到達目標	① データを図や表にして、特徴を捉えることができる ② 平均値間の差を正しく検定できる ③ データの情報量に応じて適切な検定方法を選択できる ④ 回帰と相関を使い分けることができる ⑤ 分散分析でデータの平均値間の検定ができる。 ⑥ 適切なデータを取得するための条件を設定できる
授業方法と留意点	自作の学習教材を用いた板書でデータの特徴の捉え方や読み解き方を講義する。事前学習として、確認テストの受講を求める。講義中にはFormsを活用した演習を実施するので、スマホ、タブレット、ノートPCは必携。事後学習として、演習課題の提出を求める。
科目学習の効果 (資格)	教免：教科及び教科の指導法に関する科目 (理科・中高)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	統計数字からデータの特徴をつかむ	観察データ全体から生物現象の特徴を代表する値 (統計数字) の取り出し方を講義する。	事前：シラバスの理解 事後：演習課題
2	一部 (標本) をサンプリングして全体の推定する。	生物の特徴を調べるとき、その生物の全個体 (母集団) を測定せずに一部 (標本) を取り出して全体の値を推定する手法を講義する。	事前：確認テスト 事後：演習課題
3	データのばらつき (分散) の大きさの比較する理由	日本の20歳の男子の身長を知るために標本として100人の日本の20歳の男子の身長を測定すれば、そのデータには個人によるばらつきが生じる。このばらつきが大きさが標本の分散である。この値から日本の20歳の男子全員 (母集団) の分散の大きさを推定し、例えば日本の20歳の女子の身長のばらつきとの間に違いがあるかを比較する手法を講義する。	事前：確認テスト 事後：演習課題
4	データの分布と正規分布	生物現象のデータを多く集めると経験的に正規分布に近似できる。正規分布を利用して異なる地域で生息する生物間で特徴を比較する手法を講義する。	事前：確認テスト 事後：演習課題
5	標本の平均値から全体の平均値を知るための工夫	同じ生物に違う条件を施した場合の生育を比べる場面は多い。このとき、観察されている差が本当に意味のある差であることを客観的な基準で判定する手法を講義する。	事前：確認テスト 事後：演習課題
6	離散分布をするデータの読み解き方	身長や寝る時間のように連続的に変化する生物現象ばかりでなく、右に避けるか左に避けるかといった生物現象もある。このような不連続な生物現象を扱うための手法を講義する。	事前：確認テスト 事後：演習課題
7	ノンパラメトリックというデータの扱い方	目で見て花の色を濃赤色 赤色 淡赤色 無色に分けた場合と色素の量を測定した場合にはデータがもつ情報量が異なる。データのもつ情報量が少なくなるときに用いる統計的手法の中から代表的な手法を講義する。	事前：確認テスト 事後：演習課題
8	U検定を覚えておいて損はない	果樹の木の違いによる果実の糖度の違いを比べるとき、果実間の糖度のばらつきが大きいと、本当はどちらが甘いのかを判断するのは難しくなる。こんなときに使える手法を講義する。	事前：確認テスト 事後：演習課題
9	回帰は因果関係の確認と予測に使える	1週間後に生物がどの程度大きくなるかを予測するには、時間に対する生物の変化の程度を知ることが必要になる。このとき用いる手法を講義する。	事前：確認テスト 事後：演習課題
10	相関を使って分かること	睡眠時間とその日の歩数、などのように、何となく関係がありそうな生物現象の間の関係を調べるときに使える手法を講義する。	事前：確認テスト 事後：演習課題
11	回帰と相関の使い方	回帰と相関とを区別せずに使う人は極めて多いが、実は全く異なるものである。回帰は因果関係が明確な時にしか使えず、相関は因果関係を教えてはくれない。両者の適切な使い分けを講義する。	事前：確認テスト 事後：演習課題
12	分散分析を使う理由	複数の地域で生物を観察して環境が生物に及ぼす影響の大きさ調べることが	事前：確認テスト 事後：演習課題

			ある。データから、生物への環境の影響の大きさを推定する手法を講義する。	
	13	データを集める前に必要なこと	生物現象のデータを集める場合に一番大切なことは、偏りのないデータを取ることである。このために使う無作為化の手法を講義する。	事前：確認テスト 事後：演習課題
	14	実験結果から正しい判断をするための工夫	日当たりのいい場所の植物の生育が良い、などのように測定場所などの影響を避けられないとき、場所による影響を排除して実験結果を読み解くために必要なデータ収集のデザインを講義する。	事前：確認テスト 事後：演習課題
	15	生物現象には複数の要因が複雑に関与する	日射量と温度、施肥量と作物品種のように、生産性は様々な要因によって影響を受ける。要因Aと要因Bの特定の組み合わせで、予想外の結果が生じることがある。要因Aあるいは要因B単独効果では予測できない効果、すなわち交互作用を講義する	事前：確認テスト 事後：演習課題
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	指定しない		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	完全独習 統計学入門	小島寛之	ダイヤモンド社
	2	はじめての統計学	鳥居康彦	日本経済新聞社
	3	マンガでわかる統計学	高橋信	オーム社
評価方法 (基準)	講義前の確認テスト (40%)、講義中の演習 (20%)、講義後の課題提出 (50%) で評価し、60%以上で合格。 講義中の演習にはFroms を利用するので、スマートフォン、ノートパソコン、タブレットが必要。定期試験は実施しないが、電卓は必ず各自で購入しておくこと。 確認テスト、課題提出は Teams の講義チャンネルのファイルに課題をアップする。Self-test は指定の用紙を用いて解答し、WEB フォルダへ画像データをアップする場合と事務室前のレポートボックスへ提出する場合がある。提出方法が Self-tes			
学生への メッセージ	データを読み解くことに興味がある人は受講してください。数学が苦手な人にも分かるように、統計の原理を理解することよりも使い方を習得することに重きを置いた講義です。「習うより慣れろ」を実践するため、確認テスト、演習、課題提出を通して、多くの事例のデータの要約や読み解き方に触れてもらいます。			
担当者の 研究室等	植物遺伝育種科学			
備考	講義中に Froms を利用するので、スマートフォン、ノートパソコン、あるいはタブレット等を持参してください。電卓は必ず各自で購入しておくこと。定期試験だけでなく、講義中や事後の演習にも使うことができます。関数電卓でなくても構いませんが、四則演算だけでなく平方根が算出できるタイプのものが重要です。8桁くらいまでの計算ができるものなら1000円以下で購入できます。			

科目名	バイオテクノロジー	科目名 (英文)	Biotechnology
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	椎名 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP2⑩, DP3③		
科目ナンバリング	OAB1014a0		

授業概要・目的	現在、世界中の農地の1割以上で遺伝子組換え作物が栽培されている。遺伝子組換え技術は、現代農業における生産性拡大に寄与するとともに、農薬使用量の削減など環境保全にも非常に大きな貢献をしている。植物バイオテクノロジーを中心に、バイオテクノロジーの素晴らしい成果と課題を、様々な具体的事例に基づいて紹介する。ゲノム編集技術など、現在のバイオテクノロジーの最先端の話題にも触れる。また、動物や微生物を対象としたバイオテクノロジーの紹介も行う。
到達目標	① バイオテクノロジーの概要を理解する。 ② 植物バイオテクノロジーの現状と課題を理解する。 ③ バイオテクノロジーに関する基本知識を修得する。 ④ ゲノム編集技術など新しいバイオテクノロジー技術の基礎を理解する。 ⑤ バイオテクノロジーの最先端の研究を知る。
授業方法と留意点	教科書と資料プリントを使い、講義を行う。事前学習として教科書の指定部分を読み、基本事項に関する小テスト (Moodle 利用) を授業前に受験すること。また、講義の理解度を高めるために、授業後の小テストを毎回実施する。総合的思考力を確認するためのミニレポート (各自学習し、翌週までに提出) も適時実施する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	身近にあるバイオテクノロジー (1)	発酵食品は昔からのバイオテクノロジー。味噌、醤油、漬物やチーズ作りにおける微生物の働きを知るとともに、微生物の代謝についての理解を深める。	事前：シラバスの理解 事後：学習課題の学習
2	身近にあるバイオテクノロジー (2)	お酒もパンも酵母の助けで作られる。酵母のアルコール発酵を利用したお酒作りとパン作りについて理解し、原料の特質に合った発酵法を考案してきたことを知る。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
3	微生物バイオテクノロジー	微生物に葉や産業用酵素を作らせる。遺伝子組換え技術を利用した有用タンパク質生産について理解するとともに、その応用例を学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
4	食糧生産の歴史	農業は古くからのバイオテクノロジー。農業はどのように始まり、どう変わってきたのか？野生植物の栽培化や家畜化、農業技術の歴史を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
5	植物バイオテクノロジー	遺伝子組換え作物を栽培する理由。遺伝子組換え農業の現状を紹介するとともに、将来の可能性を解説する。遺伝子組換え農業の利点と課題を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
6	動物バイオテクノロジー	クローン動物って何？再生医療などに使われるバイオ技術を紹介し、その原理を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
7	ゲノムとバイオテクノロジー	DNA 鑑定からオーダーメイド医療まで、ゲノム情報を利用したバイオテクノロジー技術について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
8	未来のバイオテクノロジー	バイオテクノロジーで持続可能社会を目指す。地球環境の現状を知るとともに、持続可能社会の実現にバイオテクノロジーが果たす役割を考える。また、バイオテクノロジーと社会の関係についても考える。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
9	持続可能社会とバイオテクノロジー	遺伝子マーカーの開発など、農業におけるゲノム解析について理解する。	事後：学習課題の学習 ミニレポートの提出
10	微生物工学	微生物を利用して食品やアミノ酸だけでなく、抗生物質や抗ガン剤などを作ることできる。微生物を利用した最新のバイオテクノロジーを紹介する。	事後：学習課題の学習
11	共生微生物バイオ	共生微生物を利用したバイオテクノロジーを紹介する。	事後：学習課題の学習
12	植物ゲノム工学	農業における植物ゲノム情報利用について紹介する。	事後：学習課題の学習
13	動物バイオ	動物を対象としたバイオテクノロジーを紹介する。	事後：学習課題の学習
14	水産バイオ	水産動物を対象としたバイオテクノロジーを特に魚類育種に関連した技術を中心に紹介する。	事後：学習課題の学習
15	植物バイオ	実は身近になっている植物のバイオテクノロジーを紹介する。	事後：学習課題の学習

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	ひらく、ひらく「バイオの世界」：14歳からの生物工学入門	日本生物工学会	化学同人
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	キャンベル生物学	池内昌彦・伊藤元己・著本春樹 監訳	丸善出版
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学習確認小テスト(40%)、ミニレポート(20%)、定期試験(40%)で評価し、60%以上で合格とする。定期試験については、到達目標を評価できるレポート形式とする場合もある。その場合は事前に通知する。			
学生への メッセージ	バイオテクノロジーの歴史から未来まで、わかりやすく紹介します。授業の後半は、各研究室の先生方が、それぞれの専門とするバイオテクノロジーを紹介します。			
担当者の 研究室等	8号館3階 教員室303			
備考				

科目名	生物系統学	科目名 (英文)	Biodiversity and Systematics
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小保方 潤一, 井上 亮, 豊原 治彦, 和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAB1015a0		

授業概要・目的
地球が誕生したのは今から46億年前だが、40億年前の地層からは早くも生命の痕跡が検出されている。その頃の単純な生命体はやがて原核細胞や真核細胞に進化し、さらに進化や分岐を繰り返して地球上の様々な環境に進出し、多様な体制や増殖の仕組みをもつ様々な生物群が出現した。本講義では、生物の系統進化や分類群を縦糸に、それらの生物群が示す体制や生活史等を横糸にして、地球上に棲息する生物たちの多様な世界を具体的に学ぶ。これらの生物の多様性は、産業、文化、農学、応用生命科学、などの基礎ともなっており、この講義ではそれらの関係についても学ぶ。

- 到達目標**
- ① 細胞内共生進化について概説できる。
 - ② 藻類の主な系統と陸上植物について、それらの生活史と進化を概説できる。
 - ③ 古細菌、原核微生物、真核微生物の違いについて理解し、概説できる。
 - ④ 微生物と人間の関わり、産業利用について概略を理解して説明できる。
 - ⑤ 陸上動物の分類が概説できる。
 - ⑥ 産業動物の品種改良について概説できる。
 - ⑦ 主要な水産生物の分類体系について概説できる。

授業方法と留意点
この講義で扱う生物群は、大きく分けて、植物系、微生物系、動物系、海洋生物系、の4つのグループにまたがっており、この4分野を専門とする4名の教員によるリレー方式で講義を進める。また、各回の講義内容に応じて、事前学習や事後学習の課題を提示し、それらを通じて受講生の理解を深める。

科目学習の効果 (資格)
教員：教科及び教科の指導法に関する科目 (理科・中高)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地球の歴史と生命の誕生	地球の歴史、生命の誕生から真核生物の出現まで (担当: 小保方 潤一)	事前: シラバスの理解 事後: ミニレポートの提出
2	藻類が生み出した多様な世界	藻類の多様な体制や生活史とその進化 (担当: 小保方 潤一)	事後: ミニレポートの提出
3	陸に上がった植物と生活史	陸上植物の主な系統と生活史など (担当: 小保方 潤一)	事前: 事前学習課題の学習
4	植物の環境適応と進化	陸上植物の環境への適応と多様化 (担当: 小保方 潤一)	事後: ミニレポートの提出
5	原核微生物	古細菌、真性細菌の細胞構造や特徴について (担当: 和田 大)	事後: ミニレポートの提出
6	真核微生物	真核微生物である酵母やカビの特徴について (担当: 和田 大)	事後: ミニレポートの提出
7	菌類と産業との関わり	さまざまな菌類と人間生活との関わり、産業利用について (担当: 和田 大)	事後: ミニレポートの提出
8	動物、特に脊椎動物の食性の多様化	脊椎動物の分類や多様性について、特に食性に焦点をあてる (担当: 井上 亮)	事後: ミニレポートの提出
9	免疫系からみた脊椎動物の進化	免疫系の多様性から脊椎動物の起源・進化を考える (担当: 井上 亮)	事前: 事前学習課題の学習 事後: ミニレポートの提出
10	産業動物 (ウシ) の系統	くらしに関わる動物、特にウシの系統と品種改良について (担当: 井上 亮)	事前: 事前学習課題の学習
11	産業動物 (ブタ・ニワトリ) の系統	くらしに関わる動物、特にブタとニワトリの系統と品種改良について (担当: 井上 亮)	事前: 事前学習課題の学習 事後: ミニレポートの提出
12	水産生物の世界: 海綿と刺胞動物	カイメン、クラゲ、サンゴ、イソギンチャクなどの分類と多様性について (担当: 豊原 治彦)	事後: ミニレポートの提出
13	水産生物の世界: 冠輪動物	貝類、イカ・タコ、ゴカイなどの分類と多様性について (担当: 豊原 治彦)	事前: 事前学習課題の学習
14	水産生物の世界: 脱皮動物と新口動物	エビ・カニなどの分類と多様性について (担当: 豊原 治彦)	事後: ミニレポートの提出
15	水産生物の世界: 魚類、両生類、爬虫類、哺乳類	魚類、カエル、ウミガメ、ワニ、クジラなどの分類と多様性について (担当: 豊原 治彦)	事前: 事前学習課題の学習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	エッセンシャル キャンベル生物学	Simon, Dickey, Hogan, Reece (池内、伊藤、箸本 監訳)	丸善出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャンベル生物学	Urry, Cain, Wasserman, Minorsky, Reece (池内、伊藤、箸本、道上 監訳)	丸善出版
2			
3			

評価方法 (基準)
各授業の事前学習課題 (10%)、授業中の前回講義の学習確認小テスト (20%、15回目は講義の最後に実施)、事後課題 (10%)、期末試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生への

メッセージ	
担当者の研究室等	ゲノム生物学研究室（小保方）、応用微生物学研究室（和田）、動物機能科学研究室（井上）、海洋生物学研究室（豊原）
備考	

科目名	ゲノム分子生物学	科目名 (英文)	Molecular Biology of the Genome
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小保方 潤一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAB2016a0		

授業概要・目的
ゲノムは、DNA分子とそこに作用する多様な蛋白質やRNA分子から構築された、巨大な機能複合体である。本講義では、ゲノムの様々な性質を生み出している分子の働きを、複製、転写、翻訳、などの点から順に講じる。ゲノムや分子生物学という、一見、抽象的な知識の羅列、という印象があるかもしれないが、個々の現象の背後にある「分子の動き」やその「生物学的意味」を丁寧に追いかけていくと、色々な現象がつながって理解できるようになる。本講義では、重要なトピックについて、科学史の流れを織り交ぜながら、どのような作業仮説や実験から、どのような知見が明らかになり、その結果、どのような説明や概念が生み出されてきたのかを、平易に解説する。この講義を通じてゲノムと遺伝子の世界に迷い込み、そこに現れたパズルを解きながら、その進化のドラマを追体験してもらいたい。

- 到達目標**
- ① DNAの不連続複製機構について、その必要性和意味を説明できる。
 - ② 原核ゲノムと真核ゲノムでの転写制御について、要点を概説できる。
 - ③ 転写後制御を概説できる。
 - ④ スプライシング機構がゲノムや遺伝子の進化にどのように寄与したのかを説明できる。
 - ⑤ 翻訳制御の要点を概説できる。

授業方法と留意点
オンライン授業では、Microsoft Teamsを使用する。授業は基本的にリアルタイム形式で行うが、6月29日の火曜日から2年生の学生実験が始まるため、この日以降の授業はオンデマンド型で行う。オンライン授業と対面授業とでは、授業の進め方やトピックの順番などが少し変わるが、基本的には、毎回の授業の冒頭では前回講義した内容に関する復習とまとめを行い、それを基礎として、新しい現象や課題(科学的なクイズ)を紹介し、そのクイズを学生とともに考え、解いていくような形で授業を進めたい。対面授業が実施できる場合には、板書とプリント資料、パワーポイント等を使った講義を行い、必要に応じてDVDなどによる画像を提示して講義内容に対する理解を深める。

科目学習の効果(資格)
教免：教科及び教科の指導法に関する科目(理科・中高)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ゲノムの分子構築	原核ゲノムと真核ゲノム、ゲノムDNA、クロマチン、	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
2	複製の生化学	核酸の生化学と重合、DNAポリメラーゼの性質、複製フォーク	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
3	ゲノムの複製	岡崎フラグメントと連続複製機構、末端複製問題、テロメア	事前：事前学習課題の学習
4	複製と修復	なぜDNAにはウラシルがないのか	事後：ミニレポートの提出
5	転写	RNAポリメラーゼの性質、転写単位、転写を可視化する	事前：事前学習課題の学習
6	原核ゲノムの転写制御	オペロン、事前：事前学習課題の学習システム因子とトランス因子、 σ 因子、	事前：事前学習課題の学習
7	真核ゲノムと転写因子	転写開始複合体、転写因子の構造と機能、	事後：ミニレポートの提出
8	クロマチンと転写制御	クロマチンリモデリング	事後：ミニレポートの提出
9	RNAプロセッシング	RNAプロセッシング、RNA編集、スプライシング	事前：事前学習課題の学習
10	RNAスプライシング	エキソンシャフリング	事後：ミニレポートの提出
11	翻訳の基礎機構	ペプチド伸長の生化学、リボゾームの働き	事前：事前学習課題の学習
12	mRNAの翻訳	翻訳を制御する仕組み	事後：ミニレポートの提出
13	ゲノムの解読	DNA塩基配列の決定法とその発展	事後：ミニレポートの提出
14	機能性RNA	機能性RNAの種類と働き方	事後：ミニレポートの提出
15	ハイブリダイゼーション	ハイブリダイゼーションを使ってわかること	事前：事前学習課題の学習

関連科目 細胞生物学 (2年生後期、小保方が担当)

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎講義 分子生物学	田中弘文、井上英史 編	東京化学同人
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	休み時間の分子生物学	黒田裕樹	講談社
2	エッセンシャル細胞生物学	中村桂子、松原謙一 監訳	南江堂
3			

評価方法(基準) 各授業の事前学習課題(10%)、授業中の前回講義の学習確認小テスト(20%、15回目は講義の最後に実施)、事後課題(10%)、定期試験(60%)で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ オンライン授業と対面授業では、授業の進め方や講義内容の順序などが少し変わります。

担当者の研究室等備考 小保方潤一 ゲノム生物学研究室

科目名	植物遺伝子工学	科目名 (英文)	Plant Genetic Engineering and Agricultural Biotechnology
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	椎名 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAB2017a0		

授業概要・目的	作物の野菜の生産性は、環境ストレスや病害・食害によって低下する。逆に言えば、植物のストレス抵抗性を高めることで、農薬や肥料の使用を控えながら食料生産性を高めることができる。本授業では、植物遺伝子組換え技術の分子基盤と、その実用技術を学ぶ。さらに、最新の植物分子生理学研究から明らかになったストレス・病害抵抗性遺伝子の働きと役割を紹介し、それらを用いたストレス抵抗性植物の設計についても論じる。
到達目標	① 植物細胞の形質転換と再分化制御について理解できる。 ② 植物に導入した組換え遺伝子の発現を制御する技術について理解する。 ③ 遺伝子組換え農業の現状を知る。 ④ 植物のストレス応答の分子基盤を理解する。 ⑤ ストレス抵抗性植物の設計原理を理解する。
授業方法と留意点	教科書と資料プリントを使い、講義を行う。事前学習として教科書の指定部分を読み、基本事項に関する小テスト (Moodle 利用) を授業前に受験すること。また、講義の理解度を高めるために、授業後の小テストを毎回実施する。総合的思考力を確認するためのミニレポート (各自学習し、翌週までに提出) も適時実施する。
科目学習の効果 (資格)	教員：教科及び教科の指導法に関する科目 (理科・中高)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	植物と人間	地球規模の光合成評価と Human impact から、遺伝子農業の必要性を論じる。	事前：シラバスの理解
	2	植物の分化全能性	植物の分化全能性を理解し、細胞分化のホルモンによる制御法を学ぶ。	事前：学習範囲の予習
	3	植物の形質転換技術	アグロバクテリウムによる植物細胞の形質転換を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
	4	形質転換植物クローニング技術	形質転換植物の作成技術を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
	5	植物遺伝子発現操作技術	組換え遺伝子の発現場所や発現量を操作する技術を学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
	6	遺伝子組換え農業の現状	現在農業における遺伝子組換え農業の役割を理解する。	事後：学習課題の学習
	7	遺伝子組換え農業の課題	遺伝子組換え農業の課題と、その対応技術について理解する。	事後：学習課題の学習 ミニレポートの提出
	8	植物の乾燥適応	植物の乾燥ストレスへの適応機構を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
	9	気孔と環境応答	気孔の制御機構を分子レベルで理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
	10	植物の温度適応	植物の温度ストレスへの適応機構を理解する。	事前：学習範囲の予習
	11	植物免疫応答	植物の病原体感染への抵抗機構を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
	12	ストレス耐性植物の設計	植物のストレス適応遺伝子を利用したストレス耐性植物の設計を行う。	事前：学習範囲の予習
	13	病害抵抗性植物の設計	植物の病害抵抗性遺伝子を利用した病害抵抗性植物の設計を行う。	事前：学習範囲の予習
	14	ゲノム編集技術	植物のゲノム編集技術を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
	15	未来の植物バイオテクノロジー	遺伝子操作技術を利用した未来の農業について考える。	事前：学習範囲の予習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ベーシックマスター 植物生理学	塩井祐三、井上弘、近藤矩朗共編	オーム社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	キャンベル生物学	池内昌彦・伊藤元己・著本春樹 監訳	丸善出版
	2			
	3			

評価方法 (基準)	学習確認小テスト (40%)、ミニレポート (20%)、定期試験 (40%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	事前および事後学習の小テストに積極的に取り組んでください。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等備考	8号館3階教員室303
------------	-------------

科目名	ゲノム機能学	科目名 (英文)	Functional Genome Biology
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾 充啓
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAB2018a0		

授業概要・目的	多種多様な生物のゲノムが解析されるようになり、ゲノム情報から有用な情報を抽出して活用することが、現代農学の重要な課題となっている。そのゲノム情報を解析する上で鍵となるのは、進化の考え方であり、ゲノムの特性に関する様々な知識と共に応用利用される。ゲノム機能学においては、種々のゲノムの特性を生み出す分子メカニズムと進化の関係について解説し、そしてそれらと密接な関わりがあるゲノム改変技術について説明する。また現代生物学において基盤解析技術になりつつある大規模遺伝子配列解析についても触れ、その原理と応用例について説明する。
到達目標	① ゲノムを変動させる分子メカニズムとゲノム改変技術について概説できる。 ② 生物の進化、自然をゲノム変動の視点から捉えることができる。 ③ 大規模遺伝子配列解析手法の原理、根底にある考え方を理解する。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行い、講義内容により、DVD などによるビデオ学習を取り入れ理解を深める。また、講義毎に関連する問題を出しミニレポート課題とする。
科目学習の効果 (資格)	三年次の科目 (生物情報学、バイオインフォマティクス演習) を学習する上で基盤となる「ゲノム科学に関する基礎知識、考え方」を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	DNA 変異	突然変異、DNA 修復、遺伝子の相同・非同相組換え	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
	2	ゲノム増加	ゲノムの倍加、遺伝子重複、クラススイッチ組換え	事後：ミニレポートの提出
	3	トランスポゾン	トランスポゾン、DNA ウイルス、原核ゲノムの進化	事後：ミニレポートの提出
	4	レトロトランスポゾン	レトロトランスポゾン、RNA ウイルス、真核ゲノムの進化	事後：ミニレポートの提出
	5	ゲノム編集	ゲノムの抗ウイルスシステム、制限酵素、ゲノム編集	事後：ミニレポートの提出
	6	ジーンサイレンシング	RNA 干渉、ヘテロクロマチン、マイクロ RNA	事後：ミニレポートの提出
	7	植物の形質転換	植物の形質転換の分子メカニズム	事後：ミニレポートの提出
	8	ゲノムの進化戦略	遺伝子ファミリー、病原菌と宿主の軍拡競争	事後：ミニレポートの提出
	9	有性生殖と進化	集団遺伝学、有性生殖の進化	事後：ミニレポートの提出
	10	生物間相互作用とゲノム	寄生、共生者のゲノムオルガネラゲノム	事後：ミニレポートの提出
	11	オルガネラゲノム	細胞内共生進化、オルガネラゲノムの機能発現	事後：ミニレポートの提出
	12	大規模遺伝子配列解析	次世代シーケンサー解析技術の原理	事後：ミニレポートの提出
	13	比較ゲノム学	比較ゲノム解析の考え方、遺伝子ハンティング	事後：ミニレポートの提出
	14	環境ゲノム	マイクロバイオーム、ウイローム	事後：ミニレポートの提出
	15	ゲノム系統学	ゲノム系統学の原理	事後：ミニレポートの提出

関連科目	生物情報学、バイオインフォマティクス演習
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	エッセンシャル キャンベル生物学	Simon・Dickey・Hogan・Reece (池内昌彦、伊藤元己、箸本春樹 監訳)	丸善出版
	2	基礎講義 分子生物学	田中弘文・井上英史	東京化学同人
	3	休み時間の分子生物学	黒田裕樹	講談社

評価方法 (基準)	事後課題 (30%)、定期試験 (70%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	ゲノム情報は農学、医学の現場においてますます活用されるようになってきています。生物系の専門職を目指す皆さんには、是非ともゲノム情報を使いこなせるようになってほしいと考えています。本科目では、ゲノム情報を応用利用する上で重要なゲノム科学の知識、考え方を伝えたいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	ゲノム生物学研究室
----------	-----------

備考	ミニレポートについては、全体的によく間違いが見られた箇所について、授業中に解説する。
----	--

科目名	植物分子生理学	科目名 (英文)	Plant Molecular Physiology
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 裕介
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAB2019a0		

授業概要・目的	植物はどのように生きているのか？移動することが出来ない植物は芽生えた場所を外環境の変化に対応しながら生長していく。生育における多様な生理現象は、個々の生化学的現象により構築され、近年の分子レベルの解析はそれら仕組みを明らかにしている。「植物分子生理学」では、地球上の生命を支える植物の生命戦略とその機構を分子レベルで理解することを目的とする。本講義では、「植物の構造・成長・分化」「植物の栄養吸収・輸送」「光合成」について概説し、植物の生育に必須な機構について理解する。
到達目標	① 植物の各組織、器官、組織の構造と役割を理解できる。 ② 維管束植物が発達させた植物体内での物質輸送機構について概説できる。 ③ 植物の生育に必要な栄養素と、それらの土壌からの取り込みの基礎について概説できる。 ④ 光エネルギーの利用を可能にする光合成の機構を理解し、植物の成長生理の分子基盤を概説できる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行い、資料プリントを配布する。講義の理解度をはかるために、小テストとミニレポートを実施する。また、教科書の事前学習を行うこと。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	植物細胞の構造と機能	植物細胞の構造的特徴や細胞小器官について理解する	事前：シラバスの理解
2	植物組織の構造と機能	植物の各組織、器官の構造と機能について理解する	事前：学習範囲の予習
3	植物の発生と形態形成	植物の各組織の形態形成とその制御について理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
4	植物の生長と維管束組織	茎、葉の内部構造と維管束形成層について理解する	事前：学習範囲の予習
5	植物体内の物質輸送	植物細胞間、組織間での物質輸送について理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
6	植物と水	植物での水ポテンシャルと水の輸送について理解する	事前：学習範囲の予習
7	気孔と蒸散	気孔開閉のしくみと蒸散について理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
8	植物の生育と必須元素	植物は利用する栄養素について理解する	事前：学習範囲の予習
9	土壌と植物の栄養	土壌環境と植物の生育、栄養吸収について理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
10	老化と栄養分の転流	葉の老化と栄養素転流について理解する	事前：学習範囲の予習
11	葉緑体の構造と機能	葉緑体の植物における役割と機能を理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
12	光合成と光の捕集	クロロフィルと光エネルギーの捕集について理解する	事前：学習範囲の予習
13	光合成 光化学反応	光化学反応での光エネルギー変換と電子伝達を理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
14	光合成 炭素同化	光合成での二酸化炭素固定を理解する	事前：学習範囲の予習
15	光合成と環境、C4・CAM植物	ストレス下での光合成、C4・CAM植物について理解する	事前：学習範囲の予習 事後：ミニレポートの提出

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ベーシックマスター 植物生理学	塩井祐三, 井上弘, 近藤矩朗 共編	オーム社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャンベル生物学	池内昌彦・伊藤元己・箸本春樹 監訳	丸善出版
2			
3			

評価方法 (基準) 授業中の講義の学習確認小テスト (40%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ 植物がどのように生きているかを学んでみませんか。

担当者の研究室等 8号館 3F 植物分子生理学研究室

備考

科目名	細胞生物学	科目名 (英文)	Cell Biology
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小保方 潤一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAB2020a0		

授業概要・目的
組織・器官の分化や形態形成など、生物が示す様々な機能を理解するためには、細胞の構造と機能に関する基礎的な知識が必要である。本講義では、真核細胞を理解するポイントとして、細胞膜、膜輸送、細胞小器官、エネルギー代謝、細胞骨格と細胞運動、細胞内輸送系、シグナル伝達系、細胞分裂と細胞周期、細胞接着と組織形成、などの諸点を概説する。また、これらの知見を生み出した細胞の研究手法と、今後の発展についても言及する。

到達目標
① 細胞膜の構造と機能について説明できる。
② 細胞内小器官の構造と生化学的な機能について概説できる。
③ 細胞骨格と細胞運動について概説できる。
④ 細胞内での物質輸送について概説できる。
⑤ 細胞内でのシグナル伝達について概説できる。
⑥ 細胞分裂と細胞周期の仕組みについて概説できる。

授業方法と留意点
板書とプリント資料、パワーポイント等を使った講義を行い、必要に応じてDVDなどによる画像を提示して講義内容に対する理解を深める。また、授業の冒頭で前回講義した内容に関する復習を行うとともに、後半には学生との質疑応答の時間を設ける。配当年次や講義科目の性質上、1,2回生で開講されている選択科目の内容と部分的に重複・関連する部分がある。そのような部分を中心に、学生の事前学習とプレゼンテーション等によるアクティブラーニングを取り入れる。オンライン授業の場合は、Teams のリアルタイムで行う。

科目学習の効果 (資格)
教免：教科及び教科の指導法に関する科目 (理科・中高)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	細胞の研究法	細胞の多様性、細胞観察法、細胞標識法、細胞分画法	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
2	細胞膜	脂質二重層、膜骨格、膜タンパク質	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
3	膜輸送	膜輸送の原理、イオンチャンネル、膜電位	事前：事前学習課題の学習
4	核のダイナミズム	核膜、核膜孔、染色体のダイナミズム、核小体など	事後：ミニレポートの提出
5	細胞小器官	腹膜系オルガネラ、単膜系オルガネラ	事前：事前学習課題の学習
6	エネルギー代謝	光合成、解糖系、呼吸系、ペントースリン酸回路など	事後：ミニレポートの提出
7	細胞骨格	アクチン、微小管	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
8	細胞運動	ミオシン、キネシン、ダイニン	事後：ミニレポートの提出
9	タンパク質の品質管理	翻訳、分子シャペロン、プロテアソーム、ユビキチン	事前：事前学習課題の学習
10	タンパク質の選別と輸送	シグナル配列、小胞輸送、クラスリン	事後：ミニレポートの提出
11	サイトーシス	エキソサイトーシス、エンドサイトーシス	事前：事前学習課題の学習
12	シグナル伝達	シグナルの種類、シグナル受容体、シグナル伝達カスケード	事後：ミニレポートの提出
13	細胞分裂と細胞周期	細胞周期とチェックポイント、紡錘体形成と染色体分離	事前：事前学習課題の学習
14	細胞接着と組織形成	細胞の接着と分化、細胞接着タンパク質、接着構造	事後：ミニレポートの提出
15	細胞外空間	細胞外マトリクス、細胞外マトリクス分子、植物の細胞壁	事前：事前学習課題の学習

関連科目
ゲノム分子生物学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎細胞生物学	田村隆明	東京化学同人
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	これだけは知っておきたい 図解 細胞生物学	江島洋介	オーム社
2	エッセンシャル細胞生物学	中村桂子、松原謙一 監訳	南江堂
3			

評価方法 (基準)
各授業の事前学習課題 (10%)、授業中の前回講義の学習確認小テスト (20%、15 回目は講義の最後実施)、事後課題 (10%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ
オンライン授業と対面授業では、授業の進め方が多少異なります。また、細胞生物学では前期のゲノム分子生物学と関連させて授業を進めます。前期後期のこの二つの授業を通じて、「分子細胞生物学」全般に対する基礎的な知識、理解、考え方を身につけてもらいます。

担当者の研究室等
教員室 301 ゲノム生物学研究室

備考

科目名	生化学	科目名 (英文)	Biochemistry
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAB1021a0		

授業概要・目的	生化学は、生命現象を化学的に解明しようとする学問である。すなわち、生命現象を分子レベルでの量的質的变化として理解しようとする学問である。農学分野に限らず、広く生命現象の理解に不可欠であり、また、生物機能の利用と応用の観点からも絶対に必要な科目である。本講義では生物の構成と維持に関与する基本的化合物である糖質、タンパク質、脂質などの構造・種類・機能について学修する。これら化合物は、各種生命現象の発現に関わる重要な生化学的化合物であるため、化学構造式に慣れて、十分習熟することを目的とする。
到達目標	生物化学の基本的生体物質（糖質、アミノ酸、タンパク質、ビタミン類、脂質、核酸）について、次の3点ができるようになること。 ① それぞれ代表的物質を挙げることができる。 ② 基本的な化学構造を説明できる。 ③ 性質・機能・重要性について説明できる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行うが、内容によっては、理解を助けるためにDVDなどによる動画を用いることもある。また、各講義後に、その日に講義した内容に関する小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	生命現象を化学的な面から理解できる様になり、動物、植物、微生物を問わず、あらゆる生物の活動を正しく理解できるようになります。教免：教科及び教科の指導法に関する科目（理科・中高）

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	生化学とは	イントロダクション、生化学の歴史	事後：小テストの復習
2	化学の基礎 I	生化学に必須の基礎的的化学知識の復習（化合物の命名法、生体中の有機化合物について）	事後：小テストの復習
3	化学の基礎 II	生化学に必須の基礎的的化学知識の復習（生体中で起こる化学反応について）	事後：小テストの復習
4	糖質 I	生体を構成する単糖、少糖類の構造・機能について	事後：小テストの復習
5	糖質 II	生体を構成する多糖類の構造・機能について	事後：小テストの復習
6	アミノ酸	アミノ酸の構造と機能	事後：小テストの復習
7	タンパク質	ペプチド結合、タンパク質の立体構造について	事後：小テストの復習
8	酵素	生体触媒である酵素反応の基礎	事後：小テストの復習
9	補酵素	ビタミンや補酵素の構造や機能	事後：小テストの復習
10	脂質 I	脂肪酸、中性脂肪、リン脂質	事後：小テストの復習
11	脂質 II	生体膜について	事後：小テストの復習
12	核酸 I	DNA、RNA 等の基本単位の化学構造	事後：小テストの復習
13	核酸 II	高分子 DNA、RNA について	事後：小テストの復習
14	代謝と生合成	糖質、アミノ酸、タンパク質の分解と生合成	事後：小テストの復習
15	自己複製	DNA の情報に基づくタンパク質生合成機構の基本	事後：小テストの復習

関連科目	化学、化学演習（1年生前期）
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての生化学第2版	平澤栄次	化学同人
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎からわかる生化学	坂本順司	裳華房
	2			
	3			

評価方法 (基準)	試験での得点 (80%)、講義各回の小試験の点数 (20%) を合わせた総合点に基づき評価し、総合点 60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	生化学とは細胞の中で絶え間なく起こっている化学反応を理解する学問領域です。皆さんの体内でも、生きている限り化学反応が起こっています。生化学は化学構造式や化学反応式に慣れていないと難しく感じがちですが、生命の理解には必要不可欠なので、頑張って学習して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	農学部（8号館）3階307号室、応用微生物研究室
----------	--------------------------

備考	
----	--

科目名	応用微生物学	科目名 (英文)	Applied Microbiology
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAB2022a0		

授業概要・目的
有用微生物とその利用に関して講義を行う。本講義では人類に役立つ細菌類及び真菌類に関する微生物バイオテクノロジーについて広く述べる。具体的には1)各種発酵食品製造における微生物の役割、我々が微生物をどのように生活の中で利用してきたのか、2)有用物質生産の実例として、代謝制御発酵によるアミノ酸、核酸等の発酵生産に関する遺伝生化学的理論と工業化の実際、抗生物質の発酵生産について、3)ニューバイオテクノロジーによる微生物機能の有効利用の事例として、遺伝子工学の利用による異種タンパク質の生産、代謝工学等について、4)地球環境問題への微生物の利用として、環境修復のためのバイオテクノロジーについて、などを学修する。また、それらを自らが展開していくために必要な考え方、今後の発展の方向などについて講義する。

- 到達目標**
- ① 人間が利用する微生物の種類について、理解して概説できる。
 - ② 微生物を利用するための代謝に関する知識、微生物の育種の方法について理解し、概説できる。
 - ③ 各種発酵食品製造における微生物の役割について、理解し、概説できる。
 - ④ 代謝制御発酵によるアミノ酸、核酸等の発酵生産に関する理論と工業化の実際について、理解し、概説できる。
 - ⑤ 腸内フローラ、プレバイオティクスについて理解し、概説できる。
 - ⑥ 我々が微生物をどのように生活の中で利用しているのか、説明する際に修得内容を活用できる。

授業方法と留意点
パワーポイント、板書を主に講義を行うが、内容によっては、理解を助けるためにDVDなどによる動画視聴を行う場合がある。各講義後に、その回に講義した内容に関する小テストを実施する。

科目学習の効果 (資格)
教免：教科及び教科の指導法に関する科目 (理科・中高)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	応用微生物学とは	イントロダクション、微生物の種類、応用微生物学の歴史	事後:小テストの復習
2	細菌	応用微生物学における細菌類の利用について	事後:小テストの復習
3	真菌	応用微生物学における真菌類(酵母、カビ)の利用について	事後:小テストの復習
4	微生物の代謝 I	微生物の同化と異化。デンプンからアルコールなど	事後:小テストの復習
5	微生物の代謝 II	微生物によるアミノ酸、核酸の生合成、物質生産との関連	事後:小テストの復習、レポート1
6	発酵食品 II	食品製造に役立つ微生物その1. 酒、味噌、しょう油など	事後:小テストの復習
7	発酵食品 II	食品製造に役立つ微生物その2. 納豆、食品添加用酵素など	事後:小テストの復習
8	微生物の改良 I	古典的手法による微生物の品種改良。突然変異誘発法など	事後:小テストの復習
9	微生物の改良 II	遺伝子組換え法による微生物の品種改良	事後:小テストの復習
10	発酵生産 I	アミノ酸、核酸の発酵生産。代謝制御発酵など	事後:小テストの復習
11	発酵生産 II	抗生物質、遺伝子組換えタンパク質など	事後:小テストの復習、レポート2
12	健康と微生物	プレバイオティクス、プロバイオティクスなど	事後:小テストの復習
13	環境と微生物	排水処理、廃棄物処理に役立つ微生物	事後:小テストの復習
14	農業と微生物	微生物農薬、植物共生菌など	事後:小テストの復習
15	低炭素社会と微生物	バイオエタノール、バイオプラスチックなど	事後:小テストの復習

関連科目 生化学 (1年後期)、微生物工学 (2年後期)

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎生物学テキストシリーズ4 微生物学	青木健次	化学同人
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	バイオテクノロジーの教科書上	ラインハート・レンネバーク	講談社
2	バイオテクノロジーの教科書下	ラインハート・レンネバーク	講談社
3			

評価方法 (基準) 授業中の毎回の学修確認小テスト (20%、15回を各講義の最後に実施。Formsを利用)、レポート課題 (20%)、定期試験 (60%) で評価し、合計60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ 応用微生物学は微生物の機能を人に役立たせるための学問です。微生物の利用は古代から行われており、人間の生活と密接に関連しています。本講義は1年生向けの「生化学」や応用生物科学科の実験科目とも関連しています。しっかり学習してください。

担当者の研究室等 応用生物科学科応用微生物学研究室 (8号館3階307教員室)

備考

科目名	生態学	科目名 (英文)	Ecology
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	海道 真典
ディプロマポリシー (DP)	DP2②, DP3③		
科目ナンバリング	OAB2023a0		

授業概要・目的	地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、森林破壊、砂漠化の進行等々の環境問題の解決は21世紀の人類にとって喫緊の課題であり、環境と生物との関係性の科学である「生態学」の重要性はいよいよ高くなりつつある。「生態学」では私たちヒトを含む全ての生物種、または個体群が環境から受ける様々な恩恵と制約について、また逆に生物が環境を改変するメカニズムについて解説し、生態系の保全のために必要な方法について考える。
到達目標	① 生態学の専門用語について、その意味を正確に理解し解説できる。 ② 環境が生物の進化に及ぼす役割について概説できる。 ③ 変動する生態系における種の生存戦略について、例を挙げて説明できる。 ④ エネルギーや主要元素の循環の観点から生態系を理解できる。 ⑤ ヒトの生存の観点から、生態系の重要性を正確に理解し、説明できる。
授業方法と留意点	授業は講義中心で行う。パワーポイントと板書を利用する。プリント配布は原則的に行わないので、毎回教科書または参考書を携帯し、ノートをしっかりとること。授業中区切りのよいところで質疑応答の時間を設ける。事前学習の到達度を確認するための小テスト (5分間程度) を毎回行う。15回のうち指定した7回は、授業後の課題を moodle で提出する。次回の講義の小テストの後で、これに関する解説を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員：教科及び教科の指導法に関する科目 (理科・中高)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	生態学とは	生態学とはどのような学問分野か、何をどのような手法で取り扱うのかについて概説する。	事前：シラバスの理解。教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。
	2	生物	構造と機能から見た生物の共通性と多様性について解説し、環境との相互作用について考える。	事前：教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。 事後：moodle 小テストに回答すること。
	3	進化と生態	地球上の様々な環境をつくり出す要因について概説し、生物がこれに如何にして適応、あるいは順応してきたかについて概説する。突然変異と自然選択、種分化の概念について解説する。	事前：教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。
	4	生活史の適応進化	コストの点から見た繁殖、性の進化について解説する。	事前：教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。 事後：moodle 小テストに回答すること。
	5	個体群	一定空間内の同一種の個体の集団を意味する「個体群」について概説する。その規模の増減や年齢構造 (動態) とその決定要因について解説する。	事前：教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。 事後：moodle 小テストに回答すること。
	6	種間競争とニッチ	資源を巡る種内競争と生態的ニッチについて解説する。	事前：教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。
	7	適応戦略	植物と動物の整理生態的特性と環境への適応戦略について解説する。	事前：教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。
	8	動物の行動と社会	動物の縄張り、配偶行動、社会行動、利他性の進化について解説する。	事前：教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。 事後：moodle 小テストに回答すること。
	9	生物種間相互作用	種間競争、共進化、捕食-被食による個体数変動について解説する。	事前：教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。
	10	寄生と共生	共生の概念について詳述する。また二つの種間相互作用様式の確立と発展について解説する。	事前：教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。 事後：moodle 小テストに回答すること。
	11	生物群集	生物群集の概念について概説し、種多様性、植生の分布と遷移について、数式を駆使して考察する。	事前：教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。
	12	生態系の構造と機能	生態系に流入・流出する主要な元素やエネルギーの観点から生態系を考える。炭素循環、窒素循環について詳説する。	事前：教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。
	13	気候変動	温室効果のメカニズムについて概説し、近年特に大きな問題となっている地球温暖化が植生や海洋生態系に与える影響について考える。	事前：教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。 事後：moodle 小テストに回答すること。
	14	生態系の保全	失われた環境を取り戻し生態系を復元することが可能なのか、海外と国内の具体例を引きつつ理解を深める	事前：教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。 事後：moodle 小テストに回答すること。
	15	地球生態系の現状と未来	生物多様性の危機、気候変動の緩和策などについて解説する。	事前：教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。 事後：授業の最後に課すレポートを作製し、提出すること。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	エッセンシャル・キャンベル生物学 原書6版	Simon, Dickey, Hogan, Reece	丸善出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生態学入門 第2版	日本生態学会編	東京化学同人
	2	生態学 個体から生態系へ (原著第4版)	M. Begon, J. L. Harper, C. R. T.	京都大学学術出版会

	3	大学生のための生態学入門	Townsend 西村尚之	共立出版
評価方法 (基準)	各授業の事前学習の理解度確認のための小テスト、授業内容確認のための小テスト、および定期試験の成績を総合的に勘案し、60%以上で合格とする。授業中不定期に課される質問に対して積極的に挙手ボタンを押して答えた学生には加点する。			
学生への メッセージ	生態学は私たち人類を含む生物と、私たちが暮らす環境との関係性について学ぶ学問です。「自然の中の経済学」とも定義されますが、本講義では複雑な数式などは可能な限り除いて分かりやすい授業を目指します。エッセンシャル・キャンベル生物学 原書 6 版の 18 章～20 章を教科書として指定します（キャンベル生物学原書 11 版を持っている方は、そちらでも結構です）が、物足りないと思う方は参考書を手に取ってみてください。			
担当者の 研究室等	植物環境微生物学研究室 305 号			
備考				

科目名	微生物工学	科目名 (英文)	Microbial Engineering
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAB2024a0		

授業概要・目的	微生物は、我々人類の健康を脅かし、家畜や農作物に多大な被害をもたらすと一方で、発酵食品や医薬品など多くの恩恵も与えてきた。近年のバイオテクノロジーの発展により、食品や医薬品だけでなく、環境やエネルギーなどの幅広い分野での微生物利用が期待されている。「応用微生物学」では、多様な微生物について、我々との関わりを中心に広範な内容を学修した。「微生物工学」では、その中から、微生物による物質生産に焦点を絞り、微生物機能とその活用方法についての理解を深めることを目的とする。また、微生物の遺伝子組換え技術など、卒業研究で行う実験内容とも関連のある手法とその原理についても学修する。																																																																		
到達目標	① 原核微生物と真核微生物の分類とその違いを理解し、概説できる。 ② 一次代謝と二次代謝のそれぞれの働きを理解し、違いを概説できる。 ③ 微生物の生産する二次代謝物の種類や機能について理解し、それらについて例を挙げて説明できる。 ④ 微生物変換や酵素利用などによる有用物質生産の仕組みを理解し、例を挙げて説明できる。 ⑤ 研究で実際に用いられている遺伝子組換え技術の種類とその原理について理解する。 ⑥ 物質生産を介した我々と微生物の関わりについて説明する際、学修内容を活用できる。																																																																		
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行うが、内容によっては、理解を助けるために DVD などによる動画を用いることもある。また、各講義前に、前回到講義した内容に関する小テストを実施する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>微生物による物質生産</td> <td>イントロダクション、微生物機能の利用法</td> <td>事前：シラバスの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>分類と細胞構造の違い</td> <td>微生物の分類、原核細胞と真核細胞の違い</td> <td>事前：指示範囲の予習 事後：ミニレポートの提</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>一次代謝</td> <td>中央代謝経路と物質生産の関わり</td> <td>事前：指示範囲の予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>二次代謝 I</td> <td>脂質・テルペノイド生合成</td> <td>事前：指示範囲の予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>二次代謝 II</td> <td>ポリケチド・ペプチド生合成</td> <td>事前：指示範囲の予習 事後：ミニレポートの提</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>物質生産 I</td> <td>抗生物質とは</td> <td>事前：指示範囲の予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>物質生産 II</td> <td>医薬・農薬として利用されている化合物</td> <td>事前：指示範囲の予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>物質生産 III</td> <td>新たな生理活性物質を求めて</td> <td>事前：指示範囲の予習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>微生物変換 I</td> <td>微生物変換による物質生産</td> <td>事前：指示範囲の予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>微生物変換 II</td> <td>酵素の利用による物質生産</td> <td>事前：指示範囲の予習 事後：ミニレポートの提</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>遺伝子組換え技術 I</td> <td>遺伝子組換え技術の基礎</td> <td>事前：指示範囲の予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>遺伝子組換え技術 II</td> <td>遺伝子改変技術の進展</td> <td>事前：指示範囲の予習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>遺伝子組換え技術 III</td> <td>タンパク質機能解析</td> <td>事前：指示範囲の予習 事後：ミニレポートの提</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>合成生物学</td> <td>微生物における物質生産の新たな展開</td> <td>事前：指示範囲の予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ゲノム情報</td> <td>ゲノム情報の活用、メタゲノム</td> <td>事前：指示範囲の予習 事後：ミニレポートの提</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	微生物による物質生産	イントロダクション、微生物機能の利用法	事前：シラバスの理解	2	分類と細胞構造の違い	微生物の分類、原核細胞と真核細胞の違い	事前：指示範囲の予習 事後：ミニレポートの提	3	一次代謝	中央代謝経路と物質生産の関わり	事前：指示範囲の予習	4	二次代謝 I	脂質・テルペノイド生合成	事前：指示範囲の予習	5	二次代謝 II	ポリケチド・ペプチド生合成	事前：指示範囲の予習 事後：ミニレポートの提	6	物質生産 I	抗生物質とは	事前：指示範囲の予習	7	物質生産 II	医薬・農薬として利用されている化合物	事前：指示範囲の予習	8	物質生産 III	新たな生理活性物質を求めて	事前：指示範囲の予習	9	微生物変換 I	微生物変換による物質生産	事前：指示範囲の予習	10	微生物変換 II	酵素の利用による物質生産	事前：指示範囲の予習 事後：ミニレポートの提	11	遺伝子組換え技術 I	遺伝子組換え技術の基礎	事前：指示範囲の予習	12	遺伝子組換え技術 II	遺伝子改変技術の進展	事前：指示範囲の予習	13	遺伝子組換え技術 III	タンパク質機能解析	事前：指示範囲の予習 事後：ミニレポートの提	14	合成生物学	微生物における物質生産の新たな展開	事前：指示範囲の予習	15	ゲノム情報	ゲノム情報の活用、メタゲノム	事前：指示範囲の予習 事後：ミニレポートの提
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	微生物による物質生産	イントロダクション、微生物機能の利用法	事前：シラバスの理解																																																																
2	分類と細胞構造の違い	微生物の分類、原核細胞と真核細胞の違い	事前：指示範囲の予習 事後：ミニレポートの提																																																																
3	一次代謝	中央代謝経路と物質生産の関わり	事前：指示範囲の予習																																																																
4	二次代謝 I	脂質・テルペノイド生合成	事前：指示範囲の予習																																																																
5	二次代謝 II	ポリケチド・ペプチド生合成	事前：指示範囲の予習 事後：ミニレポートの提																																																																
6	物質生産 I	抗生物質とは	事前：指示範囲の予習																																																																
7	物質生産 II	医薬・農薬として利用されている化合物	事前：指示範囲の予習																																																																
8	物質生産 III	新たな生理活性物質を求めて	事前：指示範囲の予習																																																																
9	微生物変換 I	微生物変換による物質生産	事前：指示範囲の予習																																																																
10	微生物変換 II	酵素の利用による物質生産	事前：指示範囲の予習 事後：ミニレポートの提																																																																
11	遺伝子組換え技術 I	遺伝子組換え技術の基礎	事前：指示範囲の予習																																																																
12	遺伝子組換え技術 II	遺伝子改変技術の進展	事前：指示範囲の予習																																																																
13	遺伝子組換え技術 III	タンパク質機能解析	事前：指示範囲の予習 事後：ミニレポートの提																																																																
14	合成生物学	微生物における物質生産の新たな展開	事前：指示範囲の予習																																																																
15	ゲノム情報	ゲノム情報の活用、メタゲノム	事前：指示範囲の予習 事後：ミニレポートの提																																																																
関連科目	生化学, 応用微生物学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>応用微生物学 第3版</td> <td>横田 篤, 大西康夫, 小川 順 (編)</td> <td>文永堂, 2016</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>微生物学</td> <td>青木 建次</td> <td>化学同人, 2007</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	応用微生物学 第3版	横田 篤, 大西康夫, 小川 順 (編)	文永堂, 2016	2	微生物学	青木 建次	化学同人, 2007	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	応用微生物学 第3版	横田 篤, 大西康夫, 小川 順 (編)	文永堂, 2016																																																																
2	微生物学	青木 建次	化学同人, 2007																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業中の前回講義の学習確認小テスト (20%、15 回目は講義の最後に実施)、レポート課題 (20%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ	私たちの生活は目には見えない「微生物」の力によって支えられています。最新の遺伝子工学技術やその原理に触れながら、微生物の働きや秘められた力がどのように活用されているのかを学んでいきましょう！																																																																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス 8号館 3F 応用微生物学研究室 (教員室 308)																																																																		
備考																																																																			

科目名	共生ウイルス学	科目名 (英文)	Virology and Symbiosis
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	海道 真典
ディプロマポリシー (DP)	DP2②, DP3③		
科目ナンバリング	OAB2025a0		

授業概要・目的	生物はそれ単独ではなく、他種との関係の中で生存する。共生とは異なる生物種が同じ時空間にあって互いに様々なシグナルのやり取りを通じて生存する状態であり、双方が利益を享受する「相利共生」から片方が他方を一方的に収奪する「寄生」まで様々な関係性を含む。「共生ウイルス学」では、このような関係性の基礎について概説し、続いてウイルスの増殖メカニズムおよび病原性と、宿主生物の抵抗性反応について詳説し、ウイルスと宿主生物との寄生および共生関係について論考する。
到達目標	①様々な動物および植物と微生物間の相利共生と片利共生について、それぞれ例をあげて説明できる。 ②共生の概念の変遷とその理由について説明できる。 ③ウイルス分類における基本理念について説明できる。 ④ウイルスゲノムの複製機構について概説できる。 ⑤植物ウイルス病の移行機構について概説できる。 ⑥動植物がウイルスに対してどのような防御戦略を持つのかについて、具体例を挙げて説明できる。
授業方法と留意点	授業は講義中心で行う。パワーポイントと板書を利用する。毎回教科書または参考書を携帯し、ノートをしっかりとること。授業中区切りのよいところで質疑応答の時間を設ける。事前学習の到達度を確保するための小テスト (5分間程度) を毎回行う。授業後の課題を moodle で提出する。最終回を除いて、次回の小テストの後で、これに関する解説を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員: 教科及び教科の指導法に関する科目 (理科・中高)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	共生とは	種間相互作用、共生の概念、共生と寄生、微生物間の共生について解説する。	事前: シラバスの理解 事後: moodle 小テストに回答すること。
2	動物と共生微生物	腸内常在菌叢、シロアリおよび昆虫と共生微生物との相互作用について解説する。	事前: 教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。 事後: moodle 小テストに回答すること。
3	植物と共生微生物	根圏微生物、マメ科植物と根粒菌について解説する。	事前: 教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。 事後: moodle 小テストに回答すること。
4	ウイルスに関する序論	ウイルスおよびウイロイド研究の歴史、ウイルス病の歴史、基本構造について解説する。	事前: 教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。 事後: moodle 小テストに回答すること。
5	ウイルスの形態と分類	各種ウイルス粒子の形態とゲノム構成および分類についての概説。	事前: 教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。 事後: moodle 小テストに回答すること。
6	DNA ウイルスの複製機構	DNA ウイルスの遺伝子発現およびゲノム DNA の複製メカニズムについて解説する。	事前: 予め指定した教材を事前に読んでおくこと。 事後: moodle 小テストに回答すること。
7	RNA ウイルスの複製機構	RNA ウイルスの遺伝子発現およびゲノム RNA の複製メカニズムについて解説する。	事前: 予め指定した教材を事前に読んでおくこと。 事後: moodle 小テストに回答すること。
8	植物ウイルスの細胞間移行機構	移行タンパク質、原形質連絡、植物ウイルスの細胞内および細胞間移行メカニズムについて解説する。	事前: 教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。 事後: moodle 小テストに回答すること。
9	植物ウイルスの全身感染機構	維管束組織、植物ウイルスの維管束組織への侵入、長距離移行のメカニズムについて解説する。	事前: 教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。 事後: moodle 小テストに回答すること。
10	抵抗性遺伝子とその働き	植物ウイルスと植物との相互作用に関連して、植物の抵抗性遺伝子の種類とその働きについて解説する。	事前: 教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。 事後: moodle 小テストに回答すること。
11	遺伝子サイレンシング	ウイルスやトランスポゾンに対抗するために広く動植物が有する RNA サイレncing機構について解説する。	事前: 予め指定した教材を事前に読んでおくこと。 事後: moodle 小テストに回答すること。
12	植物ウイルスのサイレンシング抑制機構	サイレンシングサプレッサータンパク質の働き、サプレッサータンパク質によらないサイレンシング抑制機構について解説する。	事前: 予め指定した教材を事前に読んでおくこと。 事後: moodle 小テストに回答すること。
13	DNA ウイルスとマイナス鎖 RNA ウイルスによる農業被害と防除	DNA ウイルス、マイナス鎖 RNA ウイルスの中から農業上重要なウイルス種について概説し、その防除法について解説する。	事前: 教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。 事後: moodle 小テストに回答すること。
14	プラス鎖 RNA ウイルスによる農業被害と防除	プラス鎖 RNA ウイルスの中から農業上重要なウイルス種について概説し、その防除法について解説する。	事前: 予め指定した教材を事前に読んでおくこと。 事後: moodle 小テストに回答すること。
15	植物ウイルスと植物との共生	無病徴感染、植物ウイルス感染と生理機能の関連、ウイルスが宿主生物の生存や進化にとって有利に働く例について解説する。	事前: 予め指定した教材を事前に読んでおくこと。 事後: moodle 小テストに回答すること。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生命科学のための ウィルス学 感染と宿主応答のしくみ、医療への応用</td> <td>David. R. Harper</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	生命科学のための ウィルス学 感染と宿主応答のしくみ、医療への応用	David. R. Harper	南江堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	生命科学のための ウィルス学 感染と宿主応答のしくみ、医療への応用	David. R. Harper	南江堂														
2																	
3																	
参考書																	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	植物ウイルス学	池上正人、上田一郎、奥野哲郎、夏秋啓子、難波成任	朝倉書店
	2	共生微生物	大野博司 編	化学同人
	3			
評価方法 (基準)	各授業の事前、および事後課題 (30%)、定期試験 (70%) で評価し、60%以上で合格とする。 授業中不定期に課す質問に挙手して回答した人には適宜加点する。			
学生への メッセージ	ウイルスはほとんど全ての生物に感染し、膨大な種類と数が地球上に存在しています。本講義では具体例を出来るだけ紹介し、ウイルスの増殖および伝搬メカニズムについて分かりやすく解説します。これらを通じて、生物そのものに対する興味を深めてもらいたいと思います。「生命科学のためのウイルス学 (南江堂)」を教科書として指定しますが、これには植物ウイルスに関する記述がないため、植物ウイルスに関するパートについては、資料の配布、もしくは有用なウェブサイトを紹介いたしますので、それらの情報から予習をして下さい。			
担当者の 研究室等	植物環境微生物学研究室 305 号			
備考				

科目名	産業動物学	科目名 (英文)	Livestock and Companion Animals
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	井上 亮
ディプロマポリシー (DP)	DP2②, DP3③		
科目ナンバリング	OAB2027a0		

授業概要・目的	産業動物とは、その飼育が経済行為として行われる動物の総称であり、家畜、家禽を主として、養蜂に使われるミツバチなども産業動物に分類される。いずれの産業動物も、我々ヒトの日々の食事を支える重要な動物である。「産業動物学」では、主要な産業動物である家畜、家禽、すなわちウシ、ブタ、ニワトリに焦点を絞り、その生態や生理について説明し、それぞれの違いを学ぶとともに、我が国における家畜、家禽についての基本的な知識を身につける。
到達目標	① 産業動物とは何かを理解する。 ② 主要な産業動物である、ウシ、ブタ、ニワトリの生態・生理とそれぞれの違いを概説できる。 ③ 日本の畜産の状況を理解する。 ④ 畜産の利活用について概説できる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行い、講義内容により、獣医師などの外部講師による講義を取り入れ理解を深める。また、各講義後に、その日の講義内容に関する小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	教免：教科及び教科の指導法に関する科目 (理科・中高)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	産業動物について	産業動物の定義について	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
2	日本と世界の畜産	我が国と世界の畜産の類似・相違点について	事前：事前学習課題の学習
3	ウシ (乳牛)	乳牛の生態・生理について	事前：事前学習課題の学習
4	ウシ (肉牛)	肉牛の生態・生理について	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
5	ブタ (生理)	ブタの生理・生態について	事前：事前学習課題の学習
6	ブタ (飼養)	ブタの飼養について	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
7	ニワトリ (卵)	産卵鶏と卵について	事前：事前学習課題の学習
8	ニワトリ	肉用鶏について	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
9	飼料について	産業動物の飼料について	事前：事前学習課題の学習
10	消化管の構造について	産業動物の消化管の構造について	事前：事前学習課題の学習
11	消化管の機能について	産業動物の消化管の機能について	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
12	産業動物の免疫について	産業動物の免疫について	事前：事前学習課題の学習
13	家畜伝染病について	日本、世界の家畜伝染病について	事前：事前学習課題の学習
14	異種移植について	異種動物間 (産業動物→ヒト) の移植について	事前：事前学習課題の学習
15	畜産物利用	畜産物の利活用について	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 各授業の事前学習課題 (10%)、授業中の講義の学習確認小テスト (20%)、事後課題 (10%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等

備考

科目名	動物機能科学	科目名 (英文)	Animal Structure and Function
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	井上 亮
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAB2028a0		

授業概要・目的	動物の生命活動は、様々な臓器が正しく協調して活動することで実現する。例えば、消化器が栄養を分解吸収しなければ食べ物を食べても体を維持することができないし、腎臓が機能しなければ体から老廃物を排出することができない。「動物機能科学」では、特に哺乳類の体の構造や、各種臓器の機能、及び各種臓器が関係する疾病について説明する。ヒトを含む動物に関わる最低限必要な知識に加えて、日常生活で耳にすることが多い病気や健康に関わる言葉を理解できる知識を身につける。																																																																		
到達目標	① 哺乳類の体の構造を概説できる。 ② 哺乳類の臓器の名称、機能を概説できる。 ③ 動物の病気について理解できる。																																																																		
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行い、DVD など映像による講義を取り入れ理解を深める。また、各講義後に、その日の講義内容に関する小テストを実施する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	教免：教科及び教科の指導法に関する科目 (理科・中高)																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>動物の多様性</td> <td>動物の定義やその多様性について</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>動物の発生</td> <td>動物の発生について</td> <td>事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>動物の体の構造動物の体の構造</td> <td>動物の体の構造、臓器の名称について</td> <td>事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>呼吸器系の構造と機能</td> <td>呼吸器系の構造と機能について</td> <td>事前：事前学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>呼吸器系が関係する疾病</td> <td>呼吸器系が関係する疾病について</td> <td>事前：事前学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>消化器系の構造</td> <td>消化器系の構造について</td> <td>事前：事前学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>消化器系の機能</td> <td>消化器系の機能について</td> <td>事前：事前学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>消化器系が関係する疾病</td> <td>消化器系が関係する疾病について</td> <td>事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>神経系の構造</td> <td>神経系の構造について</td> <td>事前：事前学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>神経系の機能</td> <td>神経系の機能について</td> <td>事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>免疫系</td> <td>自然免疫と獲得免疫について</td> <td>事前：事前学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>免疫系が関係する疾病</td> <td>免疫系が関係する疾病について</td> <td>事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>実験動物について</td> <td>実験動物の定義と生態、動物福祉について</td> <td>事前：事前学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>機能的食品について (定義)</td> <td>動物やヒトの健康をサポートし得る機能的食品の定義や種類について</td> <td>事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>機能的食品について (定義)</td> <td>動物やヒトの健康をサポートし得る機能的食品の定義や種類について</td> <td>事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	動物の多様性	動物の定義やその多様性について	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出	2	動物の発生	動物の発生について	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出	3	動物の体の構造動物の体の構造	動物の体の構造、臓器の名称について	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出	4	呼吸器系の構造と機能	呼吸器系の構造と機能について	事前：事前学習課題の学習	5	呼吸器系が関係する疾病	呼吸器系が関係する疾病について	事前：事前学習課題の学習	6	消化器系の構造	消化器系の構造について	事前：事前学習課題の学習	7	消化器系の機能	消化器系の機能について	事前：事前学習課題の学習	8	消化器系が関係する疾病	消化器系が関係する疾病について	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出	9	神経系の構造	神経系の構造について	事前：事前学習課題の学習	10	神経系の機能	神経系の機能について	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出	11	免疫系	自然免疫と獲得免疫について	事前：事前学習課題の学習	12	免疫系が関係する疾病	免疫系が関係する疾病について	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出	13	実験動物について	実験動物の定義と生態、動物福祉について	事前：事前学習課題の学習	14	機能的食品について (定義)	動物やヒトの健康をサポートし得る機能的食品の定義や種類について	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出	15	機能的食品について (定義)	動物やヒトの健康をサポートし得る機能的食品の定義や種類について	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	動物の多様性	動物の定義やその多様性について	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出																																																																
2	動物の発生	動物の発生について	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出																																																																
3	動物の体の構造動物の体の構造	動物の体の構造、臓器の名称について	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出																																																																
4	呼吸器系の構造と機能	呼吸器系の構造と機能について	事前：事前学習課題の学習																																																																
5	呼吸器系が関係する疾病	呼吸器系が関係する疾病について	事前：事前学習課題の学習																																																																
6	消化器系の構造	消化器系の構造について	事前：事前学習課題の学習																																																																
7	消化器系の機能	消化器系の機能について	事前：事前学習課題の学習																																																																
8	消化器系が関係する疾病	消化器系が関係する疾病について	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出																																																																
9	神経系の構造	神経系の構造について	事前：事前学習課題の学習																																																																
10	神経系の機能	神経系の機能について	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出																																																																
11	免疫系	自然免疫と獲得免疫について	事前：事前学習課題の学習																																																																
12	免疫系が関係する疾病	免疫系が関係する疾病について	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出																																																																
13	実験動物について	実験動物の定義と生態、動物福祉について	事前：事前学習課題の学習																																																																
14	機能的食品について (定義)	動物やヒトの健康をサポートし得る機能的食品の定義や種類について	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出																																																																
15	機能的食品について (定義)	動物やヒトの健康をサポートし得る機能的食品の定義や種類について	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>キャンベル生物学</td> <td>池内昌彦ほか</td> <td>丸善出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	キャンベル生物学	池内昌彦ほか	丸善出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	キャンベル生物学	池内昌彦ほか	丸善出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	各授業の事前学習課題 (10%)、授業中の講義の学習確認小テスト (30%)、事後課題 (20%)、定期試験 (40%) で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等																																																																			
備考																																																																			

科目名	海洋動物学	科目名 (英文)	Marine Zoology
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	豊原 治彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAB2032a0		

授業概要・目的	生命は海洋で生まれ、今なお陸上には見られない多様な動物が海洋には生息している。これらの海洋動物はそれぞれの特徴に基づき、門と呼ばれる最も基本的な分類群に分けられている。「海洋動物学」では海洋の主要な生態系について説明し、これらの動物門のうち重要なものについて特徴を概説する。また、それぞれの門に属する代表的な海洋動物について、系統分類にしたがい概説するとともに、これらの動物の食糧としての有用性や水産業との関連性についても解説する。
到達目標	① 海洋生物の分類体系を知ることができる。 ② 主要な海洋生物について形態的、発生学的、並びに生化学的特徴を概説できる。 ③ 水産業において重要な海洋生物について概説できる。 ④ 海洋動物がもつ栄養特性や機能的食品としての特徴を説明できる。 ⑤ 海洋動物の工業的及び医薬的な利用について理解できる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行い、講義内容によりDVDなどによる画像を取り入れ理解を深める。また、各講義前に、前回講義した内容に関する小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	教免：教科及び教科の指導法に関する科目 (理科・中高)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	海洋動物とは I	生活環境、形態と機能	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
	2	海洋動物とは II	生活様式・分類体系、人の生活との関わり	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	3	主要な生態系 I	潮間帯、河口域、藻場、砂浜	事前：事前学習課題の学習
	4	主要な生態系 II	サンゴ礁、マングローブ林、深海、南極海	事後：ミニレポートの提出
	5	海綿動物	構造と機能、生殖及び発生、分類及び主な種	事前：事前学習課題の学習
	6	刺胞動物	構造と機能、生殖及び発生、分類及び主な種	事後：ミニレポートの提出
	7	有櫛動物、紐型動物、線形動物、扁形動物、輪形動物	構造と機能、生殖及び発生、分類及び主な種	事前：事前学習課題の学習
	8	軟体動物	腹足綱、二枚貝綱、頭足綱	事後：ミニレポートの提出
	9	外肛動物、環形動物	構造と機能、生殖及び発生、分類及び主な種	事前：事前学習課題の学習
	10	節足動物 I	甲殻亜門の体の構造と機能、生殖及び発生	事後：ミニレポートの提出
	11	節足動物 II	鯉足綱、貝虫綱、橈脚綱、鯉尾綱、蔓脚綱、軟甲綱	事前：事前学習課題の学習
	12	棘皮動物	構造と機能、生殖及び発生、分類及び主な種	事後：ミニレポートの提出
	13	毛顎動物・原索動物	毛顎動物 (構造と機能、生活様式)、原索動物 (尾索亜門、頭索亜門)	事前：事前学習課題の学習
	14	脊椎動物 I	構造と機能、無顎類、軟骨魚類、硬骨魚類	事後：ミニレポートの提出
	15	脊椎動物 II	両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類	事前：事前学習課題の学習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	キャンベル生物学	池内昌彦ら (監訳)	丸善出版
	2	小学館の図鑑 NEO 魚		小学館
	3	小学館の図鑑 NEO 水の生物		小学館

評価方法 (基準)	各授業の事前学習課題 (20%)、授業中の前回講義の学習確認小テスト (20%、15回目は講義の最後に実施)、事後課題 (20%)、定期試験 (40%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	教科書は特に指定せず、Teams で資料を配信します。
担当者の研究室等備考	8号館3階 311 (海洋生物学研究室)

科目名	海洋生物機能学	科目名 (英文)	Biological Function of Marine Animals
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	豊原 治彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAB2033a0		

授業概要・目的
 生命は海洋で誕生し、今なお多くの動物が海洋に生息している。海洋環境は、地球の誕生以来大きな変動を遂げており、海洋に生息する生物もその変化に合わせて進化してきた。海洋環境を決定づける大きな要因としては、浸透圧、温度、及び水圧があげられる。「海洋生物機能学」においては、このような海洋を含めた地球上の水圏環境の多様な生態系、及びその多様な生態系に適応して生息する生物、それらの生物の生理機能、生化学機能、環境適応機能、及び遺伝子機能について概説するとともに、貝殻などの硬組織形成機能（バイオミネラリゼーション）を例として取り上げ、このような生物機能を人類の暮らしに生かすための生物模倣の考え方を学ぶ。

- 到達目標**
- ① 海洋を含む水圏環境の特徴について概説できる。
 - ② 海洋をはじめ様々な水圏環境に生息する生物について学び、それらの生態学、生理学並びに生化学的特徴について概説できる。
 - ③ 海洋生物の機能特性を活かした増養殖技術や、それらの食糧としての利用について知ることができる。
 - ④ 海洋生物の様々な環境への適応機能の分子機構を理解できる。
 - ⑤ 遺伝子改変などの最新の海洋生物の機能改変技術について学ぶことができる。
 - ⑥ バイオミネラリゼーションを例に生物模倣とよばれる生物に学ぶ工学技術について概説できる。

授業方法と留意点
 パワーポイント、板書を主に講義を行い、講義内容により DVD などによる画像を取り入れ理解を深める。また、各講義前に、前回講義した内容に関する小テストを実施する。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	海洋生物機能と水圏環境	海洋生物に影響する特殊な要因、海洋環境と海洋生物の分類、基本的な生態学用語と概念、生物海洋学の発展の歴史	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
2	水圏の環境 I	水圏の形成と分布、物理環境	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
3	水圏の環境 II	化学環境、有光層のダイナミクス、物質循環	事前：事前学習課題の学習
4	水圏の生物と生態系 I	水圏の生物、水圏生態系	事後：ミニレポートの提出
5	水圏の生物と生態系 II	水生生物の生理（細胞・組織・器官、魚類の発生と成長、成熟と繁殖、呼吸・循環）	事前：事前学習課題の学習
6	水圏の生物と生態系 III	水生生物の生理（神経と感覚、内分泌系、浸透圧調節、生体防御）	事後：ミニレポートの提出
7	水圏の生物と生態系 IV	水圏生物の生態	事前：事前学習課題の学習
8	水圏生物の資源と生産	資源の増殖、養殖	事後：ミニレポートの提出
9	水圏生物の化学と利用 I	水圏生物の化学・生化学（一般成分、タンパク質、脂質、低分子成分）	事前：事前学習課題の学習
10	水圏生物の化学と利用 II	水圏生物の化学・生化学（海藻成分、比較生化学、遺伝子工学）	事後：ミニレポートの提出
11	水圏生物の化学と利用 III	水圏生物の化学・生化学（水産食品の栄養・機能、魚介類の鮮度保持、水産食品の安全性、水圏生物資源の生化学的利用）	事前：事前学習課題の学習
12	多様な海洋環境への適応	浸透圧適応機能、深海適応機能、熱水噴出域への適応機能	事後：ミニレポートの提出
13	海洋生物と遺伝子	染色体操作、トランスジェニック技術、ゲノム編集技術	事前：事前学習課題の学習
14	バイオミネラリゼーション	バイオミネラリゼーションとは、真珠と貝殻形成のメカニズム、付着生物とバイオミネラリゼーション	事後：ミニレポートの提出
15	生物に学ぶ	生物機能を活かしたものづくり	事前：事前学習課題の学習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	水圏生物科学入門	会田勝美編	恒星社厚生閣
2	生物海洋学入門	C. M. Lalli and T. R. Parsons	講談社サイエンティフィク
3			

評価方法 (基準)
 各授業の事前学習課題 (20%)、授業中の前回講義の事後課題 (20%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。課題は Forms を使用。定期試験が実施できない場合は、課題で評価。オンデマンドの場合、課題提出が出席確認にもなるので、必ず提出してください。

学生へのメッセージ
 注意事項などは Teams でお知らせしますので、毎回の授業の前に必ず見るようにしてください。

担当者の研究室等
 8号館3階 311 (海洋生物学研究室)

備考

科目名	化学実験	科目名 (英文)	Experiments in Chemistry
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	加藤 裕介, 池田 裕美, 石崎 陽子, 加藤 直樹, 椎名 隆, 豊原 治彦, 沼本 穂, 増田 太郎, 和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAB1037a0		

授業概要・目的	農学や生命科学では、新たな発見は常に「実験」からもたらされる。化学や生物の教科書に記載されている今では当然と考えられているような諸現象も、もとをたどれば地道な「実験」から生まれた発見だった。一方、農学・生命科学分野の「実験」を正しく安全に行うためには、化学の基礎的な知識や技術が必須である。この授業では、諸君が自らの力で実験・研究を進めていく力を養うため、農学・生命科学の基礎となっている化学の基本的な事項について、実験を通じて理解を深め、その技術や考え方を身をもって体得してもらう。
到達目標	① 化学のみならず、実験を進めるうえで必要な準備、片付け、実験に潜む危険など基礎的な注意点を概説できる。 ② 実験であつかう化学現象の原理を説明できる。 ③ 実験レポートのまとめ方、書き方を理解している。
授業方法と留意点	授業は週2日(3時限連続)の5週間の集中講義として10回のテーマに沿って行う。全受講者を2つのグループ(A、B)に別け、それぞれ別の実験室で行う。行う実験の内容は同じであるが、実験装置や備品の都合上、Aグループは1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, Bグループは1, 2, 5, 6, 3, 4, 8, 7, 9, 10の順番で実験を行う。
科目学習の効果(資格)	教免: 教科及び教科の指導法に関する科目(理科・中高)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	基礎化学(導入)	安全講習、実験室・器具の使い方、実験ノートの書き方を学ぶ。(担当: 全員)	事前: シラバスの理解
2	基礎化学	便量の仕方、ピペットマンの使い方、濃度計算、データ整理を学ぶ。(担当: 加藤裕、和田、加藤直、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習
3	分析化学・pH	pHについて(原理と測定: pH試験紙とpHメーター)及びバッファの作製方法を学ぶ。(担当: 加藤裕、和田、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習
4	分析化学・滴定	酸塩基滴定により食酢中の酢酸量を測定する。(担当: 椎名、加藤裕、和田、豊原、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
5	分析化学・比色(基礎)	比色の原理、吸光度の測定の基礎を学び、清涼飲料水中のグルコース濃度を比色法により測定する。(担当: 加藤直、増田、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習
6	分析化学・比色	緑茶タンニン量を比色法により測定する。(担当: 加藤直、増田、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
7	分析化学・クロマトグラフィー(イオン交換クロマトグラフィー)	クロマトグラフィーの原理を学び、イオン交換樹脂によって食塩水を水にする。(担当: 椎名、加藤直、増田、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習
8	分析化学・クロマトグラフィー(ガスクロマトグラフィー)	ガスクロマトグラフィーにより溶液中のアルコール類を検出し、クロマトグラフィーによる測定を理解する。(担当: 豊原、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
9	有機化学・卵の化学	卵を使って、タンパク質の変性、酸・アルカリ分解や、硫黄を含むアミノ酸の存在を確かめる。(担当: 椎名、豊原、増田、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
10	データ分析と視覚化	9回目までで得たデータを使い、Excelを使った簡単な統計比較や、データをグラフ化し視覚的に表現することを学ぶ。(担当: 全員)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実験に関するプリント教材を配布		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
2				
3				

評価方法(基準) 各授業の事前学習課題及び実習への取り組み(ループリク評価・40%)、レポート(60%)で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ 化学実験では、使い方を誤ると人体に有害であったり、怪我をする試薬や器具を使用する場合があります。実験時には実験衣に着替え、実験用の上履きに履き替えること。

担当者の研究室等	植物分子生理学研究室（椎名、加藤裕介）、応用微生物学研究室（和田、加藤直樹）、海洋生物学研究室（豊原、増田）
備考	

科目名	生物学実験	科目名 (英文)	Experiments in Biology
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小保方 潤一, 池田 裕美, 石崎 陽子, 井上 亮, 海道 真典, 田中 茂幸, 沼本 穂, 松尾 充啓, 芳本 玲
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAB1038a0		

授業概要・目的 「生物学」は、「農学」や「生命科学」の土台である。しかしこの土台は、教科書を読んだり講義を聴いたりするだけで学べるものではない。諸君が生物を見て、触って、実験をして、あれこれ感じ、考える、これら全てを本の頁に書き込めるだろうか？教科書や参考書に書かれている生物学は、先人達が生き物や現象と必死に格闘して辿り着いた最後の結論の、ほんの一部にすぎない。諸君自身が生き物に触り、観察し、実験し、そして、教科書に書かれていないことを感じ、考える、その上で教科書を批判的に読む、こうして「生物学」の、そして「農学」や「生命科学」の土台が出来ていく。この授業では、限られた実験メニューではあるが、諸君自身にとっての新しい「発見」をしてもらいたい。

- 到達目標
- ① 実験室や実験に使う器具・装置の正しい取り扱い方を理解し、説明できる。
 - ② 生物を対象とした実験に必要な基本姿勢と考え方を説明出来る。
 - ③ 実験レポートのまとめ方、書き方を理解している。
 - ④ 各回の実験の内容を概説し、その意味を説明できる。
 - ⑤ 各回の実験で、自分にとっての新しい発見だったことを、一つ以上説明できる。

授業方法と留意点 授業は対面方式、週2日(3・5時限)で5週間にわたって実施し、合計10日間、10のテーマで実験を行う。全受講者をAとBの2グループに別け、別々の実験室で授業を行うが、実験装置などの関係で、同一日にAとBの実験内容が重ならないようにする。このため、Aグループのテーマは(下記の1.2.3.4.5.6.7.8.9.10)の順で、Bグループは(下記の2.1.4.3.6.5.9.10.7.8)の順で実験を行う。基本的に各回が独立した内容の実験であり、受講者は各回の事後にその実験レポート等を提出する。ただし、下記の第7回と第8回、第9回と第10回は、それぞれ連続した一連の実験であり、受講者は一連の実験を終えた後にレポートを提出する。

科目学習の効果(資格) 教免: 教科及び教科の指導法に関する科目(理科・中高)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	顕微鏡とミクロの世界	安全講習、実験室・器具の取り扱い方、実験レポートの書き方、顕微鏡の取り扱い方、スケッチの仕方、微生物・細胞・組織の観察。(担当: 全員)	事前: シラバスの理解 事後: 実験レポートの提出
2	光合成色素	藻類と高等植物から有機溶媒によって光合成色素を抽出し、薄層クロマトグラフィーによって分離し、比較分析する。(担当: 小保方、松尾、沼本、池田、石崎)	事前: 事前学習課題の学習 事後: 実験レポートの提出
3	染色体	タマネギの根端分裂組織からプレパラートを作成し、染色体を観察する。双翅目昆虫の多糸染色体を観察する。(担当: 海道、田中、沼本、池田、石崎)	事前: 事前学習課題の学習 事後: 実験レポートの提出
4	酵素反応	アミラーゼによるデンプン分解反応を、分光光度計を使って測定する。酵素の基本的な性質を学ぶ。(担当: 井上、芳本、沼本、池田、石崎)	事前: 事前学習課題の学習 事後: 実験レポートの提出
5	核酸	大腸菌から核酸を抽出し、その基本的な性質を学ぶ。分光光度計の使い方を学ぶ。(担当: 小保方、松尾、沼本、池田、石崎)	事前: 事前学習課題の学習 事後: 実験レポートの提出
6	光合成	オオカナダモの光合成速度を測定し、光合成に対する光や温度の影響を調べる。(担当: 小保方、松尾、沼本、池田、石崎)	事前: 事前学習課題の学習 事後: 実験レポートの提出
7	細菌と無菌操作	滅菌操作、無菌操作、液体培地と寒天培地の調製、細菌の培養、など。(担当: 海道、田中、沼本、池田、石崎)	事前: 事前学習課題の学習
8	微生物の増殖	コロニーの計数、液体培養での濁度測定。(担当: 海道、田中、沼本、池田、石崎)	事前: 事前学習課題の学習 事後: 実験レポートの提出
9	動物の体のつくり	ラットと魚類の解剖を行う。(担当: 井上、芳本、沼本、池田、石崎)	事前: 事前学習課題の学習 事後: 実験レポートの提出
10	消化管組織	動物の消化管組織を比較・観察する。(担当: 井上、芳本、沼本、池田、石崎)	事前: 事前学習課題の学習 事後: 実験レポートの提出
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生物学実験のテキスト冊子を配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業の事前学習課題と実習への取り組み（ルーブリック評価・40%）、事後の実験レポート（60%）で評価し、60%以上で合格とする。		
学生への メッセージ	高校で生物を学習していない方は、生物学の考え方などをこの実験を通して学んで下さい。高校で生物を学習した方は、高校生物での内容と専門科目で学習する内容との関連性がこの実験を通して確認できると思います。実験中は「なぜそうなるのか、なぜそうするのか」を常に考え、感じた疑問は自分なりに調べる習慣をつけてください。		
担当者の 研究室等 備考	ゲノム生物学研究室 301、302（小保方、松尾）、植物環境微生物学研究室 305、306（海道、田中）、動物機能科学研究室 309、310（井上、吉本）、助手室3（池田、沼本、石崎）		

科目名	応用生物学基礎実験 I	科目名 (英文)	Basic Experiments in Applied Biosciences I
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	海道 真典, 池田 裕美, 石崎 陽子, 井上 亮, 田中 茂幸, 沼本 穂, 芳本 玲, 和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAB2040a0		

授業概要・目的 「化学実験」、「生物学実験」を通じて、教科書に記載されているような化学や生物の諸現象に触れ、実験を体験することで、実験を行うために最低限必要な基礎知識を修得するが、研究の世界における実験とは原則として未知のことを解き明かすために行われる。「応用生物学基礎実験 I・II」では、各 10 回を通じて一つの実験を行い、未知の疑問に対する答えを導き出す。「応用生物学基礎実験 I」では、農学、生命科学分野において頻用される実験技術を使い、受講生が持参する発酵食品を試料にどんな微生物が含まれているかという疑問の解決を試みる。これにより、生命科学科分野における実験の基礎技術を学ぶとともに、実験の進め方、注意点を理解する。

- 到達目標
- ① 生命科学分野における実験の進め方を理解している。
 - ② 実験であつかう実験技術の原理が概説できる。
 - ③ 実験の目的を理解している。
 - ④ 実験で得られたデータを正しく考察できる。

授業方法と留意点 授業は火曜と水曜の午後に行い、3-5 コースを 1 回とし、連続した 5 週間で計 10 回行う。全受講者を 2 つのグループ (A, B) に分け、それぞれ別の実験室で実験を行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	安全講習、実験の概要説明 (担当: 井上、和田、沼本、池田)	事前: シラバスの理解
2	無菌培養	発酵食品に含まれる細菌を無菌的に培養する (担当: 井上、和田、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習
3	細菌数測定・形態観察	第 2 回目で培養した発酵食品に含まれる細菌の数を測定し、形態を観察する (担当: 井上、芳本、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習
4	コンピテントセル作製	外来遺伝子を取り込む能力を持つ大腸菌を作製する (担当: 井上、芳本、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習
5	細菌からの核酸抽出と PCR による遺伝子増幅	発酵食品に含まれる細菌から核酸を抽出し、16S rRNA 遺伝子を対象とした PCR を行う (担当: 和田、芳本、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習
6	遺伝子のクローニング	第 5 回目の PCR 産物をプラスミド DNA に組み込み、大腸菌に形質転換する (担当: 和田、芳本、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習
7	プラスミド DNA の抽出	第 6 回目の形質転換体からプラスミド DNA を抽出し、電気泳動で確認する (担当: 海道、田中、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習
8	細菌由来タンパク質の電気泳動	第 2 回目で培養した発酵食品に含まれる細菌のタンパク質を抽出し電気泳動 (SDS-PAGE) する (担当: 海道、田中、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習
9	データベースを使った細菌遺伝子の同定	第 7 回目で得たプラスミド DNA のシーケンス結果を元にデータベース検索を行い、発酵食品に含まれる細菌を同定する (担当: 海道、田中、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習
10	結果の発表会と総括	第 9 回目までに得られた結果を取りまとめ、発表する (担当: 海道、田中、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	実験に関するプリント教材を配布		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

評価方法 (基準) 各授業の事前学習課題及び実習への取り組み (ループリック評価・40%)、レポート (60%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等

備考

科目名	応用生物科学基礎実験Ⅱ	科目名 (英文)	Basic Experiments in Applied Biosciences II
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	椎名 隆, 池田 裕美, 石崎 陽子, 小保方 潤一, 加藤 裕介, 豊原 治彦, 沼本 穂, 増田 太郎, 松尾 充啓
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAB2041a0		

授業概要・目的	「応用生物科学基礎実験Ⅱ」では、農学・生命科学分野で一般的に使われる生化学や分子生物学実験の技術や考え方を学ぶ。具体的には、(1)組織培養、(2)遺伝子組換え植物のDNA解析、(3)RNAの抽出と遺伝子発現解析、(4)タンパク質の抽出とSDS-PAGEおよびウエスタン・ブロッティング解析の4つのテーマで実験を行う。組織培養実験については、初回に準備を始め、「応用生物科学基礎実験Ⅱ」の全期間に渡って観察を行う。複数のテーマの実験を平行して進めるので、受講生は事前配付資料をよく読み、授業全体での実験計画をきちんと理解しておいて欲しい。最終回は、各自の実験成果・研究成果を発表する。
到達目標	① 4つの実験テーマについて、自分の言葉で、それぞれの概要や意味、注意点などを説明できる。 ② 実験に用いる実験技術の原理を概説できる。 ③ 実験で得られたデータを正しく考察できる。
授業方法と留意点	授業は火曜と水曜の午後に行い、3-5時限を1回とし、連続した5週間で計10回行う(11月23日(火)ー12月22日(水)に実施予定)。4種類の基本的な実験(組織培養実験、DNA実験、RNA実験、タンパク質実験)を実施する。受講者をAとBの2グループに別け、別々の実験室で授業を行う。実験装置や器具などの関係で、Aグループの各回のテーマは下記の(1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10)の順で、Bグループは(1. 6. 7. 8. 9. 2. 3. 4. 5. 10)の順に行う。最終日の第10回では、全員の研究成果を発表し、それを基に討論する。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・試薬作成	・安全講習 ・実験全体の概要説明 ・植物のカルス誘導培地とシュート誘導培地、そのほか試薬を作成。 ・Moodleによる小テストを行う。 (担当: 椎名、加藤裕、沼本、池田、石崎)	事前: シラバスの理解
2	・組織培養実験 ・DNA実験(1)	・植物の組織培養を行い、その経過を基礎実験の全期間(5週間)にわたって観察する。 ・T-DNA挿入変異体からDNAを抽出する ・Moodleによる小テストを行う。 (担当: 椎名、加藤裕、沼本、池田、石崎)	事前: 事前学習課題の学習
3	・DNA実験(2)	・抽出したDNAをPCRで解析する。(PCR、DNA電気泳動) ・Moodleによる小テストを行う。 (担当: 椎名、加藤裕、沼本、池田、石崎)	事前: 事前学習課題の学習
4	・RNA実験(1)	・暗所で育てたオオムギに光を照射し、緑化する過程での光合成遺伝子の発現を解析する。(RNAの抽出、定量、RNA電気泳動) ・Moodleによる小テストを行う。 (担当: 小保方、松尾、沼本、池田、石崎)	事前: 事前学習課題の学習
5	・RNA実験(2)	・RT-PCR法によって、緑化過程での光合成遺伝子の発現変化を定量解析する。(cDNA合成、PCR、電気泳動) ・Moodleによる小テストを行う。 (担当: 小保方、松尾、沼本、池田、石崎)	事前: 事前学習課題の学習
6	・タンパク質実験(1)	・緑化過程のオオムギからタンパク質を抽出する。(タンパク質の抽出、タンパク質定量(BCA法)) ・Moodleによる小テストを行う。 (担当: 小保方、松尾、沼本、池田、石崎)	事前: 事前学習課題の学習
7	・タンパク質実験(2)	・タンパク質を電気泳動(SDS-PAGE)によって解析する。(SDS-PAGE、クマシー染色) ・Moodleによる小テストを行う。 (担当: 豊原、増田、沼本、池田、石崎)	事前: 事前学習課題の学習
8	・タンパク質実験(3)	・緑化過程のオオムギの光合成タンパク質の発現をウエスタン・ブロッティング法で解析する。(SDS-PAGE、タンパク質のブロッティング) ・Moodleによる小テストを行う。 (担当: 豊原、増田、沼本、池田、石崎)	事前: 事前学習課題の学習
9	・タンパク質実験(4)	・ブロッティングした膜のタンパク質を検出する。(ウエスタンブロット検出) ・Moodleによる小テストを行う。 (担当: 豊原、増田、沼本、池田、石崎)	事前: 事前学習課題の学習
10	結果討論会	・第9回までに得られた結果をまとめ、発表する。 (担当: 全員)	事前: 事前学習課題の学習 事後: 実験レポートの提出

	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実験に関するプリント教材を配布		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各授業の事前学習課題と実習への取り組み (ルーブリック評価・40%)、実験レポート (60%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	分子生物学の基本技術を学びます。事前学習にしっかり取り組んだ上で、自ら考えながら実験に参加してください。			
担当者の 研究室等	椎名 8号館3階教員室303 小保方 8号館3階教員室301 松尾 8号館3階教員室302 加藤裕介 8号館3階教員室304 豊原 8号館3階教員室311 増田 8号館3階教員室312 沼本・池田・石崎 8号館3階助手室3			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小保方 潤一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAB1062a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標(夢)および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	① 講義・グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ② 個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査および発表を課す
科目学習の効果(資格)	① 摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ② 主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返り。
3	第3章大学の学びを深めるために(研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法。ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返り。
4	第4章大学の学びを深めるために(研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章: 農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章: 身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返り。
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?, L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第6～第8章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返り。
6	読解力を身につけよう	文章や図・表から意味を読み取り、理解する力を身につける	事前: 各ゼミ担当教員が配布する資料を読んでおく 事後: 授業で学んだことを意識して、改めて資料を読む
7	文章力を身につけよう	自身の考えや、見聞きした情報など、を他人に理解してもらえる文章に起こす力を身につける	事前: 各ゼミ担当教員が指示したテーマで文章を書く 事後: 授業で学んだことを意識して、改めて文章を書く
8	文章要約力を身につけよう	物事の要点を短い文章でわかりやすく要約する力を身につける	事前: 各ゼミ担当教員が指示したテーマ・文章を要約する 事後: 授業で学んだことを意識して、改めて要約する
9	学外施設見学	応用生物科学科の研究に関連する施設を見学する	事前: 見学施設について調べておく 事後: 見学施設にて自身が興味をもったテーマについて調べる
10	学外施設見学	応用生物科学科の研究に関連する施設を見学する	事前: 見学施設について調べておく 事後: 見学施設にて自身が興味をもったテーマについて調べる
11	発表準備	施設見学にて自身が興味をもったテーマとそれについて調査した内容の発表	事前: 見学施設について調べて資料を用意する

			準備をする	事後：発表練習をする
	12	発表	施設見学にて自身が興味をもったテーマとそれについて調査した内容を発表する	事前：予想される質問を考え回答を用意する 事後：自身を含めゼミの学生の発表の振り返りを行う
	13	研究室訪問	応用生物科学科の研究室を訪問し、研究に関する意見交換・質問を行う（2研究室/2ゼミグループ）	事前：訪問予定の研究室の研究について調査し、意見・質問を用意しておく 事後：意見交換・質問について振り返りを行う
	14	研究室訪問	応用生物科学科の研究室を訪問し、研究に関する意見交換・質問を行う（2研究室/2ゼミグループ）	事前：訪問予定の研究室の研究について調査し、意見・質問を用意しておく 事後：意見交換・質問について振り返りを行う
	15	研究室訪問	応用生物科学科の研究室を訪問し、研究に関する意見交換・質問を行う（2研究室/2ゼミグループ）	事前：訪問予定の研究室の研究について調査し、意見・質問を用意しておく 事後：意見交換・質問について振り返りを行う
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物（40%）、レポート（60%）により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OJA1402a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。2回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――
	2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
	7	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す
	14	【レポート】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習	

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題2回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
-----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	事前・事後学習の総時間の目安は、15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
----	---

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	筒井 大祐
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OJA1402a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。本講義は、文章作成を一方向的に講義するのではなく、受講者が実際に文章を書きながら、文章作成を習得することを旨とする。そのため、練習問題や課題の作成を課す。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
7	フィードバック	課題1のフィードバック	1時間の事前事後学習を目安とする。
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	1時間の事前事後学習を目安とする。
13	フィードバック	課題2のフィードバック	1時間の事前事後学習を目安とする。
14	【レポート】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 文章作成に関するまとめ	レポートについて講評する 文章作成に関して、まとめを行う	これまでの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題2回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語 (話し言葉) と、レポートなどで書く日本語 (書き言葉) は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、文章表現の方法を勉強していきましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺井 伸子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	基本的にリアルタイムのオンラインで授業を行うため、授業時間になったら、TEAMSにアクセスしてください。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・自己紹介	前半授業の進め方やルールを説明した後に、英語で互いに自己紹介。テキストについて説明。	課題とテキストの予習・復習
2	Unit1 Travel 現在時制	Unit 1- Warm-Up Listening Word Check Conversation Grammar 解説 Grammar Checkup	課題とテキストの予習・復習 Good Reading-CheckLink より解答
3	Unit 1 の復習 Unit2	Unit 1 - Good Reading 解説 Unit 2 - Listening Grammar 解説 Grammar Checkup	課題とテキストの予習・復習 Good Reading-CheckLink より解答
4	Unit 2: Homestay English Unit3: At a company 前置詞	Unit 2 - Writing Unit 3 - Listening Grammar	課題とテキストの予習・復習 Writing
5	Unit3: At a company Unit4: Entertainment	Unit 3 - Writing & Presenting Unit 4 - Listening	課題とテキストの予習・復習 Good Reading-CheckLink より解答
6	Unit4: Entertainment 過去時制	Unit 3 - Good Reading 解説 Unit 4 - Grammar Writing	課題とテキストの予習・復習 Good Reading-CheckLink より解答
7	まとめテスト (Unit1-4)		課題とテキストの予習・復習
8	Unit5: Shopping 可算・不可算名詞	Unit 5 - Listening Grammar	課題とテキストの予習・復習 Good Reading-CheckLink より解答
9	Unit5: Shopping Unit6: Technology	Unit 5 - Good Reading 解説 Unit 5 - Writing Unit 6 - Listening	課題とテキストの予習・復習 Writing
10	Unit6: Technology Wh疑問文	Unit 6 - Grammar Writing & Presenting	課題とテキストの予習・復習 Good Reading-CheckLink より解答
11	Unit7: Daily Life 進行形	Unit 6 - Good Reading 解説 Unit 7 - Listening Grammar	課題とテキストの予習・復習 Good Reading-CheckLink より解答
12	Unit7: Daily Life	Unit 7 - Good Reading 解説 Writing & Presenting	課題とテキストの予習・復習 Good Reading-CheckLink より解答
13	Unit8: Environment 助動詞	Unit 8 - Good Reading 解説 Unit 8 - Listening Grammar	課題とテキストの予習・復習 Good Reading-CheckLink より解答
14	Unit 8: Environment	Unit 8 - Writing	課題とテキストの予習・復習 Writing
15	まとめテスト (Unit5-8)		課題とテキストの予習・復習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Booster !</td> <td>Robert Hickling & Yasuhiro Ichikawa</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Booster !	Robert Hickling & Yasuhiro Ichikawa	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	English Booster !	Robert Hickling & Yasuhiro Ichikawa	金星堂													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂													
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名												
番号	書籍名	著者名	出版社名														

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、課題(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	間違っても構わないので、積極的に挙手・発言・回答をすること。 英語学習に対する誠意と熱意を評価する。			
担当者の 研究室等				
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等メールで対応する。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ソーレン カー
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Course introduction Language of Control	explanation of course language to get help in English	
2	Unit 1: All about you	language to describe oneself and hobbies	homework assigned in class
3	Unit 1: All about you	language to describe oneself and hobbies	homework assigned in class
4	Unit 1: All about you	language to describe oneself and hobbies	homework assigned in class
5	Unit 1 Quiz Unit 3: Favorite People	language to talk about famous people	homework assigned in class
6	Unit 3: Favorite People	language to talk about famous people	homework assigned in class
7	Unit 3: Favorite People	language to talk about famous people	homework assigned in class
8	Unit 3 Quiz Mid-term Test		homework assigned in class
9	Unit 4: Everyday Life	language to talk about one's daily routine	homework assigned in class
10	Unit 4: Everyday Life	language to talk about one's daily routine	homework assigned in class
11	Unit 4: Everyday Life	language to talk about one's daily routine	homework assigned in class
12	Unit 4 Quiz Unit 5: Free Time	language to talk about things people do in their free time	homework assigned in class
13	Unit 5: Free Time	language to talk about things people do in their free time	homework assigned in class
14	Unit 5: Free Time	language to talk about things people do in their free time	homework assigned in class
15	Unit 5 Quiz Final Exam		

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Touchstone Level 1, second edition	McCarthy, McCarten, Sandiford	Cambridge
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% まとめテスト 30% 授業内課題 30% 発表 20%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ソーレン カー
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけではなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。ICT を駆使した自律型英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	1) 大学生にとって身近な課題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献することが重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction Language of Control	language to get help in English	
	2	Unit 1: All About You	language for describing one's self and hobbies	homework assigned in class
	3	Unit 1: All About You	language for describing one's self and hobbies	homework assigned in class
	4	Unit 1: All About You	language for describing one's self and hobbies	homework assigned in class
	5	Unit 1 Quiz Unit 3: Favorite People	language to talk about famous people	homework assigned in class
	6	Unit 3: Favorite People	language to talk about famous people	homework assigned in class
	7	Unit 3: Favorite People	language to talk about famous people	homework assigned in class
	8	Unit 3 Quiz Mid-term Test		
	9	Unit 4: Everyday Life	language to describe one's daily routine	homework assigned in class
	10	Unit 4: Everyday Life	language to describe one's daily routine	homework assigned in class
	11	Unit 4: Everyday Life	language to describe one's daily routine	homework assigned in class
	12	Unit 4 Quiz Unit 5: Free Time	language to talk about things people do in their free time	homework assigned in class
	13	Unit 5: Free Time	language to talk about things people do in their free time	homework assigned in class
	14	Unit 5: Free Time	language to talk about things people do in their free time	homework assigned in class
	15	Unit 5 Quiz Final Exam		

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Touchstone Level 1, second edition	McCarthy, McCarten, Sandiford	Cambridge
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 100%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は非常勤講師室で対応する。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺井 伸子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	オンラインでリアルタイムの授業を行う予定。授業時間になったら Teams の会議にアクセスすること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・自己紹介	前半授業の進め方やルールを説明した後に、英語で互いに自己紹介。テキストについて説明。	課題とテキストの予習・復習
2	Unit1 Travel 現在時制	Unit 1- Warm-Up Listening Word Check Conversation Grammar 解説 Grammar Checkup	課題とテキストの予習・復習 Good Reading-CheckLink より解答
3	Unit2: Homestay English 代名詞	Unit 1 - Good Reading 解説 Unit 2- Listening Grammar 解説 Grammar Checkup	課題とテキストの予習・復習 Good Reading-CheckLink より解答 Unit 1 & 2 - 確認クイズ
4	Unit 2: Homestay English Unit3: At a company 前置詞	Unit 2- Writing Unit 3- Listening/ Speaking Grammar	課題とテキストの予習・復習 Writing
5	Unit3: At a company Unit4: Entertainment	Unit 3 - Writing & Presenting Unit 4- Listening	課題とテキストの予習・復習 Good Reading-CheckLink より解答
6	Unit4: Entertainment 過去時制	Unit 3- Good Reading 解説 Unit 4 - Grammar Writing	課題とテキストの予習・復習 Good Reading-CheckLink より解答 Unit 3 & 4 - 確認クイズ
7	まとめテスト (Unit1-4)		課題とテキストの予習・復習
8	Unit5: Shopping 可算・不可算名詞	Unit 5 - Listening Grammar	課題とテキストの予習・復習
9	Unit5: Shopping Unit6: Technology	Unit 5 - Good Reading 解説 Writing Unit 6- Listening	課題とテキストの予習・復習 Writing
10	Unit6: Technology Wh 疑問文	Unit 6 - Grammar Writing & Presenting	課題とテキストの予習・復習 Good Reading-CheckLink より解答 Unit 5 & 6 確認クイズ
11	Unit7: Daily Life 進行形	Unit 6 - Good Reading 解説 Unit 7 - Listening Grammar	課題とテキストの予習・復習 Good Reading-CheckLink より解答
12	Unit7: Daily Life	Unit 7 - Good Reading 解説 Writing & Presenting	課題とテキストの予習・復習 Good Reading-CheckLink より解答
13	Unit8: Environment 助動詞	Unit 8- Good Reading 解説 Unit 8 - Listening Grammar	課題とテキストの予習・復習 Good Reading-CheckLink より解答 Unit7 & 8 - 確認クイズ
14	Unit 8: Environment	Unit 8 - Writing	課題とテキストの予習・復習 Writing
15	まとめテスト (Unit5-8)		課題とテキストの予習・復習

関連科目	他の英語科目
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Booster !</td> <td>Robert Hickling & Yasuhiro Ichikawa</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Booster !	Robert Hickling & Yasuhiro Ichikawa	金星堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	English Booster !	Robert Hickling & Yasuhiro Ichikawa	金星堂														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	まとめテスト2回分 60 % 課題や小テスト 40 % (課題や小テストについては授業内で指示する。)																
学生への メッセージ	間違っても構わないので、積極的に挙手・発言・回答をすること。 英語学習に対する誠意と熱意を評価する。																
担当者の 研究室等																	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はメールで対応する。																

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺井 伸子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。後期もオンラインの授業が中心になることから、授業内の小テストを受け、課題が提出されていないと評価ができないので注意すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	『English Booster』 Unit8: Environment 助動詞	今後の授業の進め方説明 Word Check Kai's Blog Grammar Checkup	Checklinkより Unit 8 - Conversation Good Reading Unit 9 - Warm-Up Listening
2	Unit8: 助動詞一解説 Unit 9: Employment	Unit 8 - Conversation & Good Reading の解説 Unit 9 - Warm-up Litening	Unit 9 - Conversation Good Reading Unit10 - Warm- Up Listening
3	Unit10: Sales & Marketing 比較級&最上級	Unit 9: Conversation 解説 Grammar Checkup Good Reading 解説 Unit 10: Warm-Up Listening 解説 Word Check & Kai's Blog	Unit 10 - Conversation Good Reading Unit 11 - Warm- Up Listening
4	Unit10: Homestay English	Unit 10 : Grammar Checkup Conversation & Good Reading 解説 Writing	Unit 8 文法の復習
5	Unit 11: Job Interview 現在完了	Unit 8: 文法のテスト Unit 8: 文法のテスト Unit 11: Warm-Up Listening Word Check & Kai's Blog Conversation Grammar Checkup	Unit 11- Writing C Unit 9 - 文法の復習
6	Unit 11: Job Interview	Unit 9: 文法のテスト Unit 11: Grammar Checkup Good Reading Writing A, B, C Pair-Work	Unit 8 ~Unit 11 英単語&フレーズの復習 文法の復習
7	まとめテスト (Unit 9~Unit 12: Listening)	授業内試験	Unit 10- 文法の復習
8	Unit 11: Job Interview Unit 12: 接続詞	Unit 10: 文法のテスト Unit 12: Warm- Up Listening Word Check & Kai's Blog Conversation Grammar Checkup	Unit 11- 文法の復習
9	Unit 12: Company Culture Unit 13: Email	Unit 11: 文法のテスト Unit 12: Grammar Checkup Good Reading Unit 11: Job Interview - Pair Work Unit 12: Writing A & B Unit 13: Warm- Up Listening 解説 Word Check Kai's Blog Conversation 解説 Unit 12: Presentation	Unit 12 - 文法の復習
10	Unit 13: Email 動名詞&不定詞	Unit 12: 文法のテスト Unit 12: Writing C Presentation Unit 13: Grammar Checkup	Unit 12 - Writing C 書き直し
11	Unit 14: Housing	Unit 13: Good Reading Writing Presentation Unit 14: Warm- Up Listening Word Check & Kai's Blog	Unit 13 - 文法の復習
12	Unit 14: Housing	Unit 13: 文法のテスト	Unit 14 - 文法の復習

		受動態	Unit 14: Conversation Grammar Checkup Good Reading	
	13	Unit 15: Events & Experiences 関係詞	Unit 14: 文法のテスト Unit 14: Writing Unit 15: Warm- Up Listening Word Check & Kai's Blog Conversation Grammar Checkup	Unit 15 - 文法の復習
	14	Unit 15: Events & Experiences 関係詞	Unit 15: 文法のテスト Good Reading Writing 総合復習及び応用	Unit 15- Writing C
	15	まとめテスト (Unit 12 ~ Unit 15)	授業内試験	
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Booster !	Robert Hickling & Yasuhiro Ichikawa	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	間違っても構わないので、積極的に挙手・発言・回答をすること。 英語学習に対する誠意と熱意を評価する。			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は TEAMS のチャット又は投稿で行う。			

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ソーレン カー
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Welcome back! Language of Control II	review of useful expressions	
2	Unit 7: Out and About	language to talk about the weather and current activities	homework assigned in class
3	Unit 7: Out and About	language to talk about the weather and current activities	homework assigned in class
4	Unit 7: Out and About	language to talk about the weather and current activities	homework assigned in class
5	Unit 7 Quiz Unit 8: Shopping	language to talk about shopping	homework assigned in class
6	Unit 8: Shopping	language to talk about shopping	homework assigned in class
7	Unit 8: Shopping	language to talk about shopping	homework assigned in class
8	Unit 8 Quiz Mid-term Test		
9	Unit 10: Busy Lives	language to talk about recent activities	homework assigned in class
10	Unit 10: Busy Lives	language to talk about recent activities	homework assigned in class
11	Unit 10: Busy Lives	language to talk about recent activities	homework assigned in class
12	Unit 10 Quiz Unit 11: Looking Back	language to talk about vacations and past activities	homework assigned in class
13	Unit 11: Looking Back	language to talk about vacations and past activities	homework assigned in class
14	Unit 11: Looking Back	language to talk about vacations and past activities	homework assigned in class
15	Unit 11 Quiz Final Exam		

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Touchstone Level 1, second edition	McCarthy, McCarten, Sandiford	Cambridge
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% Online Practice 30% 授業内課題 30% 発表 20%
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ソーレン カー
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけではなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。ICTを駆使した自律型英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	1) 大学生にとって身近な課題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発音（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献することが重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Welcome Back! Language of Control II	review of useful language	
2	Unit 7: Out and About	language to talk about the weather and activities one is doing	homework assigned in class
3	Unit 7: Out and About	language to talk about the weather and activities one is doing	homework assigned in class
4	Unit 7: Out and About	language to talk about the weather and activities one is doing	homework assigned in class
5	Unit 7 Quiz Unit 8: Shopping	language to talk shopping	homework assigned in class
6	Unit 8: Shopping	language to talk shopping	homework assigned in class
7	Unit 8: Shopping	language to talk shopping	homework assigned in class
8	Unit 8 Quiz Mid-term Test		
9	Unit 10: Busy Lives	language to talk about recent activities	homework assigned in class
10	Unit 10: Busy Lives	language to talk about recent activities	homework assigned in class
11	Unit 10: Busy Lives	language to talk about recent activities	homework assigned in class
12	Unit 10 Quiz Unit 11: Looking Back	language to describe vacations and past experiences	homework assigned in class
13	Unit 11: Looking Back	language to describe vacations and past experiences	homework assigned in class
14	Unit 11: Looking Back	language to describe vacations and past experiences	homework assigned in class
15	Unit 11 Quiz Final Exam		

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Touchstone Level 1, second edition	McCarthy, McCarten, Sandiford	Cambridge
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 100%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は非常勤講師室で対応する。

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺井 伸子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。後期もオンラインの授業が中心になることから、授業内の小テストを受け、課題が提出されていないと評価ができないので注意すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	『English Booster』 Unit8: Environment 助動詞	今後の授業の進め方説明 Word Check Kai's Blog Grammar Checkup	Checklinkより Unit 8 - Conversation Good Reading Unit 9 - Warm-Up Listening
2	Unit8: 助動詞一解説 Unit 9: Employment	Unit 8 - Conversation & Good Reading の解説 Unit 9 - Warm-up Litening	Unit 9 - Conversation Good Reading Unit10 - Warm- Up Listening
3	Unit10: Sales & Marketing 比較級&最上級	Unit 9: Conversation 解説 Grammar Checkup Good Reading 解説 Unit 10: Warm-Up Listening 解説 Word Check & Kai's Blog	Unit 10 - Conversation Good Reading Unit 11 - Warm- Up Listening
4	Unit10: Homestay English	Unit 10 : Grammar Checkup Conversation & Good Reading 解説 Writing	Unit 8 文法の復習
5	Unit 11: Job Interview 現在完了	Unit 8: 文法のテスト Unit 8: 文法のテスト Unit 11: Warm-Up Listening Word Check & Kai's Blog Conversation Grammar Checkup	Unit 11- Writing C Unit 9 - 文法の復習
6	Unit 11: Job Interview	Unit 9: 文法のテスト Unit 11: Grammar Checkup Good Reading Writing A, B, C Pair-Work	Unit 8 ~Unit 11 英単語&フレーズの復習 文法の復習
7	まとめテスト (Unit 9~Unit 12: Listening)	授業内試験	Unit 10- 文法の復習
8	Unit 11: Job Interview Unit 12: 接続詞	Unit 10: 文法のテスト Unit 12: Warm- Up Listening Word Check & Kai's Blog Conversation Grammar Checkup	Unit 11- 文法の復習
9	Unit 12: Company Culture Unit 13: Email	Unit 11: 文法のテスト Unit 12: Grammar Checkup Good Reading Unit 11: Job Interview - Pair Work Unit 12: Writing A & B Unit 13: Warm- Up Listening 解説 Word Check Kai's Blog Conversation 解説 Unit 12: Presentation	Unit 12 - 文法の復習
10	Unit 13: Email 動名詞&不定詞	Unit 12: 文法のテスト Unit 12: Writing C Presentation Unit 13: Grammar Checkup	文法のまとめプリント
11	Unit 14: Housing	Unit 13: Good Reading Writing Presentation Unit 14: Warm- Up Listening Word Check & Kai's Blog	Unit 13 - 文法の復習
12	Unit 14: Housing	Unit 13: 文法のテスト	Unit 14 - 文法の復習

		受動態	Unit 14: Conversation Grammar Checkup Good Reading	
	13	Unit 15: Events & Experiences 関係詞	Unit 14: 文法のテスト Unit 14: Writing Unit 15: Warm-Up Listening Word Check & Kai's Blog Conversation Grammar Checkup	Unit 15 - 文法の復習
	14	Unit 15: Events & Experiences 関係詞	Unit 15: 文法のテスト Good Reading Writing 総合復習及び応用	文法のまとめプリント
	15	まとめテスト (Unit 12 ~ Unit 15)	授業内試験	
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Booster !	Robert Hickling & Yasuhiro Ichikawa	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	まとめテスト2回分 60% 課題や小テスト 40% (課題や小テストについては授業内で指示する。)			
学生への メッセージ	間違っても構わないので、積極的に挙手・発言・回答をすること。 英語学習に対する誠意と熱意を評価する。			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は TEAMS のチャット又は投稿で行う。			

科目名	実践英語 I	科目名 (英文)	Practical English I
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浅井 玲子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2407c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業計画と評価方法の確認	アンケートに答える Writing およびペアとの Speaking など	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
2	Unit 1 Introducing Yourself	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
3	Unit 1 Introducing Yourself	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
4	Unit 2 Introducing Companies	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
5	Unit 2 Introducing Companies	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
6	Unit 3 Explaining Your Role	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
7	Unit 3 Explaining Your Role	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
8	Unit 4 Introducing Products	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
9	Unit 4 Introducing Products	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
10	Unit 5 Checking Information	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
11	Unit 5 Checking Information	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
12	Unit 6 Giving your Opinion	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
13	Unit 6 Giving your Opinion	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
14	Performance	ダイアログを覚えて発表する (ペア) Memory, Pronunciation, Emotion に気を付けて発表をする	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
15	Review & TEST	Unit1~6の復習 まとめテストを受ける	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Go Global English for Global Business</td> <td>Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	<p>全学共通英語課題 20%</p> <p>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%</p>
学生への メッセージ	<p>この科目では、積極的に英語で話すことを目的としています。そのためには、まず、e-learning 等も積極的に利用して、英語を聞くことと音読する練習を各自行ってください。ペア活動も取り入れていきます。一年間楽しく学んでいきましょう。</p>
担当者の 研究室等	<p>1号館2階非常勤講師室</p>
備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>

科目名	実践英語 I	科目名 (英文)	Practical English I
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 祐美子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2407c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Useful Classroom Language		テキストの目次を読んで、どのような内容を学習するのか予習しておくこと。
	2	Unit 1 The Weekend	Past events Listening for details, opinions, and key words Talking about the weekend	Online Practice で予習すること
	3	Unit 1 The weekend 2)	Past events Listening for details, opinions, and key words Talking about the weekend	Online Practice で予習復習すること
	4	Unit 2 City Transportation	Taxis, trains, and buses Listening for locations, numbers, details Asking about transportation	Online Practice で予習復習すること
	5	Unit 2 City Transportation 2)	Taxis, trains, and buses Listening for locations, numbers, details Asking about transportation	Online Practice で予習復習すること
	6	Unit 3 Neighbors	Getting along with neighbors Listening or reasons, details, opinions, and gist Neighborhood gossip	Online Practice で予習復習すること
	7	Unit 3 Neighbors 2)	Getting along with neighbors Listening or reasons, details, opinions, and gist Neighborhood gossip	Online Practice で予習復習すること
	8	Unit 4 Celebrations	Meals and get-togethers Listening for key words, gist, and details Planning a celebration	Online Practice で予習復習すること
	9	Unit 4 Celebrations 2)	Meals and get-togethers Listening for key words, gist, and details Planning a celebration	Online Practice で予習復習すること
	10	Unit 5 Restaurants	Food and going out to eat Listening for locations, details, opinions, and gist Making plans	Online Practice で予習復習すること
	11	Unit 5 Restaurants 2)	Food and going out to eat Listening for locations, details, opinions, and gist Making plans	Online Practice で予習復習すること
	12	Unit 6 Gifts	Shopping and department stores Listening for details, decisions, opinions, gist Buying a gift	Online Practice で予習復習すること
	13	Unit 6 Gifts 2)	Shopping and department stores Listening for details, decisions, opinions, gist Buying a gift	Online Practice で予習復習すること
	14	Unit 7 Air Travel	Instructions for flying Listening for gist, details, and opinions Preparing for takeoff	Online Practice で予習復習すること
	15	Unit 7 Air Travel 2)	Instructions for flying Listening for gist, details, and opinions Preparing for takeoff	Online Practice で予習復習すること
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Developing Tactics for Listening Third Edition	Jack C. Richards	Oxford University Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	Listening & Speaking 中心の実践英語です。課題として Online Practice に取り組むことで、Listening 力の向上も目指します。しっかりと取り組んでいきましょう。			
担当者の 研究室等	1号館 2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語Ⅱ	科目名 (英文)	Practical English II
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅井 玲子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2408c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業計画と評価方法についての説明 前期の振り返り 夏休みについてのトーク	アンケートに答える Writing&Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
2	Unit 7 Making Requests	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
3	Unit 7 Making Requests	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
4	Unit 8 Asking Permission	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
5	Unit 8 Asking Permission	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
6	Unit 9 Making Invitations	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
7	Unit 9 Making Invitations	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
8	Unit 10 Making Appointments	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
9	Unit 10 Making Appointments	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
10	Unit 11 Canceling and Rescheduling	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
11	Unit 11 Canceling and Rescheduling	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
12	Unit 13 Looking after a Visitor	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
13	Unit 7~11 Review Preparation for Presentation	復習をする Original Dialogue の作成	Original Dialogue の作成(ペア) 次週までに原稿提出 教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
14	Original Dialogue 音読練習 まとめテスト	ペアで音読練習をする まとめテストを受ける	Original Dialogue の提出・練習(ペア) 教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
15	Presentation Reflections	Original Dialogue の発表を行う(ペア) *Memory, Pronunciation, Emotion, Content などが評価基準となる	ダイアログの音読練習をして発表できるようにしておく。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Go Global English for Global Business</td> <td>Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂													
3																	
参考書																	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	この科目では、積極的に英語で話すことを目的としています。そのためには、まず、e-learning 等も積極的に利用して、英語を聞くことと音読する練習を各自行ってください。ペア活動も取り入れていきます。一年間楽しく学んでいきましょう。			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語Ⅱ	科目名(英文)	Practical English II
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久保 祐美子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2408c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Unit 8 Mishaps	Problems and solutions Listening for gist, details, and solutions Describing a mishap	Online Practice で予習する事
	2	Unit 8 Mishaps 2)	Problems and solutions Listening for gist, details, and solutions Describing a mishap	Online Practice で予習すること
	3	Unit 9 Jobs	Life at work Listening for gist, keywords and details Describing jobs	Online Practice で予習復習すること
	4	Unit 9 Jobs 2)	Life at work Listening for gist, keywords and details Describing jobs	Online Practice で予習復習すること
	5	Unit 10 Keeping fit	Fitness and exercise Listening for details, reasons, and topics Asking about past actions	Online Practice で予習復習すること
	6	Unit 10 Keeping Fit 2)	Fitness and exercise Listening for details, reasons, and topics Asking about past actions	Online Practice で予習復習すること
	7	Unit 11 Invitations	Accepting and refusing an invitation Listening for invitations, acceptances and refusals, and details Giving an invitation	Online Practice で予習復習すること
	8	Unit 11 Invitations 2)	Accepting and refusing an invitation Listening for invitations, acceptances and refusals, and details Giving an invitation	Online Practice で予習復習すること
	9	Unit 12 Campus Life	Teachers, classes, and campus Listening for locations, details, gist and opinions Describing likes and dislikes	Online Practice で予習復習すること
	10	Unit 12 Campus Life 2)	Teachers, classes, and campus Listening for locations, details, gist and opinions Describing likes and dislikes	Online Practice で予習復習すること
	11	Unit 13 Hobbies and Pastimes	Interests Listening for gist, details, likes and dislikes Talking about hobbies	Online Practice で予習復習すること
	12	Unit 13 Hobbies and Pastimes	Interests Listening for gist, details, likes and dislikes Talking about hobbies	Online Practice で予習復習すること
	13	Unit 14 Shopping Problems	Returning items Listening for details, key words, and opinions Returning an item	Online Practice で予習復習すること
	14	Unit 14 Shopping Problems 2)	Returning items Listening for details, key words, and opinions Returning an item	Online Practice で予習復習すること
		15	Review	Review the Units
関連科目				
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Developing Tactics for Listening Third Edition</td> <td>Jack C. Richards</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Developing Tactics for Listening Third Edition	Jack C. Richards	Oxford University Press	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Developing Tactics for Listening Third Edition	Jack C. Richards	Oxford University Press														
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%																
学生への メッセージ	Listening & Speaking 中心の実践英語です。課題として Online Practice に取り組むことで、Listening 力の向上も目指します。しっかりと取り組んでいきましょう。																
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OIL1414a2		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	当面は遠隔形式での講義となります。遠隔で受講の場合には、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。 教員免許取得上必修

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：摂南大学の ICT 環境の確認 (1 時間)
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題 (自習あり)	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (1 時間)
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリリック評価	事前：発表準備 (50 分) 事後：事後課題の完成・提出 (40 分)
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

関連科目	情報リテラシーⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、2回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	疑問を放置しないこと。何でも質問してください。			
担当者の 研究室等	8号館1階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OIL1415a2		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	毎回、PCを使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については講義による説明を行う。 実習を中心に行うため、授業への出席は必須であり、遅刻も厳禁とする。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 教員免許取得上必修

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習 (1時間) 事後：事後課題の完成・提出 (30分)
2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
	7	【Word 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定	区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集	複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用	データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定	データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	12	【Excel 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	13	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	14	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	15	総合演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
関連科目	情報リテラシー I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集	富士通 FOM	FOM 出版

		(FPT1618) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】		
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (60%)、模擬試験や総合課題などの演習 (40%)、この授業は演習中心のため、出席 (課題提出) が単位取得の必要条件となる。			
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の研究室等	非常勤講師室 (8 号館 1 階)			
備考	授業時間外の質問は、メールまたは Teams メッセージをお願いします。すぐに返信できない場合がありますが、なるべく迅速な対応を心がけています。			

科目名	スポーツ科学 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀧 千波, 前田 奎
ディプロマポリシー (DP)	DP6○		
科目ナンバリング	OPH1416a2		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的とする。本科目では、スポーツ・身体運動を通して①健康の維持・増進をはかる②運動技能を向上させることができる③マナーやルールを理解することができる④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことを目指す。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②運動技能を向上させることができる ③マナーやルールを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	本科目は「遠隔授業」として授業を行う。使用する ICT ツールは「Microsoft teams」とする。なお、対面が可能になった場合は、対面授業を行う。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」：コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」：自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」：課題解決能力を修得できる。 教員免許取得上必修

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意など (講義室)	ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。 (事後学習時間 30 分)
2	体力測定①	体力測定 屋外種目 (グラウンド)	測定記録評価 (事前事後学習時間 30 分)
3	体力測定②	体力測定 屋内種目 (体育館)	測定記録評価 (事前事後学習時間 30 分)
4	体力測定集計・評価	体力測定の集計・評価 (講義室)	測定記録評価 各自の体力要素を評価すると共に、今後の課題・解決方法を理解する。 (事前事後学習時間 30 分)
5	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
6	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
7	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
8	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
9	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
10	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
11	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
12	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
13	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
14	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
15	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：本科目の振り返り (事前事後学習時間 30 分)

関連科目	スポーツ科学Ⅱ、栄養とスポーツ、栄養と健康
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<p>対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%</p> <p>遠隔授業：活動点40%、実技課題点30%、講義課題点30%</p> <p>※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。遠隔授業の評価は、やむを得ず遠隔授業に切り替えた場合に適応する。</p>
学生への メッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 総合体育館1階
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと

科目名	スポーツ科学Ⅱ	科目名 (英文)	Sports Science II
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美, 前田 奎
ディプロマポリシー (DP)	DP6○		
科目ナンバリング	OPH1417a2		

授業概要・目的	「スポーツ科学Ⅰ」で培った学修内容を応用し、心技体のさらなる向上を目標とする。①<心>スポーツ活動を通じた成功体験や規範遵守、主体性、自己統制、表現力、協調性、他者受容意識の向上など人間力の醸成を目指す。②<技>スポーツ科学Ⅰよりも高度なスポーツ技術の獲得を目指す。③<体>運動やスポーツが身体へ及ぼす影響やそのメカニズムについて理解し、自らの生活行動の中にスポーツを実践できる能力の育成を目指す。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②生涯スポーツへ継続できる ③運動・スポーツの役割や、それらが生体へ及ぼすメカニズムについて理解できる ④多様な背景をもつ人々に対する運動・スポーツの実践方法を身につける
授業方法と留意点	摂南大学の「新型コロナウイルス感染症への対応」に基づき、Microsoft Teamsを用い、「遠隔授業 (オンデマンド形式)」により行います。初回の授業は、ガイダンスも含めた資料を Teams に提示します。 今後、新型コロナウイルスの感染状況の変化に伴い摂南大学の授業運営方針が変更された場合は、この科目の授業形態も対面授業に変更する可能性があります。その際は、変更日や内容を事前にお知らせします。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」：コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」：自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」：課題解決能力を修得できる。 教員免許取得上必修

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意など (講義室) コース分け	ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。 (事後学習時間 30分)
2	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
3	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
4	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
5	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
6	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
7	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
8	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
9	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
10	各コース別実技②	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
11	各コース別実技②	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
12	各コース別実技③ 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
13	各コース別実技③ ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
14	各コース別実技③ ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
15	各コース別実技③ ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：本科目の振り返り (事前事後学習時間 30分)

関連科目	スポーツ科学Ⅰ、栄養とスポーツ、栄養と健康			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	なし		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。			
学生への メッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。			
担当者の 研究室等	8号館3階 食品栄養学科 運動生理学研究室			
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと			

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 萍萍
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1418a2		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 心理学は、人間の行動を予測することを究極的な目標としている。本授業は、これまでに得られた心理学的知見を学ぶことで、自己と他者、そして自分の周囲を取り巻く社会を科学的な視点から見直すことを目指している。これにより、学生の友人や教員との関係の変化に柔軟に対応できるような人間力を得て、他者と接する上での心のあり方やマナーなどの態度について改善されることも期待している。</p> <p>【授業目的】 本講義の目的は下記の3つである。 1) 心理学という学問に対する初歩的な理解ができるようにする。 2) 情報を捉えるメカニズムを理解できるようにする。 3) 自己を探究するための手がかりをつかめるようにする。</p>
到達目標	<p>本講義の具体的な到達目標として以下の3点を挙げる。 1) 「学問としての心理学」に触れ、通俗的な心理学への誤解を解く。 2) 心理学のいくつかの理論について説明が出来る。 3) 現実場面の現象を見て、心理学の理論で解釈が出来る。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ Teams と Moodle を用いた遠隔授業を行う。 ・ 受講生は、必ず毎週各自 PC やスマホなどを利用して、teams や Moodle にアクセスすること。
科目学習の効果 (資格)	講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。
2	心理学概論	心理学の歴史、発展、学派、研究対象、研究分野、研究方法等について概説します。	心理学に対するこれまでのイメージと比較しながら、新たに認識した心理学を考えましょう。教科書第10章を予習してください。
3	心と脳	心と脳、脳と行動、脳の特徴・構造、部位の損傷と症状、脳波と自律系反応、睡眠と夢、記憶と脳、発達と脳について解説します。	脳に関する写真・ビデオなどを図書館などで見つけ、授業内容を映像で理解してください。3D Brain というアプリをダウンロードして、脳の各構造と機能を学習してください。
4	感覚と知覚(1)	感覚(視覚・聴覚・味覚・嗅覚・皮膚感覚)の種類と特性、感覚の役割・相互作用・基本特性について解説します。	教科書の第5章を事前に予習してください。
5	感覚と知覚(2)	知覚の体系化、知覚の恒常性、距離・奥行き、動きの知覚、動きの知覚、知覚から認知へについて解説します。	教科書の第5章を事前に予習してください。「錯覚」の例を調べてきて A4 1枚のレポートにまとめましょう。
6	学習	学習とは、学習の方法、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、二つの条件付けの違いについて解説します。	教科書第4章の前半を事前に予習してください。例を挙げながら、二つの条件付けの違いについてレポートにまとめましょう。
7	記憶	記憶の過程、短期記憶、長期記憶、系列位置効果、忘却のメカニズムについて解説します。	教科書第4章の後半を事前に予習してください。
8	思考と言語	演繹推論と帰納推論、問題解決、概念とカテゴリ化について解説します。	教科書第6章を事前に予習してください。
9	動機づけと情動	動機付けの分類、達成と自己実現の動機づけ、フラストレーションと葛藤、情動の種類、情動の認知評価説について解説します。	教科書第7章を事前に予習してください。
10	パーソナリティ	精神分析学とパーソナリティ、外見とパーソナリティ、類型論、特性論、血液型とパーソナリティについて解説します。	教科書第8章を事前に予習してください。事前に自身のパーソナリティがどのようなものであるかについて、すぐ答えられるようになっておいてください。
11	発達	意識と行動、遺伝と環境、行動発達を規定する要因、発達の変化、発達障害について解説します。	教科書の第2章と第3章を事前に予習してください。
12	社会的認知	自己の認知(自我と自己、自己評価)、印象形成、帰属過程、クレーの共変動モデルについて解説します。	教科書第9章前半を事前に予習してください。
13	対人魅力と対人関係	対人魅力の規定要因について解説します。	教科書第9章9.5を事前に予習してください。
14	社会的影響と集団	社会的促進、社会的手抜き、同調、少数派集団の影響、集団意思決定について解説します。	教科書第9章9.3と9.4と9.6を事前に予習してください。これまでの授業テーマを見直し、最も興味のあるもの、そしてそれに関わる現象について考えてみてください。
15	まとめ	授業全体のまとめ	授業後、教科書およびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>心理学 [第5版補訂版]</td> <td>鹿取廣人など</td> <td>東京大学出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	心理学 [第5版補訂版]	鹿取廣人など	東京大学出版	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	心理学 [第5版補訂版]	鹿取廣人など	東京大学出版													
	2																
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	心理学	無藤隆など	有斐閣
	2	心理学概論	岡市廣成・鈴木直人（編）	ナカニシヤ出版
	3			
評価方法 （基準）	【授業内小テスト】50% 【授業内課題】30% 【教科書などを用いた課題（小レポート）】20%			
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めてください。			
担当者の 研究室等	11号館6階 経営学部事務室			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけるようにしてください。 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間かけるようにしてください。 遅刻、講義中の無断退出は他の受講者の迷惑にもなりますので厳に謹んでください。 新型コロナウイルス感染拡大の対策として、私語が禁止です。			

科目名	倫理学	科目名 (英文)	Ethics
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	0HU1419a2		

授業概要・目的
「他の人のためと思ってやっていることも、実際のところは自分のためでしかないのでは?」「自分よりも困っている人が世界中にいると知っ
ていながら、彼らに寄付せずに自分の買いたいものを買うのは非情なことだろうか?」「価値観は人や文化によって異なり、そこに優劣はないと
したら、他人にアドバイスしたり批判することは余計なこと、失礼なことだろうか?」
このようなことは、別に倫理学者や哲学者でなくとも、誰もがふとしたときに考えたことがある(人によっては常に考えている)ことなのでは
ないかと思います。本授業ではこのような身近なテーマから出発し、現代社会の諸問題(中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、人
種差別、ジェンダー等)に関してどのような倫理学、哲学、宗教上の主張がなされてきたかを学びます。また、それらと対照することで自分自身
のコンセンサス(常識)を自覚し、再検討することが目的です。

到達目標
1. 授業で扱う現代社会の諸テーマ(中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー、宗教と道徳の関係、非利己性、寄付の義
務等)について『現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで』(ジェームズ・レイチェルズ著、古牧徳生・次田憲和訳、晃洋書房)
の議論を参考に、専門的な視点を身に付ける。
2. 上記の諸問題に関して自分なりの考えをまとめる。

授業方法と留意点
Teams を使用して、講義原稿と課題読書を配布します(毎回、ある程度の読書量があります)。授業ごとに Google Form を利用して、それらのテ
キストに関する小問題に答えてもらいます。
【※※ コロナウイルスの影響で対面授業が不可能である場合は、対面授業が行われるべき日時に、Teams の動画配信機能を利用しリアルタイム
で授業を行います。また、その際の動画と音声は録画し、Teams 経由でオンデマンドでも配信します。※※】

科目学習の
効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・倫理とは何か ・哲学との関係性	予習: なし 復習: なし
2	道徳とはどういうことか	・道徳は定義できるのか ・道徳の最小概念 ・回復の見込みのない乳児をどのように 扱うべきか	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題(哲学、倫理学の古典からの抜粋で あることが多い)がある場合は、それを読み、選択 問題形式の課題を解いて提出すること
3	文化的相対主義	・異なる文化はいかにして道徳規範を持 つのか ・文化的相対主義を本気で受け止めると どうなるか ・文化的相対主義から何を学ぶことがで きるか	2に同じ
4	倫理における主観主義	・倫理学に証明はあるのか ・同性愛の問題	2に同じ
5	道徳は宗教に基づくか	・道徳と宗教の関係 ・道徳は神の命令か ・キリスト教と中絶の問題	2に同じ
6	心理学的利己主義	・非利己性は可能か ・「どんなことも結局自分のためでしか ない」という主張は本当か	2に同じ
7	倫理的利己主義	・飢餓救済に寄付する義務はあるのか ・「何が人のためになるかは難しい」「自 分のためになることだけをやるべきで ある」という主張は本当か	2に同じ
8	功利主義者のアプローチ	・安楽死の問題 ・動物の権利の問題	2に同じ
9	功利主義をめぐる議論	・幸福の問題 ・結果がすべてか	2に同じ
10	絶対的道徳規則はあるのか	・普遍的な道徳は可能か	2に同じ
11	カントと人格の尊重	・「人間の尊厳」という考え ・刑罰の理論における応報と功利性	2に同じ
12	社会契約の思想	・ホプズの主張 ・囚人のジレンマ ・市民的不服従についての問題	2に同じ
13	フェミニズムと気づかひの 倫理	・女と男は倫理についての考えが違うか	2に同じ
14	徳の倫理	・徳の倫理と正しい行動の倫理 ・様々な徳	2に同じ
15	満足のいく道徳説とはいか なるものか	・思い上がりのない道徳 ・道徳共同体 ・正義と公正	2に同じ

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズム まで	ジェームズ・レイチェルズ著、古 牧徳生・次田憲和訳	晃洋書房
2				

	3		
評価方法 (基準)	授業毎の課題（インターネット経由で提出）：70%（Google Form によって提出してもらった各授業回の課題×14 回分（第 2 回-第 15 回分）。第 1 回目は授業資料、課題共にありません） 期末試験（インターネット経由で提出）：30%		
学生への メッセージ	毎回の授業ごとに、一定量の読書課題と授業後の課題があるので、頑張ってついてきてください。 答えがないと言われる現代社会を生きる上で、簡単に消費されず、長い間参考になるであろう知見を得ることができたと思ってもらえれば幸いです。		
担当者の 研究室等	非常勤講師控室		
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。非常勤講師室等における対応可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。		

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1420a2		

授業概要・目的	ある事柄が「科学的に正しい」と言われたら、私たちはつい、それが絶対的に正しいのだと思ってしまうがちです。ところがそれにもかかわらず、私たちは日常生活の上では、「科学的に」正しいだけでなく、「将来的に」「倫理的に」「文脈的に」等々、様々な正しさの中で自分の行動を決定しなければなりません。つまり私たちは、科学を唯一絶対の基準として生活することはできないのです。しかもその一方で、複数の基準は互いに相容れないこともあります。そのため、人生においては正しいか間違っているのか、一概には言えない場面に出くわることになります。こうした割り切れない状況に向き合うために人間は「様々な見方同士がどのようにして関わり合っているのか」ということを考えてきました。この営みは「哲学」と呼ばれています。本講義では、その哲学において登場する問題と考え方のいくつかを学びます。
到達目標	1. 一つの物事には多様な見方が存在するということを学ぶ 2. 哲学の歴史と学説に関する基礎的な知識を学ぶ
授業方法と留意点	配布資料を教科書として用いる。 毎回授業終わりにコメントを提出してもらい（方法は初回授業で指示する）、次回の授業冒頭でそれに対する応答を行う。
科目学習の効果 (資格)	哲学的思考を用いて物事を立体的に理解することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	講義の進め方や評価基準等を確認する	予習：シラバスに目を通しておく 復習：哲学について考える (30分)
2	古代哲学 (1)	古代懐疑主義の哲学を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
3	古代哲学 (2)	ソクラテスのイデア論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
4	古代哲学 (3)	アリストテレスの目的論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
5	自然科学の発展	ガリレオの自然の数学化を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
6	認識論 (1)	デカルトの「我思う故に我在り」を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
7	認識論 (2)	ロックの観念論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
8	認識論 (3)	バークリとヒュームの観念論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
9	心と物 (1)	カントの理性批判を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
10	心と物 (2)	唯物論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
11	心と物 (3)	フッサールの志向性分析を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
12	人間の生きる世界 (1)	フッサールの生活世界を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
13	人間の生きる世界 (2)	ハイデガーの根本気分を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
14	人間の生きる世界 (3)	バシュラールの夢を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
15	まとめ	講義全体を振り返り、哲学の意義を考える	予習・復習：講義ノートを見直す (計1時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生活世界の構造	アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン	ちくま学芸文庫
	2	観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書
	3			

評価方法 (基準)	学期末のレポート50%、毎回の授業内課題(コメント)50%の割合で評価する。
学生への メッセージ	一見して奇妙に見える意見も、必ず発言者なりの見方や考え方に基づいています。これは親しい友人でもはるか昔の哲学者でも同じことことです。見慣れない考え方に粘り強く接することによって、人生の可能性(生きている間にできること)が広がります。
担当者の 研究室等	
備考	講義に関する質問等は授業前後に教室または非常勤講師控室にて対応する。

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1421a2		

授業概要・目的	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野である。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。
到達目標	さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。
授業方法と留意点	講義内容を収録した音声付パワーポイントをオンデマンド配信する。音声付パワーポイントは、Moodleにアップロードする。 第5回から対面授業に切り替える。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方	講義ノートを復習しておくこと (事後学習 3時間)
2	熱帯気候と住民生活 (1)	熱帯雨林とサバンナ	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
3	熱帯気候と住民生活 (2)	熱帯雨林の近年の変化	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
4	熱帯気候と住民生活 (3)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
5	熱帯気候と住民生活 (4)	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
6	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1)	砂漠と季節河川	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
7	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2)	砂漠ゾウと地域住民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
8	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3)	乾燥地帯で生きる人々	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
9	寒帯・冷帯気候と住民生活 (1)	氷河地形と人々の暮らし	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
10	寒帯・冷帯気候と住民生活 (2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
11	寒帯・冷帯気候と住民生活 (3)	山岳地帯の住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
12	温帯気候と住民生活 (1)	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
13	温帯気候と住民生活 (2)	先進国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
14	温帯気候と住民生活 (3)	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
15	試験 (授業内で実施)	授業内で実施する試験	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 3時間)

関連科目	人文地理学、自然地理学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界がわかる地理学入門	水野一晴	筑摩書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	試験 70%, 授業内課題 30%
-----------	-------------------

学生へのメッセージ	高校で地理 (A・B) を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回きちんと出席し、ノートを取りながら集中して受講してください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館2階 (非常勤講師室)。質問等は学内メールで受け付ける。
------------	---------------------------------

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	麻生 将
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1422a2		

授業概要・目的	現代世界・社会の諸問題に地理学がどのように向き合っているかを考えるにあたり、具体的な事例を通して主要な人文地理学の研究成果とアプローチを紹介する。			
到達目標	人文地理学の様々な研究成果や事例を通して、私たちが生きる現実世界すなわち身近なものから現代世界・社会の様々な現象や課題を地理学的な発想から捉え直し、解決に向けて取り組む視点、知識、発想の習得を目指す。そのためには、当然のこととして見過ごしてしまいがちな身近な事象について「なぜここに?」「どこからどこへ?」などのような地理的好奇心を常に持ち続けることが重要である。			
授業方法と留意点	配付資料を用いて、講義形式で行う。授業中に何度か課題を出す。それらの課題に取り組むことで、授業内容をしっかりと復習してほしい。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス:地理学を学ぶ意義、地理学から見える世界・現象	授業の進め方、授業全体の参考書の紹介など	中学校(高校での地理選択者は高校地理)までの「地理」の学習内容を振り返る(事後学習)(2時間) オンライン
	2	地図の読解	様々な地図の読解と理解について	紹介した参考文献を読む(事後学習) テーマに沿った地図(身近な地域の地図またはメンタルマップ)作成の課題に取り組む(事後学習)(2時間) オンライン
	3	都市の空間現象	都市の歴史、現代の都市で生じる様々な現象と課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 オンライン
	4	農村の現状と課題	農業地理学の基礎と農村の成り立ちと現状、課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 オンライン
	5	経済地理学①工業	工業立地の歴史と現状、将来の変化について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	6	経済地理学②農業	日本と世界の農業の現状と課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	7	経済地理学③商業・流通	事業所の立地と流通システム、および経済のグローバル化について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	8	環境問題と地理学	様々なスケールから見た環境問題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	9	災害と地理学	災害と人間活動との関わりについて	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	10	社会問題と地理学	日本と世界の主な社会問題の空間現象について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	11	ジェンダーの地理学	ジェンダーをめぐる空間現象について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	12	空間と政治	都市における空間の管理と政治的背景について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	13	文化の広がり	文化と社会の関わりについて	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	14	生活世界の認識	メンタルマップ、時間地理学について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	15	まとめ	授業の総括	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
関連科目	「自然地理学」「地誌学」			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房
	2	地理学概論	上野和彦ほか編	朝倉書店
	3			
評価方法 (基準)	期末レポート70%、平常点30% (平常課題を何度か課す。)			
学生への メッセージ	<p>1. 講義中の私語、飲食、携帯操作は禁止する。講義の進行を著しく妨害するような態度をとった場合、退室を命ずることがある。</p> <p>2. 授業では毎回の冒頭で配布するレジュメを用いる。講義形式を基本とするが、簡単なディスカッションを時々行う。高等学校で地理を履修していなかったとしても、初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、問題はない。</p> <p>3. 中学や高校の地理の授業で用いた地図帳を常時持参することが望ましい。</p> <p>4. 講義中に何らかの作業を行うことがあるので、マーカーまたは色鉛筆を数色準備しておくこと。</p>			
担当者の 研究室等				
備考	授業外の質問等については、メールにて対応する。メールアドレスは dankebitte0605@gmail.com			

科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	Literature
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村口 進介
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1423a2		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 『源氏物語』を中心に、平安時代の古典文学作品を「研究」の観点からあらためて読み直す。 『源氏物語』をはじめとした平安文学の代表作の読解を通して、個々の作品の世界観や文学史的な位置づけを理解し、古典文学における「ことばの論理」や展開のパターンなどを学び、現代の文学や物語にも通じる平安文学の世界を学ぶ。
到達目標	現代語訳を介さず、「古文」を「古文」のまま読むことに親しみ、紫式部や清少納言、光源氏などの「見ぬ世の人を友とする」(『徒然草』13段)。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 講義を録音した音声ファイルとPDFをMoodleへアップロードし実施。
科目学習の効果 (資格)	いま観たり、読んだりしている小説やマンガや映画への理解度がさらに深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			(事後) 授業で取り上げる作品について、辞書で調べる。
1	イントロダクション	授業の概要と進め方について。	(事後) 授業で取り上げる作品について、辞書で調べる。
2	桐壺巻と『更級日記』	<ul style="list-style-type: none"> 光源氏の誕生と物語への耽溺 表現の工夫を学ぶ 	参考文献&図書を読み理解を深める。
3	帚木巻と『落窪物語』	<ul style="list-style-type: none"> 物語の主人公の条件1 雨夜の品定めと手紙の機能 	参考文献&図書を読み理解を深める。
4	夕顔巻と『宇治拾遺物語』	<ul style="list-style-type: none"> 物語のパターン 物語と禁忌 (タブー) との関わり 	参考文献&図書を読み理解を深める。
5	若紫巻と『紫式部日記』	垣間見から始まる恋	参考文献&図書を読み理解を深める。
6	末摘花巻と『古本説話集』	・紅鼻の戯れと平中	参考文献&図書を読み理解を深める。
7	紅葉賀巻と『建礼門院右京大夫集』	・和歌の修辞 (枕詞、序詞、掛詞) を学びなおす。	参考文献&図書を読み理解を深める。
8	花宴巻と『六百番歌合』	<ul style="list-style-type: none"> 和歌の活用法 贈答歌の作法 	参考文献&図書を読み理解を深める。
9	葵巻と『蜻蛉日記』	<ul style="list-style-type: none"> 贈答歌の機能 平安時代の結婚 (通い婚) の実態 	参考文献&図書を読み理解を深める。
10	賢木巻と『枕草子』	平安時代の社会制度	参考文献&図書を読み理解を深める。
11	須磨巻と『栄花物語』	・道隆家の悲劇	参考文献&図書を読み理解を深める。
12	明石巻と『うつほ物語』	・平安時代の教養と音楽	参考文献&図書を読み理解を深める。
13	濡標巻と『源順集』	<ul style="list-style-type: none"> 物語の主人公の条件2 漢詩文の影響 	参考文献&図書を読み理解を深める。
14	絵合巻と『竹取物語』	・物語文学の伝統	参考文献&図書を読み理解を深める。
15	まとめ	・授業で取り上げた作品を文学史的に捉えなおす。	参考文献&図書を読み理解を深める。またこれまでのプリントをまとめる。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業中の課題 (ミニレポートや小テスト) 30%、学期末レポート70%
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 現代語訳が目的ではないので、文法の話はほとんどしません。 時にはジブリやマーベル、鬼滅の刃などの話も交えつつ、「物語」について、みなさんと考えたいと思います。
担当者の研究室等備考	7号館2階 (非常勤講師室)

科目名	文化人類学	科目名 (英文)	Cultural Anthropology
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片 雪蘭
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1424a2		

授業概要・目的	文化人類学の基礎的な概念と思考方法を学び、多様な文化を理解するための知識と態度を身に着ける。またそのことを通して、これまで当たり前だと考えていた身の回りの事柄を新しい観点から観察できるようになる。																																																																		
到達目標	以下三点について修得することを到達目標とする <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな文化の違いを知り、他文化の人々と接するときの基本的な態度を身につける ・自分が当たり前だと考えてきた物事を、新たに客観的な視点から観察できるようになる ・文化人類学の基礎的な考え方をを用いて、自らの文化を相対的にとらえ直す視点を身につけることができる。 																																																																		
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則オンデマンド形式で行います。 ・授業ではある文化の実践を映した映像や画像を共有する場合があります (オンライン授業の場合は、Youtube 映像を共有)。その文化に属さない者にとってときに「不愉快」や「残酷」と見えることがある。そうした偏見を乗り越えることを目的とする講義ではあるものの、予め留意しておくこと。 ・毎回、コメント・シートを提出する必要がある。コメントや質問に対するフィードバックは、次回の授業である。 ・教科書は不要。毎回、教材を TEAMS で共有するので、各自ダウンロードすること。 																																																																		
科目学習の 効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td></td> <td>シラバスを読んでおく</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>異文化を知るための方法(1)</td> <td>文化人類学の誕生と歴史</td> <td>毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>異文化を知るための方法(2)</td> <td>フィールドワークと民族誌</td> <td>毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>食と生業(1)</td> <td>食べるとはどのようなことか</td> <td>毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>食と生業(2)</td> <td>食料獲得のさまざまなやり方</td> <td>毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>家族と親族(1)</td> <td>家族になること</td> <td>毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>家族と親族(2)</td> <td>世界のさまざまな家族のかたち</td> <td>毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ジェンダーとセクシュアリティ(1)</td> <td>「女らしさ」「男らしさ」</td> <td>毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ジェンダーとセクシュアリティ(2)</td> <td>第三の性</td> <td>毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>儀礼(1)</td> <td>通過儀礼 — 別な私になること</td> <td>毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>儀礼(2)</td> <td>死とはなんだろうか</td> <td>毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>贈与と売買(1)</td> <td>贈り物をめぐって</td> <td>毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>贈与と売買(2)</td> <td>お金と市場</td> <td>毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>グローバル化の人類学(1)</td> <td>観光と開発をめぐって</td> <td>毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>グローバル化の人類学(2)</td> <td>移民と難民</td> <td>毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション		シラバスを読んでおく	2	異文化を知るための方法(1)	文化人類学の誕生と歴史	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと	3	異文化を知るための方法(2)	フィールドワークと民族誌	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと	4	食と生業(1)	食べるとはどのようなことか	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと	5	食と生業(2)	食料獲得のさまざまなやり方	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと	6	家族と親族(1)	家族になること	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと	7	家族と親族(2)	世界のさまざまな家族のかたち	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと	8	ジェンダーとセクシュアリティ(1)	「女らしさ」「男らしさ」	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと	9	ジェンダーとセクシュアリティ(2)	第三の性	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと	10	儀礼(1)	通過儀礼 — 別な私になること	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと	11	儀礼(2)	死とはなんだろうか	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと	12	贈与と売買(1)	贈り物をめぐって	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと	13	贈与と売買(2)	お金と市場	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと	14	グローバル化の人類学(1)	観光と開発をめぐって	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと	15	グローバル化の人類学(2)	移民と難民	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション		シラバスを読んでおく																																																																
2	異文化を知るための方法(1)	文化人類学の誕生と歴史	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと																																																																
3	異文化を知るための方法(2)	フィールドワークと民族誌	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと																																																																
4	食と生業(1)	食べるとはどのようなことか	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと																																																																
5	食と生業(2)	食料獲得のさまざまなやり方	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと																																																																
6	家族と親族(1)	家族になること	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと																																																																
7	家族と親族(2)	世界のさまざまな家族のかたち	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと																																																																
8	ジェンダーとセクシュアリティ(1)	「女らしさ」「男らしさ」	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと																																																																
9	ジェンダーとセクシュアリティ(2)	第三の性	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと																																																																
10	儀礼(1)	通過儀礼 — 別な私になること	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと																																																																
11	儀礼(2)	死とはなんだろうか	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと																																																																
12	贈与と売買(1)	贈り物をめぐって	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと																																																																
13	贈与と売買(2)	お金と市場	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと																																																																
14	グローバル化の人類学(1)	観光と開発をめぐって	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと																																																																
15	グローバル化の人類学(2)	移民と難民	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>文化人類学の思考法</td> <td>松村圭一郎・中川理・石井美保編</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>21世紀の文化人類学</td> <td>前川啓治・箭内匡ほか著</td> <td>新曜社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ようこそ文化人類学へ：異文化をフィールドワークする君たちへ</td> <td>川口幸大</td> <td>昭和堂</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	文化人類学の思考法	松村圭一郎・中川理・石井美保編	世界思想社	2	21世紀の文化人類学	前川啓治・箭内匡ほか著	新曜社	3	ようこそ文化人類学へ：異文化をフィールドワークする君たちへ	川口幸大	昭和堂																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	文化人類学の思考法	松村圭一郎・中川理・石井美保編	世界思想社																																																																
2	21世紀の文化人類学	前川啓治・箭内匡ほか著	新曜社																																																																
3	ようこそ文化人類学へ：異文化をフィールドワークする君たちへ	川口幸大	昭和堂																																																																
評価方法 (基準)	期末レポート 70% (定期試験からレポートに変更) コメント・シート 30% (授業への参加度等を総合的に評価。Teams で提出)																																																																		
学生へのメッセージ	対面からオンラインに変更されましたが、シラバスの内容は変わりません。レポートの課題については、授業の時に説明します。																																																																		
担当者の研究室等																																																																			
備考																																																																			

科目名	女性学	科目名 (英文)	Women's Studies
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荒木 菜穂
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1425a2		

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、今日にいたるまで、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐるの、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。
到達目標	女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解する。その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的に行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語ることができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。 ※4月22日以降はオンライン授業となります。詳細はTeamsにてご連絡いたします。
科目学習の効果 (資格)	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思えます。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと思えます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習 (1時間)
2	メディアの中の男女のイメージ (1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴し次回に備える (1時間)。
3	メディアの中の男女のイメージ (2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴する (1時間)
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー (1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的な問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー (2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー (3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
7	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
8	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
9	身体と性	出産・健康・医療をめぐる、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
10	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
11	労働と社会 (1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習 (1時間)・事例を探索レポート (1時間) 次回テーマについての予習 (1時間)
12	労働と社会 (2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
13	グローバル化とジェンダー	様々な文化における男女を取り巻く社会状況に目を向け、「私」とは、どのような立ち位置の女性 (男性) か、について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
14	性の多様性とジェンダー	性の多様性に関する論点、現状をジェンダーの視点で考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
15	今日的課題と向き合う	女同士の関係、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習 (2時間)

関連科目	社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内課題 (30%)、最終レポート (70%) により総合評価する。			
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起きているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	ボランティア活動論	科目名 (英文)	Study of Volunteer Activity
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01426a2		

授業概要・目的	<p>みなさんはボランティア活動についてどのようなイメージをもっておられるでしょうか。学校で授業の一環として地域の清掃を行ったり募金活動をしったりするのはボランティア活動と言えるでしょうか。チャリティー番組にタレントが報酬を得て出演するのもボランティア活動でしょうか。</p> <p>商業的なイベントで多額の報酬を受け取る人がいる一方で、専門的な知識や経験、資格や免許を有する人々には〈やりがい〉〈思い出づくり〉〈社会貢献〉といった名のもとに無償のボランティアが求められることに批判の声があります。これとは逆に、NPO（非営利団体）の職員が報酬を受け取っていることやNPOに寄付したものがそのまま困っている人々への支援にまわされず経費として使用されることについて批判する人たちもいます。こうした問題について、みなさんはいまどのような理解をされているのでしょうか。</p> <p>ひとことでボランティア活動と言っても、地域の清掃や通学路の見守りといった身近なものから専門的な知識を要するものまで活動の分野、規模、種類、求められる条件などはさまざまです。この授業では、ボランティア活動の意義、歴史、活動の分野や種類、そして社会制度との関係など、ボランティア活動の基本を学修し理解することを目標にしています。</p>
---------	---

到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) ボランティア活動の意義について理解し説明できる (2) 多様なボランティア活動について理解し説明できる (3) ボランティアを必要とする人びとがいることを知るとともに、ボランティアを必要とする社会のしくみについて理解し説明できる</p>
------	--

授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
----------	--

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。	<p>事前学習：シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態しておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習する</p>
2	概論	ボランティア活動の意義、目的、必要性、種類、歴史について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
3	なぜボランティアが必要なのか？	ボランティアの必要性について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
4	支え合いによって成り立つ社会——市民社会論	支え合いによって成り立つ社会、市民社会について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
5	NPO、NGO	NPO、NGOとは何か、またそれらがボランティア活動において果たす役割はどのようなものなのか学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこ

			<p>これまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
6	社会制度とボランティア活動	社会制度が NPO、NGO の活動やボランティア活動にもたらす影響について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
7	グループワーク（1）——国内外の NGO 団体について調査	5人前後のグループに分かれ、国内外の NGO 団体について調査します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
8	グループワーク（2）——国内外の NGO 団体について発表の準備	前回に引き続き、各グループで担当するテーマについて発表の準備をします。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
9	グループワーク（3）——国内外の NGO 団体について発表	グループで調査した内容にしたがって、国内外の NGO 団体がどのような活動を行っているのか紹介します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
10	災害とボランティア	災害とは何か、また災害時にどのようなボランティア活動があるのか学修します。災害時に活躍する専門ボランティアについて学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
11	医療福祉ボランティア	医療福祉ボランティアの種類や特徴について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
12	マイノリティとボランティア活動	マイノリティを支援するボランティア活動について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>

				習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	13	国際ボランティア	国際ボランティアの種類や特徴について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	14	文化ボランティア、その他のボランティア	文化ボランティア、およびその他のボランティアについて学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	15	まとめ、全体のふり返り	この授業で何を学んだのかを振り返ります。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ボローニャ紀行	井上ひさし	文春文庫
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	この授業は授業内課題(リアクションペーパー)15%、グループワーク20%、期末レポート65%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。			
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。日本でも毎日いろいろなことが起こっていますが、世界ではもっといろいろなことが起こっています。ボランティアが必要であるということも、そうした世界での出来事に目を向けることから始まります。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。			
担当者の 研究室等	メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)			
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。			

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	並木 州太郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01427a2		

【授業概要】
 グローバル経済、知識経済の時代である現代において、日本経済は急激かつ大幅な変化の渦中にあります。変化の過程においては、様々な経済・社会・環境問題が発生し、それらは私たちの生活とは一見無縁のようであり、密接に関わり合っています。経済学の基本的な考え方を学び、現象を理解し、対処する力を身につける事は、現代社会において役割を担う私達にとって欠かすことのできない能力です。本講義は、経済学の基本的な考え方を身につける事を目標としますが、グローバル経済や知識経済という現代経済の動向、そのもとの日本経済の課題と展望を踏まえた、現実感あふれる内容を題材にして進めていきます。

到達目標
 1. 経済学の基礎的な概念・キーワードについて理解できる。
 2. それらを用いて現実のさまざまな経済・社会・環境問題を読み解く力を身につけることができる。

授業方法と留意点
 この授業は講義と教員とのディスカッションを中心に行います。授業では日本経済新聞や日経ビジネスの記事を使用しますので、書店や図書館等で入手して、気になったトピックを読む習慣をつけましょう。
 この授業は原則対面で行いますが、緊急事態宣言の発出等により、遠隔授業に切り替わる可能性があります。その際の手順等については別途案内しますので、安心して受講してください。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション: 授業概要、学習目標、授業の進め方のほか、経済学と私達の生活の関係について	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: シラバスを確認すること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
2	経済循環を学ぶ: 古典派経済学とマルクス	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
3	シュンペーターと経済発展の理論	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
4	価値と分配の理論: 価値説と限界効用説、リカードから新古典派へ	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
5	需要と供給: 需要曲線、供給曲線について	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
6	ケインズ入門: 有効需要の原理とは何か	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
7	制度派経済学: 制度 (法律や慣習、罰則) を重視する経済学の系譜	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
8	地域経済と地域経済政策: 地域の経済発展を考える	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
9	戦後の日本経済史: 高度経済成長の背景	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
10	労働市場の構造変化と格差問題	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
11	政府の役割: 市場の失敗と政府の失敗	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
12	人口減少と社会保障制度	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
13	ベンチャー企業や起業家の役割: 社会起業家に注目して	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
14	ポスト資本主義社会を考える: これからの私達が生きる社会	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
15	まとめ: これまでの講義の振り返り	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)

	り返り	る講義。	ス等で調べること(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門 経済学の歴史	根井雅弘	筑摩書房(ちくま新書)
	2	日本経済論〈第2版〉	宮川努、細野薫、細谷圭、川上淳之	中央経済社
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 30%、講義期間中に実施する小テスト/レポート 70%。(60%以上で合格) (新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、定期試験はレポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。)			
学生への メッセージ	私達の身の回りには、経済用語が溢れています。それらの用語の背景にある理論に触れ、エッセンスを持ち帰り、自らの働き方や社会との関わりを考えるヒントにしてほしいと思います。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考				

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01428a2		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、環境、貿易協定の影響を避けて生きることはできません。それらを決定・介入するのが政治であり、皆さんは政治参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。こうしたことは、人間の私的な領域まで積極的に介入してくる福祉国家のなかで環境や国内外の市場に関わろうとする農学部の皆さんには、より深刻な事実として突きつけられる事柄でしょう。 この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治と政治学についての基本的な知識・技能を与えることを一番大きな目的としています。政治学の中でも、もっとも基本的な事柄である日本政治史、政治体制論、政治過程論、国際政治にあたる内容を授業する予定です。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	この授業を通じて学生は、日本の政治・政治学についての基本的な知識・技能を獲得し、いかなる法・政策・立候補者が望ましいか理性的・論理的に判断し、政治に積極的に参加する中でそれを表明していくという政治・政治学に関する思考力・判断力・表現力を育成することができます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーに政治問題に関する意見を論理的に書いてもらったり、予習・復習テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、日本の政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識・技能を獲得し、そのメリット・デメリットを判断し、政治的意見として表明することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～政治とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と身近な日常生活で現れる政治について授業します。	事前学習：政治・政治学について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
2	政治と権力～政治とは何か? 正当な権力とは何か?	身近な日常生活で現れる政治と、マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性とは何かを考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
3	国家と政治システム～システムとは何か?	政治システムとはどういう構造になっているのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第六章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
4	デモクラシー～デモクラシーの条件とは何か?	さまざまな政治システムがあるなかで、戦後の日本政治の基礎になっているデモクラシーとはいかなる政治システムなのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
5	戦前の日本の政治体制～天皇制と日本が戦争へと向かった理由	戦後の日本政治とはまったく異なる戦前の政治体制について授業します。また軍部を戦前の政府が抑えられなかった理由を映像資料を見て考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
6	マスメディアと世論①～政治文化と初期の世論研究	世論と政治文化について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
7	マスメディアと世論②マスメディアの役割とは何か?	マスメディアの役割とそのさまざまな効果について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
8	選挙と政党～中選挙区制から小選挙区比例代表並立制へ	日本の選挙制度を中心に、選挙と政党制について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
9	国会と内閣～議院内閣制と今世紀の行政改革	行政改革による内閣の権限強化を中心に、日本の国会と内閣について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
10	国際政治の二つの観点①～アイディアリズム	国際連盟から国際連合への経過について授業します。また国際連盟から離脱したときの日本の状況について映像資料を見て考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第七章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
11	国際政治の二つの観点～リアリズム	東西冷戦の基盤となるリアリズムの考え方について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
12	冷戦終結後の日本外交①～	冷戦終結後の新しい国際秩序を開くこ	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マ

		湾岸戦争とその結果	とになった湾岸戦争と日本政府の対応について授業します。	メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	13	冷戦終結後の日本外交②～米国同時多発テロとアフガニスタン戦争、イラク戦争	米国同時多発テロをきっかけに生じたアフガニスタン戦争と後のイラク戦争と日本の新法作成について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	14	冷戦終結後の日本外交③～安全保障体制の転換	集団的自衛権の行使の閣議決定を中心に、近年の日本外交の転換について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習:来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく(30分)。 事後学習:試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す(時間の許す限り)。

関連科目 中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の政治学、社会学、国際政治など。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社
	2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社
	3			

評価方法(基準) レポート(約70%)と小テスト(約30%)で評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。

学生へのメッセージ 新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。

担当者の研究室等 11号館10階 和田講師室

備考 予習・復習テストについては次回の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安藤 由香里
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01429a2		

授業概要・目的	本授業は、皆さんの「日常生活」で、法がどのような機能を果たしているかについて「楽しく」学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 社会における法の役割について理解する。 2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。 3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。
授業方法と留意点	教科書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。 毎週、講義と関連する事件・ニュースの新聞記事を持参する。 授業冒頭で、近くの席の人に自分の印刷した記事を見せ、事件の概要となぜその記事を選んだかを説明する。
科目学習の効果 (資格)	法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、社会人として、そして日常生活に必ず役立ちます！

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	法ってなんだろう？	講義の目的、進め方、成績評価／私たちの生活と法	評価の時期・方法・基準の項も参照のこと
2	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権(1)	基本的人権、自己決定権、プライバシー、宗教の自由	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
3	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権(2)	平等権、表現の自由、生存権、参政権	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
4	現代行政における国民	外国人の権利、入国管理、難民	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
5	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
6	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
7	家族と法 (1)－結婚・離婚	法律婚、事実婚、離婚、養子縁組	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
8	家族と法 (2)－親子関係小テスト	生殖補助医療、親権、後見制度、扶養、相続	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
9	日常生活のアクシデント－交通事故	交通事故、自動車、自転車	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
10	日常生活のアクシデント－医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
11	日常生活のアクシデント－製造物責任・悪徳商法	クーリングオフ	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
12	罪と罰－犯罪(1)	脳死・臓器移植と刑法、インフォームドコンセント	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
13	罪と罰－犯罪(2)	インフォームドコンセント、安楽死・尊厳死と刑法	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
14	労働・社会保障と法 (1)	労働契約、解雇・失業、	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
15	労働・社会保障と法 (2)小テスト	子育て・介護	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認

関連科目	日本国憲法
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学概論－身近な暮らしと法	國友順市、畑雅弘(編著)	嵯峨野書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	1. 試験 (総括的評価) 50% 2. 毎回新聞記事を持参して積極的に討議し、コメント用紙に記入し提出する。 50% 新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。
-----------	---

学生へのメッセージ	法は、私たちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。社会人として知らないではすまされない基礎知識があります。本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。
-----------	--

担当者の研究室等	Email: yukari.ando@edu.setsunan.ac.jp
----------	---------------------------------------

備考	原則対面授業だが、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する場合もある。 1. 講義前の予習 (教科書を読む。1時間×15回) 2. 復習 (講義の重要事項をまとめる。1.5時間×15回) 3. 自己学習 (講義に関連する新聞記事を読み、次週に持参する)
----	--

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Management
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小沢 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01430a2		

授業概要・目的	<p>経営学の基本について、全体を網羅して講義を行います。講義で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。</p> <p>この講義では、現代の企業や会社組織における運営のあり方について真剣に議論していく中で、経営学の基本的なことを学びます。</p> <p>身の回りのものを眺めるだけで、本講義で説明する理論と深く関係する事例が見つかるはず。経営学を深く学ぶということは、様々な学問分野の基礎を学ぶ事にもつながります。それは、これからの皆さんの人生をより豊かなものとする第一歩になるでしょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 現代企業に関する個々の理論にみえる考え方の全体像を把握した上で、現実を生じる物事を考える姿勢を身に付ける 実際に組織構造やビジネス・システムを構築する際の基本となる「概念的な」道具立てを知る 複数の考え方を駆使して、自分たちの置かれた状況を多面的に読み解く 専門用語に目を奪われることなく、「ものの見方」を習得する
授業方法と留意点	この講義は、基本的に教科書と、私の用意する教材を基に講義を進めていきます。また座学だけでなく、実在する企業のケースを元に、組織の仕組みに関する巧拙や組織マネジメントのあり方などについて、議論を行います。よって学習課題への返答を求めるなど、参加を重視します。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおく 事後：講義内容を復習する
2	企業経営の全体像	企業経営を中心に講義します	事前：教科書の第1章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
3	経営学の全体像	経営学の特徴や、経済学との違いについて講義します	事前：教科書の第2章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
4	企業と社会	株式会社制度などについて講義します 場合によっては、企業の社会的責任にテーマを変える時もあります (その折は、事前にお知らせします)	事前：教科書の第3章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
5	企業とインプット	金融資本や労働に関する市場について、学びます	事前：教科書の第4章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
6	企業とアウトプット	製品やサービスの市場について、考えます	事前：教科書の第5章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
7	競争戦略のマネジメント 1	企業の成長、競争に打ち勝つ考え方を説明します	事前：教科書の第6章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
8	競争戦略のマネジメント 2	違いを作る3つの基本戦略と、仕組みの競争について、講義します	事前：教科書の第7章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
9	マーケティング	製品やサービスの販売 (対象や価値伝達) に関して学びます	事前：事前の配布資料を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
10	多角化戦略のマネジメント	新しい事業の創出、そのプロセスについて講義します	事前：教科書の第8章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
11	国際化のマネジメント	企業が国境を越える理由について、講義します	事前：教科書の第9章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
12	マクロ組織のマネジメント	企業が活動できる仕組みを学びます	事前：教科書の第10章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
13	ミクロ組織のマネジメント	インセンティブ・システムやリーダーシップについて学びます	事前：教科書の第11章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
14	キャリアデザイン	キャリアについて考えます	事前：教科書の第12章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
15	病院組織のマネジメント	経営学の広がりについて講義します	事前：教科書の第14章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からの経営学 (第3版)	加護野 忠男・吉村 典久 (編著)	碩学舎
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	市場再活性化のメカニズム	小沢 貴史	千倉書房
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<p>この講義では、レポートを2回、課します。レポートは、指定する期日 (講義の中でお知らせします) までに提出してください。期日を遅れて提出した場合は、減点の対象となります。</p> <p>2回のレポートと、出席および教材へのアクセス状況を加味して、総合的に評価します。レポートの評価項目は、次の通りです。</p> <p>「重要な要因や問題の識別」 「論理一貫性」、「客観性」</p>
-----------	---

	「分析内容の完結性」 「適切な概念やモデルの適用」
学生への メッセージ	受講される皆さんは、組織論や戦略論、マーケティング論などを問わず、さまざまな分野の本を余力のあるうちに読んでおいてください。たとえば社会学や心理学、経済学、歴史学、哲学などです。自分の関心のある分野で結構です。無理なく読んでいただき、その本の考え方を吸収してください。
担当者の 研究室等	担当者は、非常勤講師です。
備考	

科目名	観光学	科目名 (英文)	Tourism Studies
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金 志善
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01431a2		

授業概要・目的	本講義では、観光の概念について理解し、観光学の基礎的な専門知識を習得することを目的とします。観光は、今やグローバル産業と言われるまでに大きく成長しました。国内では、東京オリンピックによる経済波及効果が地域活性化にも繋がると観光への期待が膨らんでいます。そこで、この授業では、観光の歴史、文化そして経済的側面からその潜在力を捉え、多様な観光産業との関わりやその果たす役割を包括的に理解することを期待します。
到達目標	①観光の歴史的発展を概観しながら、観光産業の機能と役割について理解できる。 ②観光を捉えるための基本的な考え方、社会情勢などの基礎的な知識を身につけることができる。 ③国内観光、海外旅行、外国人の訪日旅行等の現状を理解し、その要点を説明できるようになる。
授業方法と留意点	・講義中心 ・課題（調査、レポートなど） 毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
科目学習の効果（資格）	観光地で起きている問題を自らの課題として考え、自ら関わろうとする態度を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	観光の概念	授業の進め方の説明の後、観光の基礎的な概念について学習します。	これまで思い出に残る旅の経験を列挙する。事前学習2時間、事後学習2時間。
2	観光の歴史	人はなぜ旅行に行くのだろうかについて学び、旅のかたちの変遷を学習します。第1回レポートを課します。	産業革命以降、人々を運送する手段が発展し、今日に至っている。当時どのような交通手段があったかを調べておくこと。事前学習2時間、事後学習2時間。
3	宿泊業 (1)	日本のホテルの発達史を学び、現在の宿泊業の特徴と役割を理解します。	日本のホテルの今後の方向性について考えをまとめる。事前学習2時間、事後学習2時間。
4	宿泊業 (2)	ホテルチェーンの現状と宿泊業務の基礎について学習します。	興味を持っている外資系ホテルチェーンに関して、ネットなどでその歴史と現状について調べてくる。事前学習2時間、事後学習2時間。
5	旅行業	旅行業の仕組みと旅行業の商品について学習します。旅行商品の成り立ち、流通、販売の機能を学び、商品を販売する立場で企画してみます。第2回レポートを課します。	旅行業の役割や機能をまとめておくこと。事前学習2時間、事後学習2時間。
6	地域における SDGs とは	SDGs とは何かについて学び、企業がSDGs に取り組むべき課題などについて学びます。	なぜSDGsは注目されるのかについて調べておく。事前学習2時間、事後学習2時間。
7	運輸業	航空会社・空港・鉄道について学習します。航空会社の歴史と企業が現在置かれている状況をサービス、格安航空会社の台頭などから理解して行きます。第3回レポートを課します。	格安航空会社 (LCC) について調べる。事前学習2時間、事後学習2時間。
8	メディカルツーリズム	アジアにおけるメディカルツーリズムの現状と各国の事例について学習します。	日本においてメディカルツーリズムが難しい理由について調べる。事前学習2時間、事後学習2時間。
9	オーバーツーリズム	オーバーツーリズムとは何か、また、それが地域住民・観光客に及ぼす影響と今後求められる対応策について学習します。第4回レポートを課します。	観光公害の問題点について調べておく。事前学習2時間、事後学習2時間。
10	統合型リゾート (IR)	統合型リゾート (IR) とは何か。日本のIRの現状と世界のIRについて学習します。	統合型リゾート (IR) の課題、その対策などについて調べる。事前学習2時間、事後学習2時間。
11	観光マーケティング	マーケティングとは何か、観光にマーケティングがなぜ必要なのかについて学習します。第5回レポートを課します。	事前に配布する資料を事前に読んでおくこと。事前学習2時間、事後学習2時間。
12	観光業の環境分析	観光業の環境分析、SWOT分析について学習します。	SWOT分析について復習しておく。事前学習2時間、事後学習2時間。
13	ダークツーリズム	ダークツーリズム概念の登場と拡散について事例を挙げて紹介します。	ダークツーリズムの役割について調べておく。事前学習2時間、事後学習2時間。
14	コンテンツツーリズム	コンテンツツーリズムによる地域振興について学習します。	アニメツーリズムについて調べておく。事前学習2時間、事後学習2時間。
15	これまでのまとめ	テストを実施します (1~13回)。 観光の発生過程から現在の発展へのプロセスを学習します。観光のもたらす影響にはどのようなプラスとマイナス面があったか復習します。	これまで学んだ内容を復習しておく。事後学習2時間。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代観光総論	前田勇	学文社
	2	入門観光学	竹内正人	ミネルヴァ書房
	3	新・観光学入門	中村忠司・王 静	晃洋書房
評価方法 (基準)	テスト 50%、5 回の課題レポート 50%			
学生への メッセージ	本授業では、観光学に関わる確かな知識・技能を身につけるために、レポートにより課題を出す。レポートは、授業中に提示した課題について、5 回提出する。			
学生への メッセージ	楽しく観光を学びましょう。			
担当者の 研究室等				
備考	非常勤講師室 (相談可能時間: 月曜日 12 時 30 分~13 時 10 分) stellakim0217@gmail.com			

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01432a2		

授業概要・目的	本講義では、日本国憲法の基礎的知識を修得することを目的としています。さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようになることを目標とします。できるだけ身近な素材を利用して講義を進めますので、「憲法」と日常生活との関わりについて考えてもらえる機会になるでしょう。また、憲法をめぐるさまざまな考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養います。
到達目標	この授業を通して学生は、「憲法」の意義、および日本国憲法の基礎知識を修得し、社会の中の憲法にかかわる諸問題について自分の意見を述べるができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	基本は教材・課題配置型の講義形式で行います。オンライン授業方法の詳細は、第2回授業の中で説明します。毎回の授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでもらいます。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。
科目学習の効果 (資格)	各資格試験や就職試験における法学科目の基礎知識としても有益です。 教員免許取得上必修

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに 現代日本の法制度の概要について	講義 日本法全体における憲法の位置づけ	事前：日本国憲法全文を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
2	「憲法」とは 日本における「憲法」の成立と歩み	講義 欧米の「憲法」の歴史を概観する。「立憲主義」という言葉の意味を考える。日本において「憲法」はどのように誕生したのか？大日本帝国憲法の特徴とともに、日本国憲法の成立過程及び現在までの歩みを学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
3	「日本国憲法」の基本構造・基本原理	講義 日本国憲法の基本原理および基本構造(統治の基礎と人権の基礎)を確認する。第1条から、日本国憲法における「天皇」制と国民主権について考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
4	統治の基礎(1) 国会	講義 日本の統治機構の基本を学ぶ。特に国会の役割、さらに三権分立の意義を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
5	統治の基礎(2) 裁判所	講義 裁判・裁判所の基礎を学ぶ 裁判所の組織、司法権の独立、裁判員制度	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
6	人権総論 憲法で保障される人権とは	講義 日本国憲法の人権規定の基本にある考え方を学ぶ。人権規定の種類・分類を学び、人権の意義と全体像を確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
7	自由権① 信教の自由	講義 重要判例を通して信教の自由・政教分離の原則の意義を考える。また信教の自由をめぐる欧米の歴史も概観する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
8	自由権② 表現の自由 (その他の自由権)	講義 「表現活動」やその他の自由権をめぐる判例や近年の動向を検討する	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
9	自由権③ 刑事手続上の権利、他	講義 適正手続の保障、公判手続における権利などについて学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
10	社会権 生存権・労働者の権利	講義 まず社会権の歴史を学ぶ。生存権の意義と、日本の貧困問題を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
11	法の下での平等①	講義 憲法上の「平等」とは？「憲法」で保障される平等の意味・歴史を学ぶ。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
12	法の下での平等②	講義 14条・24条をめぐる近年の重要判例を検討しつつ、家族をめぐる法や諸問題(夫婦別姓、同性婚の問題など)を憲法を通して考える	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
13	新しい人権	講義	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)

		自己決定権	新しい人権、特に「自己決定権」について考える。	<p>びその他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。（2時間）</p> <p>事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2時間）</p>																
	14	平和主義	<p>講義</p> <p>戦後から現在までの「9条」をめぐる様々な動向・多様な意見を確認し、今後の日本の「平和」と憲法の意義を考えてみる。</p>	<p>事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。（2時間）</p> <p>事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2時間）</p>																
	15	憲法改正の諸問題まとめと復習	<p>講義</p> <p>憲法改正をめぐる動向と諸問題を検討する。これまでの講義内容全体を復習する。憲法の重要判例も再度確認する。</p>	<p>事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所を読んでおく。（1時間）</p> <p>事後：これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。（3時間）</p>																
関連科目	法学入門																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スタディ憲法</td> <td>曾我部真裕 他</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スタディ憲法	曾我部真裕 他	法律文化社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	スタディ憲法	曾我部真裕 他	法律文化社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>憲法（第7版）</td> <td>芦部信喜</td> <td>岩波書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	憲法（第7版）	芦部信喜	岩波書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	憲法（第7版）	芦部信喜	岩波書店																	
2																				
3																				
評価方法（基準）	授業内課題（小テスト、小レポートなど）40%と、期末試験（レポート、他）60%によって、総合的に評価します。詳細は、オンライン授業開始の際に、説明します。																			
学生へのメッセージ	「憲法」をめぐる議論が活発化する今、憲法の基礎知識をしっかりと修得しましょう。気軽に質問してください。																			
担当者の研究室等	1号館2階（非常勤講師室）																			
備考	各授業の最後に実施する課題については、次の授業で解説します。参考文献は、授業の中で、随時紹介します。																			

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	友枝 恭子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1433a2		

授業概要・目的	教養数学では、農学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる（統計学などの）応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、農学部を含む理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、農学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。理解の促進と達成の度合いをみるため課題演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数	課題レポート
	2	微分法の基本	・微分計算の公式 ・1次近似式	課題レポート
	3	微分法の基本	・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ	課題レポート
	4	微分法の基本	・速度と加速度 ・運動量保存則	課題レポート
	5	指数関数と対数関数	・指数法則と対数法則	課題レポート
	6	指数関数と対数関数	・グラフ	課題レポート
	7	指数関数と対数関数	・簡単な微分方程式	課題レポート
	8	三角関数	・三角関数の復習 ・グラフ	課題レポート
	9	三角関数	・加法定理 ・三角関数の微分	課題レポート
	10	不定積分	・基礎的な公式	課題レポート
	11	不定積分	・置換積分 ・部分積分	課題レポート
	12	定積分	・不定積分と定積分 ・面積と定積分	課題レポート
	13	定積分	・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	課題レポート
	14	定積分	・表面積と回転体の体積	課題レポート
	15	微分方程式	・変数分離型 ・1階線型	課題レポート

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	確率・統計のための数学基礎	小林俊公・島田伸一・友枝恭子	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題演習で30% 期末試験70%の合計によって判断する。なお、期末試験についてはCOVID19感染状況次第ではレポート等の代替手段への変更も有り得る。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	友枝 : 寝屋川学舎3号館3階(学期途中で5号館1階へ移転予定)(数学研究室) tomoeda@mpg.setsunan.ac.jp
備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 俊介
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1433a2		

授業概要・目的	教養数学では、農学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる（統計学などの）応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、農学部を含む理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、農学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため課題演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数	課題レポート
	2	微分法の基本	・微分計算の公式 ・1次近似式	課題レポート
	3	微分法の基本	・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ	課題レポート
	4	微分法の基本	・速度と加速度 ・運動量保存則	課題レポート
	5	指数関数と対数関数	・指数法則と対数法則	課題レポート
	6	指数関数と対数関数	・グラフ	課題レポート
	7	指数関数と対数関数	・簡単な微分方程式	課題レポート
	8	三角関数	・三角関数の復習 ・グラフ	課題レポート
	9	三角関数	・加法定理 ・三角関数の微分	課題レポート
	10	不定積分	・基礎的な公式	課題レポート
	11	不定積分	・置換積分 ・部分積分	課題レポート
	12	定積分	・不定積分と定積分 ・面積と定積分	課題レポート
	13	定積分	・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	課題レポート
	14	定積分	・表面積と回転体の体積	課題レポート
	15	微分方程式	・変数分離型 ・1階線型	課題レポート

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	確率・統計のための数学基礎	小林俊公・島田伸一・友枝恭子	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分の押さえどころ	辻川享・大塚浩史・出原浩史・伊藤翼・矢崎成俊	学術図書出版社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題演習で30% 期末試験70%の合計によって判断する。 なお、期末試験については、COVID-19による感染状況次第では、レポート等の代替手段への変更も有り得る。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	
備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	生命倫理	科目名 (英文)	Bioethics
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩崎 綾乃
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ONA1434a2		

授業概要・目的
 農学の学びにおいて「総合科学」の基礎となる幅広い知識の獲得に加え、倫理観をもった豊かな人間性を涵養する教育が必要であり、農学分野における生命科学の倫理的配慮が社会的、科学的、技術的側面などから求められている。中でも、農学分野において、ゲノム解析、各種細胞の研究利用、遺伝子組み換えによる品種改良など生命に係る技術利用が行われ、人類に有益な結果をもたらす一方で、予期せぬ有害な影響なども予測される。したがって、本授業では、生命科学分野で配慮されるべき生命倫理観及びその行動を学ぶ。「ヒトの生死や生命とは何か」、「人間とは何か」などの根源的な問いに向き合いながら、農学における生命科学の最新技術がヒトや地球環境に及ぼす影響を考察し、倫理的行動のあり方について学修することを目的としている。

- 到達目標**
- ① 生命倫理に関する諸問題について、農学部の学生として必要な知識や考察力を身につける。
 - ② バイオテクノロジーと環境の問題について、倫理的理解を深める。
 - ③ ヒトの生命の誕生および死について学修し、それらに対する知識と倫理観を身につける。
 - ④ 食に関わる倫理的課題を理解し、説明出来る。
 - ⑤ ヒトの生活を支えている様々な生命を理解し、それらに対する倫理観を身につける。

授業方法と留意点
 授業は、教員による講義と各種のワークを取り混ぜて行う。オンライン授業はTeamsを用いたリアルタイム形式で行う。対面授業でグループワークを行う場合は、学生は複数の講義室の決められた席に着席する。その場合は、教員は各講義室を往き来して指導するほか、ビデオ中継によって各講義室を連結して授業を進める。講義はパワーポイントと板書、テキスト、配付資料などを用いて行うが、授業の理解度を高めるために事前・事後の学習課題を課す。事前学習の小テストは、テキストなどの指定された部分を読んでから Moodle 上で解答する。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ヒトゲノム	これから始まる授業の中で、あなたの命、あなたと関係の深い人の命、あなたの命を支える沢山の多様な命、そして農業生産と命、それらの関係をどのように位置づけていくのかを学ぶ。また、毎回の授業を受ける際に必要な準備などについても説明する。 ・ゲノム情報について知る。 ・ヒトのゲノム情報に関わる具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (1, 3章) 授業中に小テストを行う。 事後学習：事後レポート
2	環境倫理	・環境倫理の様々な論点を知る。 ・様々な環境課題における「世代間倫理」について考える。	事前学習：テキストの予習 (30章) と小テスト 事後学習：事後レポート
3	バイオテクノロジー (1)	・新しいバイオテクノロジーの社会的受容に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (2章) と小テスト、事前講義の視聴 事後学習：事後レポート
4	バイオテクノロジー (2)	・ゲノム編集技術に関する具体的課題について考える。	事前学習：事前配布資料について的小テスト 事後学習：事後レポート
5	ヒトの死について	・医療資源の配分、脳死と臓器移植に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (9, 11章) と小テスト 事後学習：事後レポート
6	患者の権利と個人の尊厳について	・インフォームド・コンセントに関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (16章) と小テスト 事後学習：事後レポート
7	患者の意思決定と QOL (quality of life)	・医療倫理の四原則に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (18章) と小テスト 事後学習：事後レポート
8	安楽死・尊厳死、終末期医療	・安楽死・尊厳死、終末期医療に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (14, 15章) と小テスト 事後学習：事後レポート
9	食のプロセスについて	・食のプロセスについて知る。 ・食のプロセスについて関わる具体的な課題について考える。	事前学習：配布資料の予習 小テストは、授業中に行います。 事後学習：事後レポート
10	食の安全性について	・食料の安全保障について知る。 ・食の安全性保障に関する具体的な倫理的問題について考える。	事前学習：配布資料の予習 小テストは、授業中に行います。 事後学習：事後レポート
11	食と健康について	・食べ物のリスクと安全性をどのように理解し評価するかについて、その問題点を知る。 ・食べ物と健康についての様々な倫理的な観点から理解を深める。	事前学習：配布資料の予習 小テストは、授業中に行います。 事後学習：事後レポート
12	ヒト以外の生命 1: 伴侶動物とペット産業	・動物の生命と愛護について考える。 ・伴侶動物の生と死、ペット産業などについて学び、理解を深める。	前学習：テキストの予習 (21章) と小テスト 事後学習：事後レポート
13	ヒト以外の生命 2: 野生動物と産業動物	・野生動物と産業動物の生命を考える。 ・野生動物の生と死、産業動物と食肉産業などについて学び、理解を深める。	事前学習：配布資料の予習 事後学習：事後レポート
14	ヒト以外の生命 3: 社会文化と生命	・文化と生命観の関係を考える。 ・ヒトの生活や産業と生命の関係について理解を深める。	事前学習：テキストの予習 (23, 24章) と小テスト 事後学習：事後レポート
15	ヒト以外の生命 4: 私たちの生活と生命の関係を考える	・ヒトの生活と生命の様々な関係について、事前課題を通じて考えた意見を交換し、理解を深める。	事前学習：事前課題に取り組む 事後学習：事後レポート

関連科目 生物学、生物学演習、

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テーマで読み解く生命倫理	小泉博明ら編著	教育出版

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業全体について、事前学習課題の総得点を50点に換算し、授業内の成果物や事後レポートなどを50点とし、合計100点満点で教科の成績を評価する。60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	農学は「いのち」を扱う学問であり、農業は「いのち」を利用させていただく産業です。この授業では、「いのち」を、自然科学、人文・社会科学、医療・看護、食、農業生産、などの様々な視点から、考えていきます。中には、心にとって重い課題も、そうでない課題もあり、また、結論のない、出せない課題も沢山あります。この授業では、このような課題を通じて、「いのち」とは何か、私たちは「いのち」にどう向き合うべきなのかを、皆さんとともに、考えていきたいと思ひます。			
担当者の 研究室等	岩崎 綾乃	薬学部・薬学科	1号館4階	岩崎講師室
	椎名 隆	応用生物科学科	8号館3階	303号室
	喜多 大三	食品栄養学科	8号館2階	225号室
	小保方潤一	応用生物科学科	8号館3階	301号室
備考				

科目名	生物と環境	科目名 (英文)	Life and Environment
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宮寄 英寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1435a2		

授業概要・目的	本講義では、世界の環境問題と生態系の構造を俯瞰的にみることで、それらの基礎知識を習得することを目的とする。加えて、実際に生じている世界の環境問題を様々な事例研究を解説し、地域社会の特徴とそれが抱える諸問題から共通点と相違点についての考察を深めてもらいます。また、グループワークやプレゼンテーションを通じて環境問題の問題発見と解決策を模索します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物（ヒトも含む）と環境とのかかわりを理解し、自ら説明できる。 ・日本だけではなく世界各地域特有の状況から、これからの環境問題のあり様について考えを述べるができる。 ・日々の暮らしの中で生物と環境に関する気づきや発見を得る喜びを持つようになる。
授業方法と留意点	講義は主に PPT や映像を用いておこないます。 受講者によるグループワーク、個別・グループプレゼンテーションなどを実施します。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画、採点方法に関する説明	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
2	基礎知識の習得 1	気候、農業、資源	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
3	基礎知識の習得 2	環境・生態と人々の暮らし	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
4	基礎知識の習得 3	環境問題、生物多様性と生態系サービス	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
5	生物と環境のかかわりを学ぶ 1	西アフリカ、ブルキナファソにおける事例研究から (砂漠化・農牧混交)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
6	生物と環境のかかわりを学ぶ 2	南部アフリカ、ザンビアにおける事例研究から その 1 (レジリアンス・気候変動)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
7	生物と環境のかかわりを学ぶ 3	南部アフリカ、ザンビアにおける事例研究から その 2 (食料安全保障・貧困削減)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
8	生物と環境のかかわりを学ぶ 4	南アジア、インドにおける事例研究から その 1 ラージスターン (気候変動・移動牧畜)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
9	生物と環境のかかわりを学ぶ 5	南アジア、インドにおける事例研究から その 2 タミル・ナドゥ (気候変動・外来生物)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
10	生物と環境のかかわりを学ぶ 6	中東、アラブ首長国連邦における事例研究から (国際労働移動・生計向上)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
11	生物と環境のかかわりを学ぶ 7	東南アジア、ラオス・ミャンマーにおける事例研究から (農村開発・都市開発)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
12	生物と環境のかかわりを学ぶ 8	東南アジア、インドネシアにおける事例研究から (貧困削減・生計向上)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
13	総合討論 1	これからの生物と環境について考えよう (個人あるいはグループ討論)	講義中に出す課題レポート 発表準備
14	総合討論 2	これからの生物と環境について個人あるいはグループ討論成果、発表と議論	講義中に出す課題レポート 発表準備
15	総合討論 3	これからの生物と環境について個人あるいはグループ討論成果、発表と議論	講義中に出す課題レポート 発表準備

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義への参加姿勢 (発言) (30%)、リアクションペーパーと各講義中に出す課題レポート (30%)、グループワークとプレゼンテーション (40%) で評価します。
学生への	

メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	キャリアデザイン I	科目名 (英文)	Career Design I
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OCA1438a2		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。</p> <p>なお、コロナ禍の観点から Teams を用いたリアルタイム型講義を行うが、収束が見込まれた折には対面による講義に戻す可能性もあるので、連絡を確認すること。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (0.5 時間)
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間) 	
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：摂南大として、建学の精神と教育理念を理解すること / 大学の中にある「機会」の活用の仕方について考えること (0.5 時間) ・事後学修：講義で課された課題に取り組むこと (2 時間/継続) 	
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間) 	
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：SDGs とは何かについて予習をしておくこと (0.5 時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと (2 時間) 	
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：社会で求められる人材について考えること (0.5 時間) 	
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間) 	
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間) 	
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間) 	
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間) 	
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間) 	
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間) 	
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (1 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間) 	
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (1 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間) 	
15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること (0.5 時間) ・事後学修：期末レポートを作成すること (1.5 時間) 	

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内活動(30%)、グループ課題(20%)、最終レポート(50%)で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)			
備考	1. 2020年度以前入学の再履修者はこの教室で実施する。 2. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 3. ミニレポートは採点した後に返却する。			

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名 (英文)	Career Design II
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA2439a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	10月11日より対面にて実施。講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・これまでの大学生活で経験したことを思い出ししておくこと(事前:1時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後:0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後:2時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる(事後:0.5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる(0.5時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後1時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後:0.5時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後:0.5時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前:0.5時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑧⑨⑩の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前:1時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる(事前:0.5時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。

学生へのメッセージ 来るべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。

担当者の 研究室等	8号館1階（非常勤講師室）
備考	

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA2440a2		

授業概要・目的	<p>数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講義では基礎から応用力の習得をめざします。</p>
到達目標	<p>授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと</p>
授業方法と留意点	<p>当面はリモートの受講形式となります。(今後は状況により変更の可能性はあります) 初回の授業は Teams の一般チャネルの会議にて授業方法について説明しますので、受講希望者は必ず参加してください。</p> <p>まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようになっていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロ・実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	事後学修：実力テストの復習 30分以上を目安とする
2	計算で解く文章題①	方程式・割合と比：割合と比 (第1, 2章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
3	計算で解く文章題②	割合の応用問題 (第2章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
4	計算で解く文章題③	損益算 (第3章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
5	計算で解く文章題④	速度算 (第4章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
6	計数問題復習	定着問題 (第5章)	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
7	まとめと中間テスト	まとめ 中間テスト	事前学修：今まで学習した全問題の復習 30分～1時間程度を目安とする
8	思考力・応用力が必要な問題①	集合 (第6章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
9	思考力・応用力が必要な問題②	場合の数 (第7章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
10	思考力・応用力が必要な問題③	確率 (第8章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
11	思考力・応用力が必要な問題④	表の読み取り① (第9, 10章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
12	思考力・応用力が必要な問題⑤	表の読み取り② (第10, 11章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
13	思考力・応用力が必要な問題⑥	推論① (第12, 13章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
14	思考力・応用力が必要な問題⑦	推論② (第13, 14章)	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
15	論理問題復習	定着問題 (第15章)	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：テストに出た問題の復習 いずれも30分以上を目安とする

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>厳選！ 数学的リテラシー問題集</td> <td>PS 出版事業部 数学テキスト編集チーム</td> <td>PS 出版事業部</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	厳選！ 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部 数学テキスト編集チーム	PS 出版事業部	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	厳選！ 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部 数学テキスト編集チーム	PS 出版事業部													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	平常点 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%、その他授業態度等により総合的に判断します。
学生への メッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の 研究室等	1F 講師室 (対面の場合)
備考	本人確認のため、メールで連絡する際には大学のアドレスから送信してください。

科目名	海外語学研修	科目名(英文)	Overseas Language Training
学部	農学部	学科	農業生産学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	カーティス チュウ・鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2413c2		

<p>授業概要・目的</p>	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>																
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC(英語の場合)の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。 ・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。 <p>※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。</p>																
<p>授業方法と留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 ・年度末にあたる2~3月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。 																
<p>授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題</p>	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会~事前授業~現地派遣~事後授業のサイクルが、年間2回実施される。()内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2~3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集説明会：4月中旬(9月下旬~10月上旬) ・事前授業10回：6月中下旬~7月下旬(11月~2月) ・現地派遣：2週間程度 8月中旬~9月上旬(2月中下旬~3月下旬) ・事後授業5回(成果報告会含む)：9月~10月中旬(3月~4月下旬) <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2~3月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地が必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとつての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>																
<p>関連科目</p>	<p>グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど</p>																
<p>教科書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
<p>参考書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2							
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	

	3		
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)		
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。		
担当者の 研究室等 備考	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は2号館2階グローバル教育センター(旧：国際交流センター)まで		